

目次

はじめに	5
警告表示について	6
安全上のご注意	6
リサイクルについて	8
有寿命部品と消耗品について	9
お問い合わせ先	10
本書の表記	11
商標および著作権について	12

第 1 章 FMHD-30LR/16LR3 について

1 FMHD-30LR/16LR3 の機能	14
本装置の機能	14
2 パッケージ内容	17
3 システムの必要条件	18
4 FMHD-30LR/16LR3 のコネクタとスイッチ	19
背面パネル	19
前面パネル (LED)	21
ブザー	23

第 2 章 設置と初期設定

1 FMHD-30LR/16LR3 の設置	26
2 セットアップ手順	27
ソフトウェアのインストール	27
NetworkHDD Setup ユーティリティの使用によるセットアップ	27

第 3 章 運用と管理

1 概要	32
操作全体の流れ	32
2 Web Setup ユーティリティ	33
FMHD-30LR/16LR3 への接続	33
3 Web Setup ユーティリティのメニュー	36
[システム] [ステータス] [認証設定] [共有設定] [ユーティリティ]	36
設定項目概要	36
4 Web Setup ユーティリティの項目	40
システム設定	40
システム設定 - 「システム設定」	40
システム設定 - 「TCP/IP 設定」	41
システム設定 - 「Microsoft ネットワーク設定」	44
システム設定 - 「FTP 設定」	45

システム設定 - 「E-Mail 通知」	46
システム設定 - 「電源管理」	48
システム設定 - 「NTP 設定」	50
システム設定 - 「SNMP 設定」	51
システム設定 - 「UPS 設定」	52
ステータス	54
ステータス - 「ディスク情報」	55
ステータス - 「システム情報」	57
ステータス - 「接続情報」	60
ステータス - 「ジョブ実行情報」	62
認証設定	63
認証設定 - 「認証選択」	63
認証設定 - 「NT ドメイン認証」	65
認証設定 - 「AD 認証」	69
共有設定	80
共有設定 - 「グループ設定」	80
共有設定 - 「アカウント設定」	83
共有設定 - 「共有フォルダ設定」	86
共有設定 - 「GUEST 設定」	90
共有設定 - 「共有設定リスト」	91
ユーティリティ	91
ユーティリティ - 「ディスク」	92
ユーティリティ - 「アップグレード」	94
ユーティリティ - 「設定バックアップ」	95
ユーティリティ - 「インポート」	96
ユーティリティ - 「データバックアップ」	97
ユーティリティ - 「圧縮データリストア」	98
ユーティリティ - 「診断」	99
5 RAID サブシステムの保守	100
ハードディスクの故障	100
ハードディスクの交換	100
RAID の機能について	104
6 活用例	106
初期設定のまま使用する	106
各々のアカウントのみが利用可能な専用フォルダを作成して運用する	107
複数のアカウントをグループ管理して、専用のフォルダを作成し、 グループごとに運用する	109
共有フォルダ・アカウント・グループの関係	116

第4章 装置のバックアップ

1 データのバックアップ	118
2 設定情報のバックアップ	119
3 スケジュールによるバックアップ	122
設定例	129

4 圧縮バックアップデータのリストア	132
第 5 章 ユーザの環境設定	
1 アカウントパスワードの変更	136
2 共有フォルダ／ファイルの参照	138
3 ディスクの使用	140
第 6 章 装置廃棄時のデータ消去	
第 7 章 ディスクの初期化	
第 8 章 トラブルシューティングと FAQ	
第 9 章 付録	
1 装置仕様	154
2 ソフトウェア仕様	155
3 LCD パネル表示メッセージ一覧	157
4 フォルダ名 / ファイル名の文字制限	167
5 システムログ、E-Mail 通知、および SNMP トラップ メッセージ一覧 168	
索引	175

Memo

はじめに

このたびは、弊社のハードディスクユニット (FMHD-30LR/16LR3) (以降、本装置) をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

このマニュアルは、本装置をお使いになられる方に、本装置の正しい操作および取り扱い方をご理解いただくために書かれています。

万一不備な点がございましたら、おそれいりますが、ご購入元にご連絡ください。

2007 年 4 月

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本装置を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。

本装置をお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本装置をお使いください。

また、このマニュアルは、本装置の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

保証書について

- 保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
- 修理を依頼される場合には、必ず保証書をご用意ください。
- 保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
- 保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください（詳しくは、保証書をご覧ください）。
- 修理後は、本製品の内容が修理前とは異なり、ご購入時の状態や、何も入っていない状態になっている場合があります。大切なデータは、バックアップをとって保管しておいてください。
- 本装置の補修用性能部品（性能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造終了後 5 年間です。

VCCI適合基準について

本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）基準に基づくクラス B 情報技術装置です。本製品は家庭環境で使用することを目的としていますが、本製品がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って、正しい取り扱いをしてください。

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。

お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。

ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

- 原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など

瞬時電圧低下について

本製品は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じことがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

(社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

データのバックアップについて

本製品に記録されたデータ（基本ソフト、アプリケーションソフトも含む）の保全については、お客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。また、修理を依頼される場合も、データの保全については保証されませんので、事前にお客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。

データが失われた場合でも、保証書の記載事項以外は、弊社ではいかなる理由においても、それに伴う損害やデータの保全・修復などの責任を一切負いかねますのでご了承ください。

24 時間以上の連続使用について

本製品は、24 時間以上の連続使用を前提とした設計にはなっておりません。

警告表示について

このマニュアルでは、いろいろな絵表示を使っています。これは本装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	○で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

安全上のご注意

本装置を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本装置をお使いになる前に、必ずお読みになり、正しく安全に、大切に取り扱ってください。

また、本装置をお使いになるときは、マニュアルをよくお読みになり、正しくお使いください。

■ 異常や故障のとき

警告

-  ● 本装置の内部に水などの液体や金属片などの異物が入った場合は、すぐに本装置の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
その後、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
-  ● 本装置をお客様ご自身で分解したり、改造したりしないでください。
感電・火災の原因となります。修理や点検などが必要な場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

■ 設置されるとき

△ 警告



- 電源プラグは、壁のコンセント (AC100V) に直接かつ確実に接続してください。また、タコ足配線をしないでください。
感電・火災の原因となります。
- 矩形波が出力される機器 (UPS (無停電電源装置) や車載用 AC 電源等) に接続しないでください。
火災の原因となることがあります。
-  添付もしくは指定された以外の電源ケーブルを本装置に使ったり、本装置に添付の電源ケーブルを他の製品に使ったりしないでください。
感電・火災の原因となります。
-  本装置を風呂場やシャワー室など、水のかかるおそれのある場所で使用したり、置いたりしないでください。
感電・火災の原因となります。
-  振動している場所や傾いたところなどの不安定な場所に置かないでください。
本装置が倒れたり、落下して、けがの原因となります。

△ 注意



- 本装置を調理台や加湿器のそば、ほこりの多い場所などで使用したり、置いたりしないでください。
感電・火災の原因となることがあります。
-  本装置を直射日光があたる場所、閉めきった自動車内、ストーブのような暖房器具のそばで使用したり、置いたりしないでください。
感電・火災の原因となることがあります。また、破損や故障の原因となることがあります。
-  本装置を移動、接続する時は、電源スイッチを切ってください。
電源を入れたまま移動、接続すると、感電・故障の原因となります。ただし、本装置がアクセス中の場合は、電源を切らないでください。

■ ご使用になるとき

△ 警告



- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。
重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、感電・火災の原因となります。
修理は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
-  電源プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。
電源ケーブルを引っ張ると、電源ケーブルの芯線が露出したり断線したりして、感電・火災の原因となることがあります。
-  濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。



- 本装置の上や周りに、花びん・コップなど液体の入ったものを置かないでください。
水などの液体が本装置の内部に入って、感電・火災の原因となります。

△注意



- 本装置の上に重いものを置かないでください。
故障・けがの原因となります。

■ お手入れについて

△注意



- 化学薬品でお手入れをしないでください。
変質したり、塗装などがはげる場合があります。科学ぞうきんを使用するときは、その注意書きにしたがってください。

リサイクルについて

■ 本装置の廃棄について

本装置を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

□ 法人・企業のお客様へ

本装置の廃棄については、弊社ホームページ「IT 製品の処分・リサイクル」(<http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/products/recycle/recycleindex.html>) をご覧ください。

□ 個人のお客様へ

本装置を廃棄する場合は、必ず弊社専用受付窓口「富士通パソコンリサイクル受付センター」をご利用ください。

詳しくは、「富士通パソコンリサイクル受付センター」のホームページ (<http://azby.fmworld.net/recycle/>) をご覧ください。

■ データの漏洩防止について

本装置を使用していた状態のまま廃棄すると、ハードディスク内の情報を第三者に見られてしまう恐れがあります。廃棄するときは、すべてのドライブのデータを削除することをお勧めします。

ただし、ファイルを削除しただけでは、悪意を持った第三者によってデータが復元される可能性があります。機密情報や見られたくない情報を保存していた場合には、復元されないようにすることをお勧めします。

本装置には、データを消去する機能が添付されています。詳しくは、「第 6 章 装置廃棄時のデータ消去」をご覧ください。また、弊社では、法人・企業のお客様向けに、専門スタッフがお客様のもとへお伺いし、短時間でデータを消去する、「データ消去サービス」をご用意しております。詳しくは、本装置購入先の担当営業または「データ消去サービス」(http://seggroup.fujitsu.com/fs/services/h_elimination/) までお問い合わせください。

なお、法人・企業以外のお客様はご利用できません。

超高度な技術によるデータの読み出しを 100% 防ぐことはできません。

有寿命部品と消耗品について

■ 有寿命部品について

- 本製品には、有寿命部品が含まれています。有寿命部品は、使用時間の経過に伴って摩耗、劣化などが進行し、動作が不安定になる場合がありますので、本製品をより長く安定してお使いいただくためには、一定の期間で交換が必要となります。
- 有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境などにより異なりますが、1日約8時間のご使用で約5年です。なお、この期間はあくまでも目安であり、この期間内に故障しないことをお約束するものではありません。また、長時間連続使用など、ご使用状態によっては、この目安の期間よりも早期に部品交換が必要となる場合があります。
- 本製品に使用しているアルミ電解コンデンサは、寿命が尽きた状態で使用し続けると、電解液の漏れや枯渇が生じ、異臭の発生や発煙の原因となる場合がありますので、早期の交換をお勧めします。
- 摩耗や劣化などにより有寿命部品を交換する場合は、保証期間内であっても有料となります。なお、有寿命部品の交換は、当社の定める補修用性能部品単位での修理による交換となります。
- 本製品をより長く安定してお使いいただくために、省電力機能の使用をお勧めします。また、一定時間お使いにならない場合は電源をお切りください。

主な有寿命部品一覧

ハードディスク ドライブ、電源ユニット、ファン

お問い合わせ先

本製品のご使用に際して何か困ったことが起きた場合は、ご購入元にご確認いただくか、次のお問い合わせ先にご相談ください。

■ 故障・修理に関するお問い合わせ先

□ 法人のお客様

- 「富士通ハードウェア修理相談センター」
 - ・通話料無料 0120-422-297
 - ・お問い合わせ時間 9:00 ~ 17:00 (土曜、日曜、祝日および年末年始を除く)

□ 個人のお客様

- 富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口
 - ・通話料無料 0120-950-222
 - ・お問い合わせ時間 24時間・365日対応

■ 技術的なご質問、ご相談のお問い合わせ先

- 「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」
 - ・通話料無料 0120-950-222
 - ・お問い合わせ時間 9:00 ~ 17:00 (土曜、日曜、祝日を除く)
- おかげ間違いのないよう、ご注意ください。
- 各窓口ともダイヤル後、音声ガイダンスに従い、ボタン操作を行ってください。お客様の相談内容によって、各窓口へご案内いたします。
- システムメンテナンスのため、お問い合わせ時間であっても受け付けを休止させていただく場合があります。

本書の表記

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例 : 【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつなないで表記しています。

例 : 【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例 : 「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ 製品の呼び方

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記	
Microsoft® Windows Vista™ Business	Windows Vista Business	Windows
Microsoft® Windows Vista™ Home Premium	Windows Vista Home Premium	
Microsoft® Windows Vista™ Home Basic	Windows Vista Home Basic	
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP Professional	
Microsoft® Windows® XP Home Edition	Windows XP Home Edition	
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000	
Microsoft® Windows® Millennium Edition	Windows Me	
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0	Windows NT Workstation 4.0	
Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition	Windows Server 2003	
Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition		
Microsoft® Windows® 2000 Server	Windows 2000 Server	
Microsoft® Windows NT® Server 4.0	Windows NT Server 4.0	

■ お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先やインターネットの URL アドレスは 2007 年 4 月現在のものです。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください (→ P.10)。

商標および著作権について

Microsoft、Windows、Windows NT、Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国および他の国における登録商標または商標です。

PowerNet は American Power Conversion Corp の登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2006-2007

第1章

FMHD-30LR/16LR3について

1	FMHD-30LR/16LR3の機能	14
2	パッケージ内容	17
3	システムの必要条件	18
4	FMHD-30LR/16LR3のコネクタとスイッチ	19

1 FMHD-30LR/16LR3 の機能

FMHD-30LR/16LR3 (以下、本装置) では、複数の LAN ユーザが本装置に格納されたデータを共有できます。本装置は、Windows をサポートしています。



本装置の機能

□ 簡単な LAN の接続 (10Base-T/100Base-TX/1000Base-T)

10Base-T/100Base-TX/1000Base-T 自動識別の LAN 接続機能により、面倒なディップスイッチの設定は必要ありません。

□ Windows のサポート

クライアントには、次の Microsoft Windows PC をサポートしています。

- Windows Vista Business
- Windows Vista Home Premium
- Windows Vista Home Basic
- Windows XP Professional
- Windows XP Home Edition
- Windows 2000 Professional
- Windows Me
- Windows NT Workstation 4.0
- Windows Server 2003
- Windows 2000 Server
- Windows NT Server4.0

□ OS ツールを使用したファイル管理

お使いのコンピュータから本装置にアクセスできるようになると、OS が提供する使い慣れたツールを使用してフォルダやファイルを管理できます。例えば、本装置を追加された 1 台のドライブとして、Windows エクスプローラやマイコンピュータから参照できます。

□ DHCP クライアントのサポート

DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバーは、クライアントからの要求により、コンピュータや他のホストに対して動的に IP アドレスを提供します。要求元ホストは、DHCP クライアントと呼ばれます。本装置は、DHCP クライアントとして使用できます。

□ 複数セグメントの LAN のサポート

ルータがある場合、他の LAN セグメント上のコンピュータからも本装置を使用できます。

□簡単なセットアップ

本装置を簡単に設定できる NetworkHDD Setup ユーティリティを用意しています。

□管理者による管理、運用

管理者は、次のように本装置を管理、運用できます。

アカウント : 各アカウントは、それぞれにパスワードを持ち、本装置へアクセス可能です。

グループ : グループは、アカウントで構成されます。アカウントは、複数のグループに所属できます。

共有フォルダ : 共有フォルダは、アカウント / グループがアクセスできる本装置上のフォルダ (ディレクトリ) です。管理者のみが共有フォルダを作成できます (アカウントは共有フォルダ内のフォルダを作成できます)。

アクセス権 : 共有フォルダへのアクセスは、「読み取り専用 :Read-only」または「読み書き :Read-Write」です。管理者は、すべてのアカウントグループの共有フォルダへのアクセスを禁止することもできます。管理作業を軽減するため、共有フォルダへのアクセスは個々のアカウント単位ではなく、グループ単位に設定します。

リモート管理 : 管理者は、Web ブラウザを使用して本装置を管理できます。

□データバックアップ機能 (→ P.122)

データをスケジュール (毎日、毎特定曜日) 管理により、自動でバックアップすることが可能です。

バックアップ方向には以下の 2 種類があります。

セルフバックアップ : 本装置→対象装置 (本装置からバックアップ先の装置へバックアップ)

クライアントバックアップ: 本装置←対象装置 (バックアップ元の装置から本装置へバックアップ)

バックアップモードには以下の 3 種類のモードがあります。

フルバックアップ : バックアップ元の共有内のデータをバックアップ先へコピーします。バックアップ先に同名のファイルやフォルダが存在する場合には全て上書きされます。

差分バックアップ : バックアップ元の共有内のデータをバックアップ先へコピーします。バックアップ先に同名のファイルやフォルダが存在する場合にはバックアップ元ファイルの方が新しい場合に限り上書きされます。

拡張差分バックアップ : 「差分バックアップ」に加え、バックアップ元に存在しないファイルがバックアップ先に存在する場合には、バックアップ先ファイルを削除します。

データの圧縮 : バックアップデータを圧縮します。

注) フルバックアップは負荷軽減のため、スケジュールできません。

バックアップ元およびバックアップ先は、LAN上の他のコンピュータやハードディスクユニットにすることができます。

□ データ消去機能 (→ P.142)

本装置のデータを消去する機能により廃棄時のデータ流出を防ぐことが可能です。

注) 超高度な技術によるデータの読み出しを 100% 防ぐことはできません。

□ 認証選択 (→ P.63)

ドメインサーバーからアカウントリストを取得することができます。

認証はドメインサーバーで行います。認証を行うドメインサーバーは、Microsoft Windows Server (Windows Server 2003、Windows 2000 Server、Windows NT server4.0) をサポートしています。

□ アカウントデータインポート機能 (→ P.96)

CSV 形式で作成したアカウントリスト (アカウント名およびパスワードリスト) を本装置にインポートすることができます。

□ ディスクの初期化 (→ P.146)

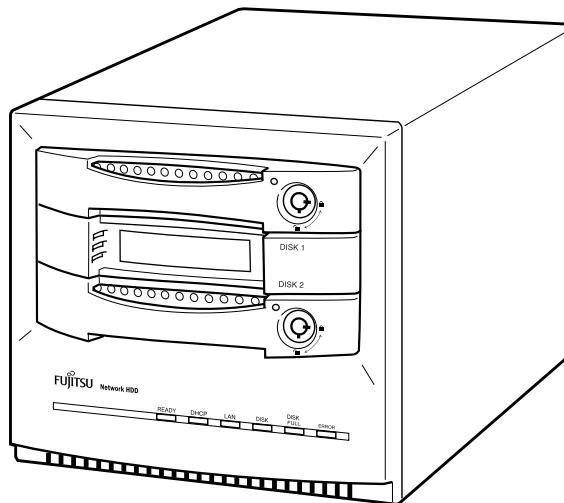
本装置のディスクの初期化を行ない、装置をご購入時の状態に戻します。

□ アクセス権限のないアカウントに対してフォルダの非表示 (→ P.88)

共有フォルダを、アクセス権限のないユーザに対して表示させないようにすることができます。

□ SNMP プロトコルサポート (→ P.51)

管理ソフトにより集中監視できます。



□ UPS との連携 (→ P.52)

UPS の状態を確認、監視します。

□ アクセスログ (→ P.58)

FTP および共有を使用したファイルアクセスの記録がとれます。

2 パッケージ内容

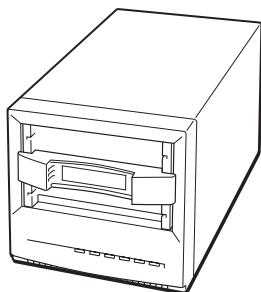
本装置の同梱品は、次のとおりです。パッケージの内容をご確認ください。

- ・ FMHD-30LR または、FMHD-16LR3 本体 (スペアディスクを除く。)
 - ・ スペアディスク (FMHDC-30LR (FMHD-30LR 専用) または、FMHDC16LR3 (FMHD-16LR3 専用) と同等品) (2 台)
 - ・ 電源ケーブル
 - ・ CD-ROM
- CD-ROM には、取扱説明書のオンライン版と NetworkHDD Setup ユーティリティが含まれています。
- ・ 鍵 (2 個)
 - ・ 取扱説明書
 - ・ 保証書

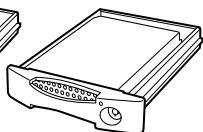
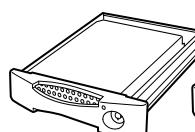
上記の同梱品のいずれかが破損または不足している場合は、ご購入元にご連絡ください。



鍵 (2 個)



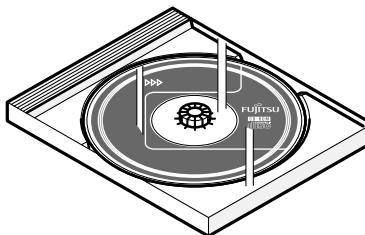
本体



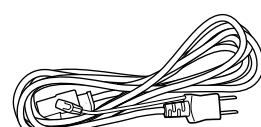
スペアディスク (2 台)



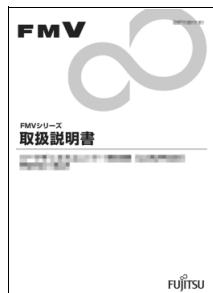
保証書



CD-ROM



電源ケーブル



取扱説明書

3 システムの必要条件

□ インタフェース

- 10Base-T、100Base-TX、1000Base-T を使用するイーサネットワーク

□ ネットワークプロトコル

- TCP/IP (SMB/CIFS) プロトコル、FTP

□ 対応クライアント OS

- Windows Vista (Business/Home Premium/Home Basic)、Windows XP SP2 (Home Edition / Professional)、Windows 2000 SP4 (Professional/Server)、Windows Me、Windows NT SP6 (Workstation 4.0/Server 4.0)、Windows Server 2003 SP1

POINT

- ▶ マルチ CPU には対応していません。

□ WebSetup ユーティリティを使用する場合のブラウザ条件

- 対応ブラウザ

Internet Explorer 7.0、Internet Explorer 6.0SP2、Internet Explorer 6.0SP1、Internet Explorer 5.5SP2

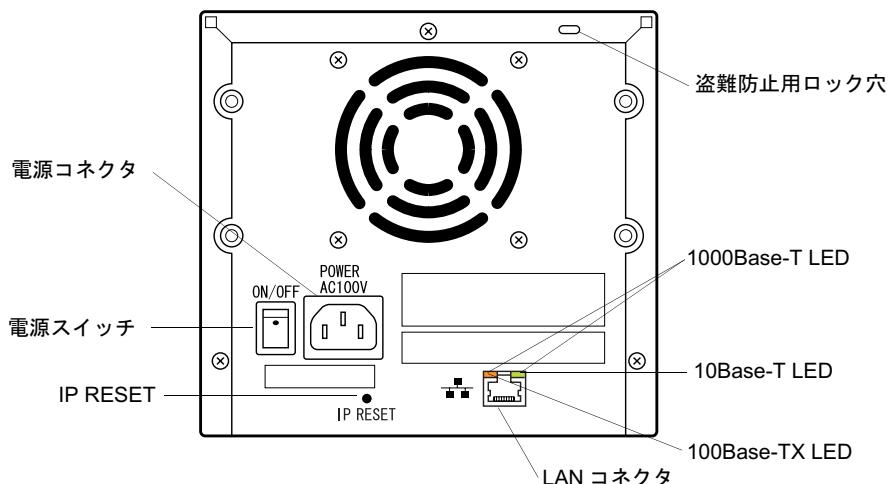
※ 重要

- ▶ Web ブラウザは、Java Script 1.1 をサポートしていなければなりません。

4 FMHD-30LR/16LR3 のコネクタとスイッチ

本装置のすべてのコネクタとスイッチは、背面パネルにあります。

背面パネル



電源コネクタ

：付属の電源ケーブルを接続します。

電源スイッチ

：オフのときは、一度押すとオンになります。手を離すと元の位置に戻ります。
オンのときは、一度押すと本装置のシャットダウンが始まります。
シャットダウン中は、READY LED が点滅します。

POINT

- ▶ システムが応答しなくなりシャットダウンできない場合は、4 秒以上押したままにすると電源をオフにすることができます。
- ▶ 電源をオフにした直後にオンにする場合は、4 秒以上経過してからオンにしてください。

IP RESET

：IP RESET を 1 回押すと、ピッと短い音が鳴り、設定されている IP アドレスが初期化され、デフォルトの DHCP クライアントとして IP アドレスを取得する状態に戻ります (DHCP から取得できなかった場合、IP アドレスは 192.168.0.2 になります)。

POINT

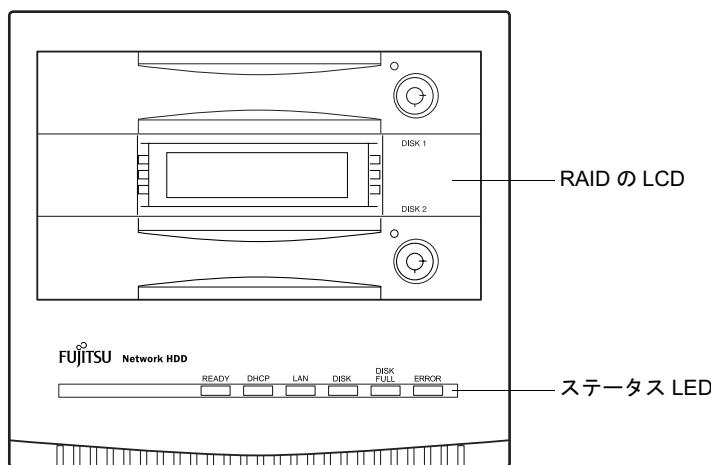
- ▶ IP RESET は、電源オンで READY ランプが点灯している状態のときに使用してください。
システム起動中や、シャットダウン中には押さないでください。

☞ 重要

- ▶ IP RESET を押すと、設定されていた IP アドレスは消去されますので、取扱いにはご注意ください。IP RESET を押しても装置情報がデフォルトの設定になりません。

- LAN コネクタ : このコネクタを使用し、お使いの 10Base-T、100Base-TX または、1000Base-T の PC の LAN ポートやハブに本装置を接続します。
また、クロスケーブルとストレートケーブルを自動的に判別して接続します。
- LED : LAN コネクタで 1000Base-T を使用している場合に橙色及び緑色両方の LED が点灯します。
LAN コネクタで 100Base-TX を使用している場合に橙色の LED が点灯します。
LAN コネクタで 10Base-T を使用している場合に緑色の LED が点灯します。
- 盗難防止用ロック穴 : 盗難防止用ワイヤーを取り付けてください。

前面パネル (LED)



□ RAID の LCD

本装置の前面パネルのスペアディスクの間に、RAID のステータス表示を行う LCD パネルがあります。表示画面は上下 2 段になっています。

上側のスペアディスクを DISK1、下側のスペアディスクを DISK2 と表示します。

ステータスマッセージおよび説明の一覧は、「5 RAID サブシステムの保守 (→ P.100)」を参照してください。

□ ステータス LED

本装置の前面パネルには、次の 6 個のステータス LED があります。

READY (緑色) : 通常は点灯です。

起動時とシャットダウン時に点滅し、シャットダウンが完了すると消灯します。

DHCP (緑色) : 本装置がDHCPクライアントとして動作しているときに点灯します。

本装置がDHCPクライアントとしてIPアドレスの取得ができなかった場合、もしくは、固定でIPアドレスを設定している場合、消灯します (IPアドレスの取得ができなかった場合は、IPアドレスは192.168.0.2が設定されます)。

本装置のIPアドレスが、他の機器と重複している場合、点滅します (IPアドレスが重複した場合は、本装置とPCを直結してNetworkHDD Setupユーティリティで、IPアドレスの変更を行ってください)。

POINT

本装置 (Network HDD シリーズ) どうしの IP アドレスが重複している場合は、IP アドレスの重複を検出できません。

LAN (緑色) : 通常動作時、データが LAN 経由で転送または受信されたときに点灯します。

DISK (緑色) : 本装置にアクセス (読み取りまたは書き込み) があるときに点灯します (起動時はしばらく点灯したままになります)。

- DISK FULL : 通常は消灯です。
(橙色) ハードディスクの使用率が 98% を超えると点滅します。
空きハードディスク容量がなくなると点灯します。
なお、ハードディスク容量のチェックは、起動時と 1 日 3 回 (0 時、8 時、16 時) 行われます。
- ERROR (橙色) : 通常は消灯です。
自己診断時に点灯します。自己診断が完了すると消灯します。
ソフトウェアのアップグレード中は、READY LED と ERROR LED がともに点滅します。

各ステータス LED の表示組み合わせによる装置の状態は、次の表のとおりです。

状態	READY	DISK FULL	ERROR	備考
起動失敗	点灯	点灯	点灯	強制電源断 (電源スイッチ 4秒長押し) 後、再起動してください。
起動時ファイルシステムチェック	点滅	点灯	点灯	異常終了後の起動ではチェックに数時間かかる場合があります。
正常起動	点灯	消灯	消灯	
シャットダウン中	点滅	消灯	消灯	
スキャンディスク中	点滅	点滅	消灯	
データバックアップ中	点灯	消灯	消灯	データバックアップ中は、データアクセス時に DISK ランプが点滅します。
データ消去中	点滅	消灯	点滅	
アップグレード中	点滅	消灯	点滅	
ディスク使用領域 98% 以上	点灯	点滅	消灯	このまま使用し続けると空き容量がなくなり使用できなくなります。不要なファイルを削除するか他の装置に移動してください。 ディスク使用領域が 98% 以上の状態になると、アカウントの追加、グループの追加などの設定情報が更新できなくなります。
ディスク使用領域飽和	点灯	点灯	消灯	空き容量がなくなり使用できなくなります。不要なファイルを削除するか他の装置に移動してください。

重要

- ▶ ERROR LED が点灯したままの状態が続く場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元へご連絡ください。

ブザー

ブザーは、次のように鳴動します。

- 1回 : 電源スイッチが押されたときに鳴ります。
- 2回 (5秒おきに4回繰り返し) : 本装置は、DHCP クライアント設定でご使用の場合に、DHCP サーバーがこの DHCP クライアントの要求に応答しない場合に鳴ります。
- 3回(15秒おきに3分間繰り返し) : ハードディスクの使用量が 98% を超えると鳴ります。
- 連続 (ピー、ピー、...) : どちらか一方のハードディスクに異常があった場合に、ブザーが鳴り続けます。
スペアディスクの電源を OFF にするとブザーは止まります。または、「ユーティリティ」—「ディスク」の「ただちにブザーを止める」をクリックするとブザーは止まります。ただし、リビルディング中はスペアディスクの電源を OFF にしないでください。

Memo

第2章

設置と初期設定

2

1 FMHD-30LR/16LR3 の設置	26
2 セットアップ手順	27

1 FMHD-30LR/16LR3 の設置

1 スペアディスクをセットします。

- スペアディスク 2 台の鍵穴を右側にして、本体のスロットへ差し込みます。
- 鍵をロックします。

2 LAN ケーブルを接続します。

- LAN ケーブルで、本装置をお使いのコンピュータまたはハブに接続します。富士通 製別売カテゴリ 5 ツイストペアケーブルまたは、エンハンスドカテゴリ 5 ツイストペアケーブルをお使いください。
- 本装置は、10Base-T と 100Base-TX と 1000Base-T、全二重と半二重を自動的に認識します。また、クロスケーブルとストレートケーブルを自動的に判別して接続します。

重要

- ▶ LAN ケーブルを接続するときは、必ず本装置の電源を切ってください。電源を切らずに接続すると、故障の原因となります。

3 電源を接続します。

- 付属の電源ケーブルを使用し、電源コンセントに接続します。

重要

- ▶ 電源プラグをコンセントに繋ぐ前に、必ずアースを接続してください。また、アースを外すときは、先に電源プラグをコンセントから抜いてください。
感電・火災の原因となることがあります。

- 背面の電源スイッチをオンにします（スイッチを一度押して手を離します）。

4 起動プロセスをチェックします（通常は約 60 秒で起動します）。

- 電源投入直後、RAID の LCD パネルに「Welcome RAID」「Vx.xx.xx」が表示され、次に LCD 表示部が「DISK1:OK」「DISK2:OK」に変わり、スペアディスク 2 台の LED ランプが点灯します。
- 自己診断中（2～3秒）に READY、ERROR、DISK FULL の各 LED が点灯します。
- 次に、本装置の起動中に READY LED が点滅し、DISK FULL LED と ERROR LED が点灯します。
- 起動プロセスが完了すると、READY LED が点灯、ERROR LED が消灯します。

POINT

- ▶ 停電や強制的な電源切断後の起動の場合や、起動時スキャンディスクが有効になっている場合にはディスクチェックを行うため、起動時に時間がかかることがあります。また、初期状態では IP アドレスは DHCP サーバーから取得する設定のため、ネットワーク上に DHCP サーバーが存在しない場合には、起動に約 100 秒かかります。
- ▶ DHCP サーバーが存在しない場合には、IP アドレスはデフォルト値の 192.168.0.2 に設定されます。

2 セットアップ手順

基本的な操作の場合、次の手順で設定が完了します。

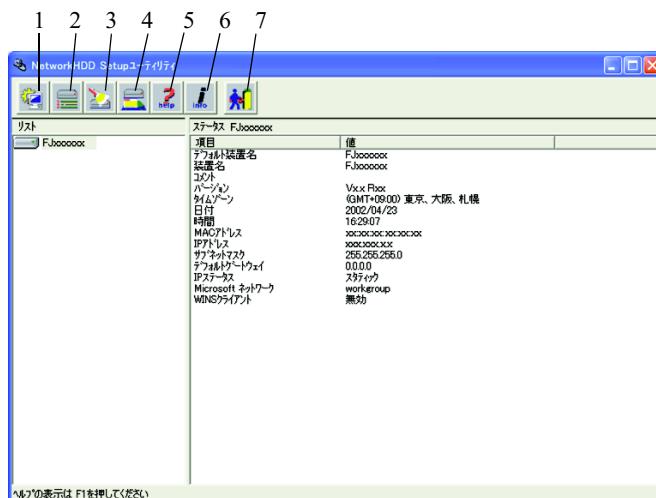
本装置の管理の詳細な設定に関しては、「第3章 運用と管理」(→ P.31) を参照してください。

ソフトウェアのインストール

- 1 お使いのコンピュータの CD-ROM ドライブに付属 CD-ROM を挿入します。
 - 2 NetworkHDD Setup ユーティリティのインストーラーが自動的に起動します。
(NetworkHDD Setup ユーティリティが自動的に起動しない場合は、ルートディレクトリの SETUP.EXE を実行します。)
 - 3 画面に従い、NetworkHDD Setup ユーティリティをインストールします。

NetworkHDD Setup ユーティリティの使用によるセットアップ

- 1 プログラムを起動します。
デフォルトインストールの場合、[スタート] → [プログラム] → [NetworkHDD] → [NetworkHDD Setup ユーティリティ] を実行します。
 - 2 画面が次の例のように表示されます。
左側のパネルにすべての本装置の装置名が一覧表示されます。右側のパネルには、現在選択されている装置の情報が表示されます（本装置の装置名が一覧表示されない場合は、「第8章 トラブルシューティングとFAQ（→ P.149）」を参照してください）。



1. 基本設定 : 本装置の基本設定を行います。装置名、IP アドレスの設定など、基本的な設定を行うことができます。
2. リフレッシュ : 再度検索し、ネットワーク上のすべての本装置を表示します。
3. 検索 : リストにない本装置を検索します。この機能は、ルータが設置されていて、LAN 内に複数のセグメントが存在するネットワーク用に用意されています。
4. 管理 (Web ブラウザ) : Web ブラウザを起動し、本装置の詳細設定を行うことができます。
5. ヘルプトピックの表示 : ヘルプを表示します。
6. バージョン情報 : バージョン情報 (NetworkHDD Setup ユーティリティのバージョン) を表示します。
7. 終了 : このアプリケーションを終了します。

3 左側のパネルでセットアップする本装置の装置名が選択されていることを確認し、1. の [基本設定] アイコンをクリックします。

4 設定画面が次のように表示されます。



5 この画面で次のように設定します。

● 装置関連

装置名 : 現在の装置名が表示されています。必要に応じてこれを変更できます。

重要

- ▶ 同一ネットワーク内に同じ名前の装置名を使わないでください。

コメント : コメント (本装置の場所など) はオプションです。

タイムゾーン : 一覧からタイムゾーンを選択します。

日付 / 時間 : 日付と時間を入力します。

● TCP/IP 関連

自動的に IP アドレス を取得する (DHCP クライアント) : LAN 内に DHCP サーバーがある場合は、この設定を有効にできます。これにより本装置は、DHCP サーバーから IP アドレスを取得します。LAN 内に DHCP サーバーがない場合は [IP アドレスを指定する] を選択してください。

IP アドレスを指定する : このオプションを選択して IP アドレスを入力します。

IP アドレス : LAN 内のホストが使用できる IP アドレスの範囲の中から、自由に IP アドレスを入力します。本装置のデフォルト IP アドレスは、192.168.0.2 です。

サブネットマスク : LAN 内の他のホストと同じ値を使用します。本装置のデフォルト値は、255.255.255.0 です。

ゲートウェイ : LAN 内の他のホストと同じ値を使用します。ルータまたはインターネットゲートウェイがない場合は、ここはデフォルト値 (空白) のままとします。

簡易 DHCP サーバーを有効にする : 簡易 DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバー機能を有効にする場合に設定を行います。簡易 DHCP サーバー機能は、IP アドレスや関連情報をコンピュータやその他のデバイスへ提供します。この機能を使用することで、同一サブネット内に接続されるネットワーク機器のネットワーク設定を省略することができます。

開始 IP アドレス : 簡易 DHCP サーバーが提供する開始 IP アドレスを指定します。

終了 IP アドレス : 簡易 DHCP サーバーが提供する最後の IP アドレスを指定します。

● Microsoft ネットワーク関連

ワークグループ名 : 通常このワークグループ名は、LAN 内のコンピュータが使用するワークグループ名と同じになります。

WINS を有効にする : LAN に WINS (Windows Internet Name Service) サーバーがある場合、チェックします。

WINS サーバー : WINS サーバーの IP アドレスを入力します。通常は Windows NT Server が動作するシステムです。

6 [OK] ボタンをクリックして設定を保存し、NetworkHDD Setup ユーティリティを終了します。本装置はこれで動作します。

7 アカウントの作成、共有フォルダの作成には Web ブラウザベースの Web Setup ユーティリティを使用します。これは NetworkHDD Setup ユーティリティのメイン画面の 4. の [管理 (Web ブラウザ)] ボタンで起動できます。Web Setup ユーティリティについては「第 3 章 運用と管理」(→ P.31) を参照してください。

Memo

第3章

運用と管理

3

1 概要	32
2 Web Setup ユーティリティ	33
3 Web Setup ユーティリティのメニュー	36
4 Web Setup ユーティリティの項目	40
5 RAID サブシステムの保守	100
6 活用例	106

1 概要

管理者は、アカウント、グループ、共有フォルダを作成、管理することで、本装置の利用を管理できます。

アカウント : アカウントは、本装置を利用できるユーザです。

グループ : グループは、アカウントで編成されます。アカウントは、複数のグループに所属できます。

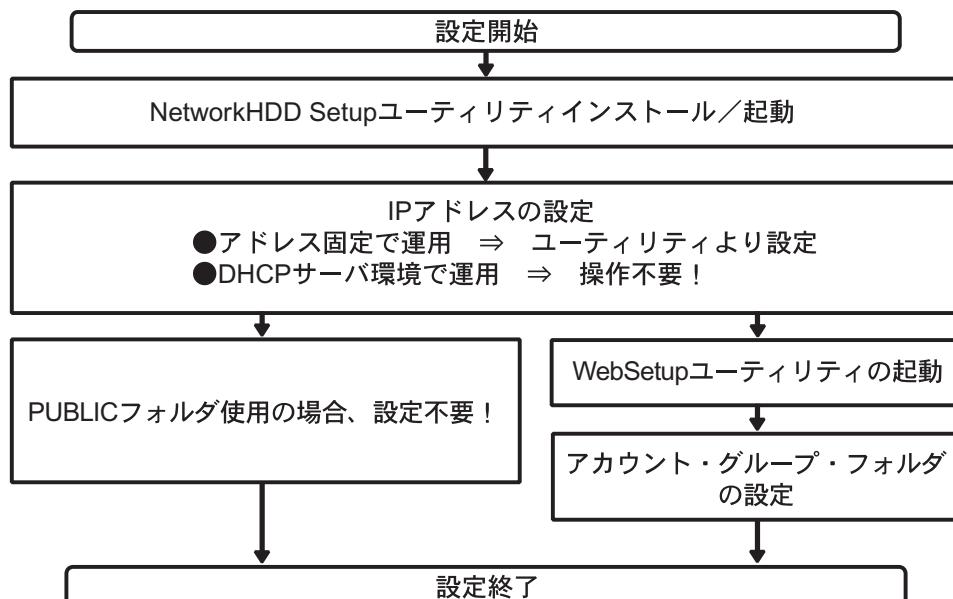
共有フォルダ : 共有フォルダは、アカウント / グループが読み書きできる本装置のフォルダ (ディレクトリ) です。管理者のみが共有フォルダを作成できます。共有フォルダ内では、その共有フォルダへ読み書きできるアカウントであれば他のフォルダ (ディレクトリ) やファイルを作成できます。

アクセス権 : 共有フォルダへのアクセスは、「読み取り専用 :Read-only」または「読み書き :Read-Write」です。管理作業を軽減するため、共有フォルダへのアクセスは個々のアカウント単位ではなく、グループ単位に設定できます。

共有フォルダには1つのグループからのみアクセスできますが、グループは複数の共有フォルダにアクセス可能です。

admin アカウントや administrator グループまたは subadministrator グループに追加された他のアカウントは、常にすべての共有フォルダとフォルダに対する「読み書き :Read-Write」のアクセスが可能です。

操作全体の流れ



2 Web Setup ユーティリティ



アカウントの作成、管理は、Web ブラウザを使用した Web Setup ユーティリティで行います（「admin」アカウントおよび administrator 権限をもったアカウントを作成できます）。

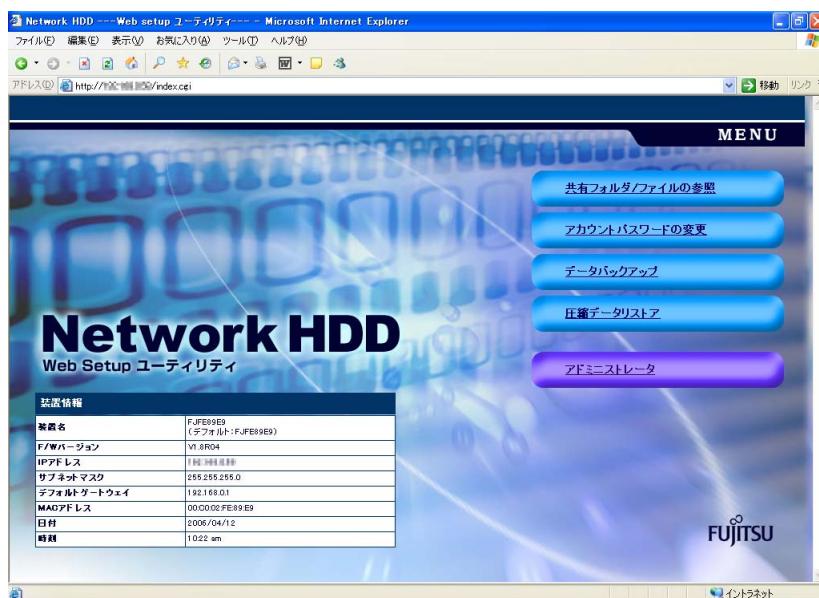
Web ブラウザは、JavaScript 1.1 をサポートしていなければなりません。次の Web ブラウザがテスト済みです。

- Internet Explorer 7.0、Internet Explorer 6.0SP2、Internet Explorer 6.0SP1、Internet Explorer 5.5SP2

FMHD-30LR/16LR3 への接続

□ NetworkHDD Setup ユーティリティを使用する場合

- 1 NetworkHDD Setup ユーティリティを起動し、本装置の装置名を選択します。
- 2 [管理 (Web ブラウザ)] ボタンをクリックします。
- 3 次にウェルカム画面が表示され、Web Setup ユーティリティが起動します。



POINT

- ▶ Web Setup ユーティリティを起動した時に「エラー リクエストされた URL は取得できませんでした」という画面が表示される場合があります。
その際には、ブラウザのプロキシサーバーを使用しないように設定を変更するか、例外に本装置の IP アドレスを記入してください。

4 [アドミニストレータ] ボタンをクリックします。

5 次のようにパスワードの入力を求めるダイアログが表示されます。



[アカウント名] に admin と入力します。デフォルトでは admin ユーザにパスワードはありませんが、パスワードを設定している場合は、ここで変更後のパスワードを入力します。

POINT

- ▶ Web Setup ユーティリティによる設定は「admin」アカウントおよび administrator、または subadministrator 権限をもったアカウントができます。他のアカウントでは Web Setup ユーティリティに入ることができません。

6 [アカウント名] [パスワード] を入力し、[OK] ボタンをクリックして設定メニューに進みます。詳細は、次の「3 Web Setup ユーティリティのメニュー」(→ P.36) を参照してください。

□ NetworkHDD Setup ユーティリティを使用しない場合

1 Web ブラウザを起動します。

2 [アドレス] ポックスに次のように入力します。

http://<ip_address>/

<ip_address> には、本装置の IP アドレスを指定します。

例 : http://192.168.0.2/

POINT

- ▶ アドレスは大文字と小文字は区別されますので、正確に入力してください。

3 次にウェルカム画面が表示され、Web Setup ユーティリティが起動します。

- 4** [アドミニストレータ] ボタンをクリックします。
- 5** 上記の「NetworkHDD Setup ユーティリティを使用する場合」の手順 5 に示すように、パスワードの入力を求めるダイアログが表示されます。
[アカウント名] に admin と入力します。デフォルトでは admin アカウントにパスワードはありませんが、パスワードを設定している場合は、ここで変更後のパスワードを入力します。

ウェルカム画面の「データバックアップ」については第 4 章、「共有フォルダ／ファイルの参照」および「アカウントパスワードの変更」については、第 5 章を参照ください。

3 Web Setup ユーティリティのメニュー

WebSetup ユーティリティは、次の 5 つの設定カテゴリから構成されています。

- ・システム設定 (→ P.36)
- ・ステータス (→ P.37)
- ・認証設定 (→ P.37)
- ・共有設定 (→ P.37)
- ・ユーティリティ (→ P.38)

[システム (→ P.40)] [ステータス (→ P.54)] [認証設定 (→ P.63)] [共有設定 (→ P.80)] [ユーティリティ (→ P.91)]

□ 詳細な設定を行います。

- ネットワーク設定、システム設定、ユーティリティ、ステータス表示、アカウント設定、共有フォルダ設定、グループ設定、認証設定 など

POINT

- ▶ 各画面のヘルプは画面左下にあります。

設定項目概要

■ システム設定

□ システム設定 - 「システム設定」

- 本装置の名前、タイムゾーン、日付、時刻を設定します。

□ システム設定 - 「TCP/IP 設定」

- IP アドレス : IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを設定します。
- 簡易 DHCP サーバー: 簡易 DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバー機能を有効にする場合に設定します。
- DNS : DNS (Domain Name System) の IP アドレスを設定します。

□ システム設定 - 「Microsoft ネットワーク設定」

- Microsoft ネットワークを設定します。ワークグループ名、WINS (Windows Internet Name Service) を設定します。

□ システム設定 - 「FTP 設定」

- FTP の設定をします。

□ システム設定 - 「E-Mail 通知」

- 問題があるときに電子メールでメッセージが送信されるように本装置を設定します。

□ システム設定 - 「電源管理」

- 本装置のシャットダウンと起動のスケジュールを作成します。

□ システム設定 - 「NTP 設定」

- NTP (Network Time Protocol) を設定します。

□ システム設定 - 「SNMP 設定」

- SNMP プロトコルをサポートしています。監視ソフトにより、集中監視できます。

□ システム設定 - 「UPS 設定」

- UPS 関連情報を設定します。

■ ステータス

□ ステータス - 「ディスク情報」

- ディスク使用量をチェックします。この情報は参照のみです。

□ ステータス - 「システム情報」

- システムの状態をチェックします。この情報は参照のみです。

□ ステータス - 「接続情報」

- MS-Network の接続情報を表示します。この情報は表示のみです。

□ ステータス - 「ジョブ実行情報」

- データバックアップおよびバックアップデータのリストアのジョブの状態を表示します。

■ 認証設定

アカウントの認証方式の選択、設定ができます。

認証選択 : アカウントの認証方式を選択できます。

ローカル認証 : 装置に登録されているアカウント情報を利用し、認証します。

NT ドメイン認証 : NT ドメインのアカウント情報を利用し、認証します。

AD 認証 : Active Directory のアカウント情報を利用し、認証します。

■ 共有設定

このオプションを使用して共有、アカウント、グループ、共有フォルダへのアクセスを管理します。詳細については、「Web Setup ユーティリティの項目」(→ P.40) を参照してください。

□ 共有設定 - 「グループ設定」

- 現在のグループを参照し、グループの共有フォルダへのアクセスを修正し、グループに対してアカウントを追加または削除します。また、新しいグループを作成したり、既存のグループを削除します。

□ 共有設定 - 「アカウント設定」

- 既存アカウントの一覧を参照し、アカウントの情報を修正します。また、アカウントを作成、削除します。
ここで、アカウントごとの容量制限機能の設定も行うことができます。

POINT

- ▶ guest と admin の 2 つのアカウントは、削除できません。
- ▶ adminアカウントは、既存のadministratorグループから削除または移動することはできません。
- ▶ デフォルトでは admin アカウントにパスワードがありません。パスワードを設定することをお勧めします。
- ▶ adminアカウントと他のすべてのadministratorグループのアカウントには、常にすべての共有フォルダおよびフォルダに対する読み取り / 書き込みの権利があります。
- ▶ 容量制限機能とは、アカウントの使用する容量を制限することができる機能です。

□ 共有設定 - 「共有フォルダ設定」

- 共有フォルダを作成、削除、修正します。「共有フォルダ」とはアカウントがアクセスできるフォルダ（ディレクトリ）です。アクセス権は個々のアカウントに対してではなく、グループに対して設定できます。

□ 共有設定 - 「GUEST 設定」

- 登録されていないアカウントを「guest」としてログインさせます。

□ 共有設定 - 「共有設定リスト」

装置内のアカウントグループ、共有フォルダの情報を表示します。

■ ユーティリティ

これらのユーティリティは、通常の操作では必要ありません。

□ ユーティリティ - 「ディスク」

- ディスクエラーのチェック機能です。

□ ユーティリティ - 「アップグレード」

- 本装置のファームウェアをアップグレードします。

□ ユーティリティ - 「設定バックアップ」

- 設定情報をバックアップします。

□ ユーティリティ - 「インポート」

- アカウントデータをインポートします。

□ ユーティリティ - 「データバックアップ」

- 本装置のデータを LAN 上の他装置に、LAN 上の他装置のデータを本装置にバックアップします。

□ ユーティリティ - 「圧縮データリストア」

- バックアップをデータ圧縮して行った場合、圧縮データのリストアを行います。

□ ユーティリティ - 「診断」

- コマンドを実行して、LAN の状態を診断します。

4 Web Setup ユーティリティの項目

システム設定

システム設定は WebSetup ユーティリティのメインメニューの 1 つで、次の 9 つの設定カテゴリから構成されています。

- システム設定 (→ P.40)
- TCP/IP 設定 (→ P.41)
- Microsoft ネットワーク設定 (→ P.44)
- FTP 設定 (→ P.45)
- E-Mail 通知 (→ P.46)
- 電源管理 (→ P.48)
- NTP 設定 (→ P.50)
- SNMP 設定 (→ P.51)
- UPS 設定 (→ P.52)

システム設定 - 「システム設定」



本装置の基本設定を行います。本装置の装置名、コメント、タイムゾーン、日付、時刻を設定します。

ファイルを正しいタイムスタンプで保存するためには、正しい日付と時刻を設定してください。

設定入力後「保存」をクリックすることで設定が完了します。

□ 入力可能文字数・制限

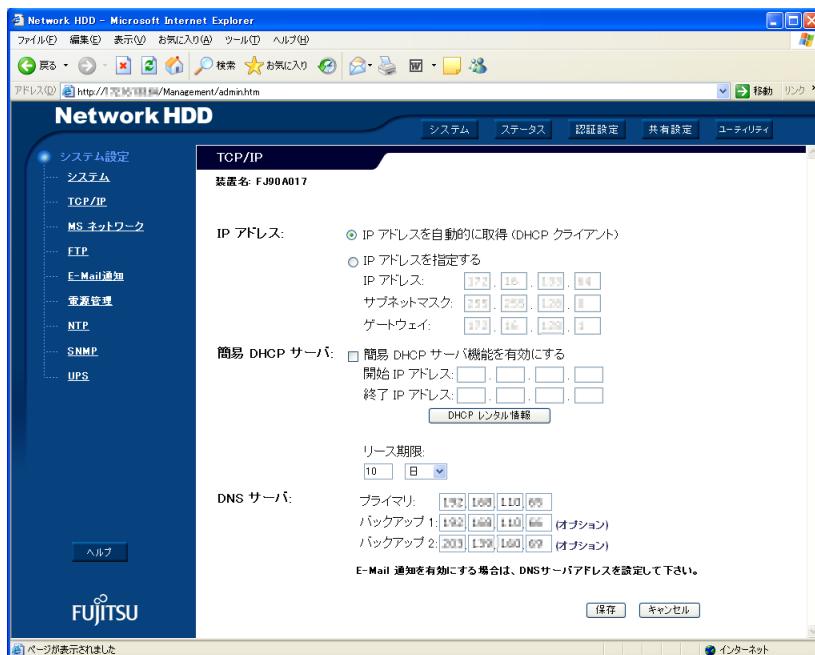
装置名には、14 バイトまでの ASCII 文字が使用可能です。
ただし以下の文字、およびすべてが数字の装置名は除きます。

" / ¥ [] : ; | = . , + * ? < > space ' ` () # \$ %

コメントには、48 バイトまでの ASCII 文字が使用可能です。
ただし以下の文字は除きます。

" ¥ : | , '

システム設定 - 「TCP/IP 設定」



TCP/IP ネットワーク関連情報を設定します。

設定入力後「保存」をクリックすることで設定が完了します。

- IP アドレス : • IP アドレスを自動的に取得する (DHCP クライアント)
起動時に DHCP サーバーから IP アドレスを取得します。
- IP アドレスを指定する
LAN 上の DHCP サーバーが存在しない場合はこちらを選択してください。
- IP アドレス
ご使用の LAN 環境に適した、他のデバイスで使用されていない IP アドレスを入力してください。
- サブネットマスク
ご使用の LAN 環境に適したサブネットマスクの値を入力してください。
- ゲートウェイ
ご使用の LAN 環境にルータやゲートウェイがある場合には、その値を入力してください。

※重要

- ▶ IP アドレスを変更して保存すると、現在表示しているブラウザの接続は切断されます。一度ブラウザを閉じて、再接続してください。

簡易DHCPサーバー: 簡易 DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバー機能を有効にする場合に設定を行います。

簡易 DHCP サーバー機能は以下の情報をコンピュータやその他のデバイスに提供します。

1. IP アドレス
2. サブネットマスク
3. デフォルトゲートウェイ
4. DNS サーバーアドレス

* 本簡易 DHCP サーバー機能では、WINS 機能は、提供できません。

※重要

- ▶ この機能を使用する場合は、必ず本装置の IP アドレスを固定にしてください。また開始 IP アドレスと終了 IP アドレスは、本装置の IP アドレスと同一セグメント (同一サブネット) に合わせてください。

本簡易 DHCP サーバー機能において、以下は不正なアドレスとなりますので、設定できません。

- ・開始 IP アドレスと終了 IP アドレスの範囲が、本装置の固定 IP アドレスをまたぐ場合は、不正なアドレスとなります。
- ・開始 IP アドレスの値が終了 IP アドレスの値より大きい場合は、不正なアドレスとなります。
- ・提供可能なアドレスは最大 254 アドレスです。設定範囲 (終了アドレスと開始アドレスの範囲) が 254 アドレスを超えた場合には、不正なアドレスとなります。

リース期限 : 簡易 DHCP 機能の IP アドレスのリース期限を設定します。

設定可能な期間は、1 分から 99 日までです。

DNS サーバー : DNS (Domain Name System) サーバーの IP アドレスを設定します。システム設定で、「E-Mail 通知」を有効にしている場合には、少なくとも 1 つの DNS アドレスを入力してください。それ以外の場合には、空白でも構いません。複数の DNS アドレスが登録されている場合は、最初に検出された DNS が使用されます。

□ DHCP レンタル情報

IP アドレス	MAC アドレス	ホスト名	リース期限
192.168.0.201	00:20:edb5:44:a8	yamamoto	09:04 04/21/2006
192.168.0.202	00:30:05:83:d1:f2	TANAKA	09:04 04/21/2006

簡易 DHCP サーバー機能で割り当てられている IP アドレスを表示します。

システム設定 - 「Microsoft ネットワーク設定」



Microsoft ネットワーク設定を行います。

- ワークグループ名 : ワークグループ名を指定します。
ただし、認証選択が有効に設定されていた場合は変更できません。
- WINS を有効にする : WINS (Windows Internet Name Service) がある場合、「WINS を有効にする」をチェックし、WINS を設定します。
- プライマリ : WINS が有効の場合、プライマリの WINS サーバの IP アドレスを入力します。プライマリの WINS サーバが動作していない場合のバックアップとしての WINS サーバの IP アドレスを入力して下さい。

設定入力後「保存」をクリックすることで設定が完了します。

□ 入力可能文字数・制限

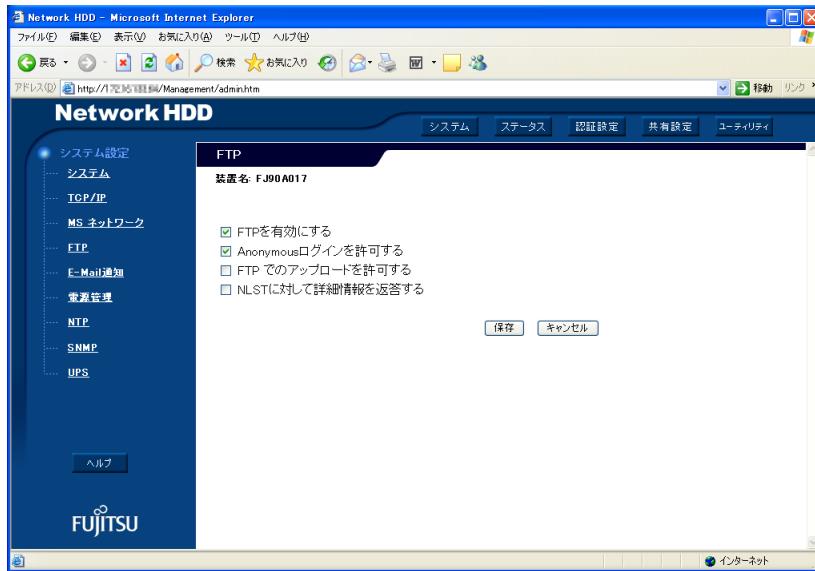
ワークグループ名には、15 バイトまでの ASCII 文字が使用可能です。
ただし以下の文字は除きます。

"/ ¥ [] : ; | = . , + * ? < > ' `

POINT

- ▶ NT ドメイン認証、AD 認証時は、ワークグループ名を変更できません。

システム設定 - 「FTP 設定」



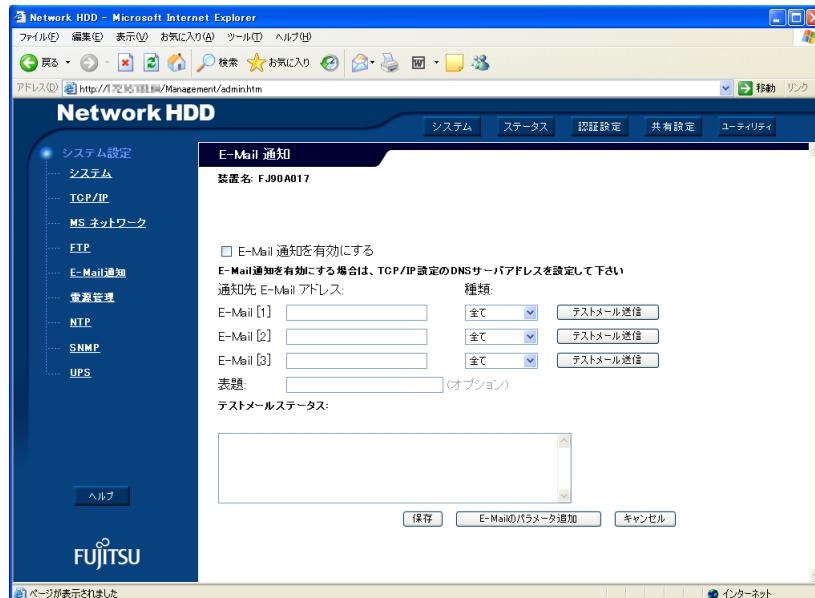
以下のFTPの設定を行います。

- FTPでデータ転送を許可する場合「FTPを有効にする」をチェックします。
- Anonymousユーザのログインを許可する場合「Anonymousログインを許可する」をチェックします。
- 本装置にFTPでデータのアップロードを許可する場合「FTPでのアップロードを許可する」をチェックします。
- 本装置にFTPでNLSTコマンドを実行する場合「NLSTに対して詳細情報を返答する」をチェックします。

POINT

- ▶ FTPクライアントソフトで本装置に接続する場合は、FTPクライアントソフトの設定を以下のように指定してください。
 - ・ファイル一覧表示設定を「LIST」に指定。
 - ・ファイル転送モードを「PASVモード」に指定。
- ▶ アプリケーション等でNLSTコマンドに対しても詳細情報を返すように要求された場合には、「NLSTに対して詳細情報を返答する」にチェックを入れて確認してください。

システム設定 - 「E-Mail 通知」



問題があるときに、本装置から電子メールでメッセージが送信されるように設定します。設定入力後「保存」をクリックすることで設定が完了します。

【E-Mail 通知】を有効にすると、以下の状態のときに電子メールが送信されます。

- ディスク使用容量が 98% を越えた場合
- ディスク使用容量が 100% となった場合
- スキヤンディスクに失敗した場合
- ファームウェアのアップグレードが完了した場合
- アカウントデータのインポートに失敗した場合
- ハードディスクに障害が発生した場合
- データのバックアップに失敗した場合
- IP RESET ボタンが押された場合
- 本装置の IP アドレスと他の装置の IP アドレスが競合した場合
- ファームウェアのアップグレードに失敗した場合
- UPS からトラップを受信して本装置をシャットダウンする場合
- 指定した OU が Active Directory に存在しない場合
- ドメインコントローラとの認証に失敗した場合
- 圧縮データのリストアに失敗した場合

送信側となる本装置のアドレスは、`administrator@<ip_address>` です。

またデフォルトの表題はありませんので、記入しない場合は表題なしのメールが届きます。

種類 : E-Mail 通知メッセージの種類を設定します。「全て」、「エラーと警告」、「エラーのみ」から選択でき、選択した種類のメッセージのみ E-Mail 通知されます。

POINT

- ▶ E-mail 通知の内容については、「付録」 - 「システムログ、E-Mail 通知、および SNMP ト ラップメッセージ一覧」 (→ P.168) をご覧ください。

テストメール送信: テストメール送信ボタンを押すと、設定した E-Mail アドレスへのテストメールを発信します。

テストメールス: テストメールボタンを押して、設定した E-Mail アドレスへテストメールデータスを送信したときの状態を表示します。

E-Mail のパラメー: E-Mail のパラメータの追加のボタンを押すと E-Mail のパラメータの追加タの追加の画面に移動します。

□ 入力可能文字数・制限

アドレスには、48 バイトまでの E-mail アドレス (ASCII 文字) が使用可能です。日本語は使用できません。

ただし以下の文字は除きます。

"/ ¥ [] : ; | = , + * ? < > ' `

表題には、48 バイトまでの ASCII 文字が使用可能です。

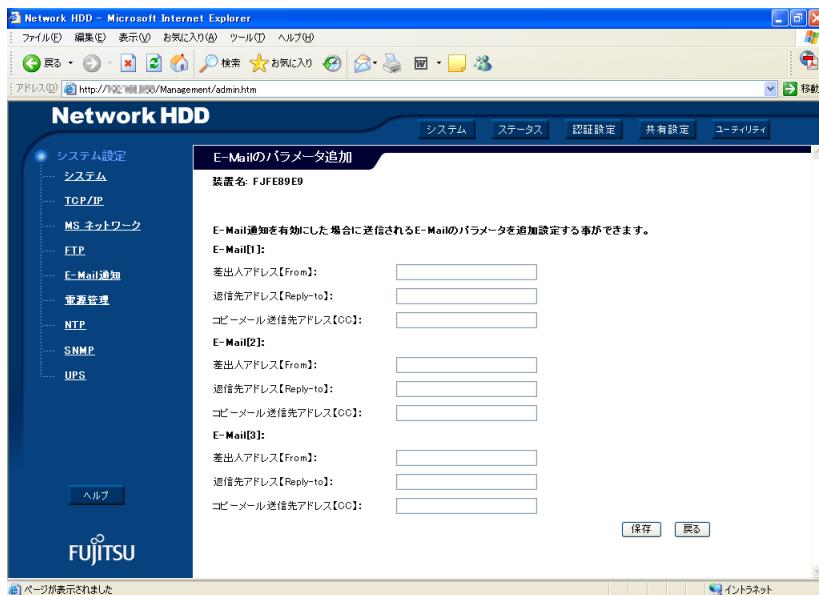
ただし以下の文字は除きます。

¥ / " [] < > : ; . | = + * ? ' `

POINT

- ▶ E-Mail 通知を行う場合は、DNS の設定を行う必要があります。
また、必要に応じてゲートウェイ、WINS の設定を行ってください。

■ E-Mail のパラメータ追加



E-Mail 通知を有効にした場合、送信される E-Mail のパラメータを追加設定できます。

□ 差出人アドレス 【From】

E-Mail の差出人を追加設定できます。

□返信先アドレス【Reply-to】

E-Mail の返信先を追加設定できます。

□コピーメール送信先アドレス【CC】

E-Mail のコピーメール送信先を追加設定できます。

システム設定・「電源管理」



本装置のリブートまたはシャットダウンを行います。また、シャットダウンスケジュールを設定できます。シャットダウンを行った場合は、本装置背面の電源スイッチによって起動します。設定入力後「保存」をクリックすることで設定が完了します。

- | | |
|---------------|---|
| シャットダウンスケジュール | : シャットダウンを行うかどうか、行う場合の曜日や時間を指定します。毎週特定曜日、平日、毎日に分けて、それぞれ設定できます。 |
| パワーセーブ | : 特定時間ハードディスクへのアクセスが無い場合、ハードディスクのモータの回転を止めるように設定できます。この設定をする場合は、リストから時間を選択してください。「無効」を選択した場合、常時ハードディスクのモータが回転しています。 |

パワーオンスケジュール: 本装置を指定した曜日、時刻に起動するかどうか、起動する場合の曜日や時間を指定します。毎週特定曜日、平日、毎日に分けて、それぞれ設定できます。

※重要

- ▶ 電源ケーブルを接続していなかったり、停電等でパワーオンスケジュールの指定時刻に起動できなかった場合は、次回のパワーオンスケジュール指定時刻になっても起動しません。手動で電源スイッチをONにしてください。
- ▶ パワーオンスケジュールとスケジュールシャットダウンの両方を設定する場合は、起動が完了してから、シャットダウンが行われる様に、10分以上の間隔をあけてください。

アクション : リブートまたはシャットダウンのいずれかの操作をします。

- ・遅延時間

何分後アクションを開始するかを入力します。

- ・アクション

実行するアクションを決めます。

- ・開始

「開始」ボタンをクリックすると、アクションまでのタイマのカウントが開始されます。

ただちにシャットダウン／ : 本装置のシャットダウン／リブートを行います。これらのボタンをクリックしても設定の保存は行われません。

□ 装置のシャットダウン

次のいずれかの方法でシャットダウンできます。

- 背面にある電源スイッチを一度押します。
- [システム] → [シャットダウン] メニューを使用して、リモートのシャットダウン、またはスケジュールされたシャットダウンを行います。

POINT

- ▶ シャットダウン中は、READY LED が点滅します。

システム設定 - 「NTP 設定」



NTP (Network Time Protocol) サーバによって時刻同期を行います。設定入力後「保存」をクリックすることで設定が完了します。

POINT

- ▶ LAN内またはファイアウォール内にNTPサーバーがない場合は時刻同期ができないことがあります。

NTP サーバアドレス : 設定する NTP サーバーのアドレスを入力します。

開始時刻 : NTP サービスを開始する時刻を設定します。

同期する間隔 : 前回の NTP サービスから次に行うまでの間隔を設定します。

ただちに同期 : ただちに時刻の同期をとります。

ステータス : “ただちに同期” ボタンをクリックした結果を表示します。

POINT

- ▶ 時刻の設定 : 12 : 00am は夜中の 12 時、12 : 00pm は昼の 12 時を表します。

システム設定 - 「SNMP 設定」



SNMP を使用する場合は、チェックボックスをチェックします。

コミュニティ名：コミュニティ名を設定します。デフォルトは「PUBLIC」になっています。
48 バイトまでの ASCII 文字により設定できます。ただし、以下の文字は使用できません。
¥/ " [] <> : ; .. | = + * ? ' '

POINT

- ▶ SNMP を利用して本装置を監視する場合は、必ず本装置に添付の CD-ROM に入っている MIB ファイルを監視ツールに適応してご利用ください。適応方法については、監視ツール側へお問い合わせください。

□ SNMP を有効にする

SNMP の機能 (GetResponse) を有効にします。

□ GET コミュニティ名

GET コミュニティ名を入力します。

以下の文字を除く 48 バイトまでの ASCII 文字が設定可能です。

¥/ " [] <> : ; .. | = + * ? ' '

□ SNMP トラップを有効にする

SNMP トラップを使用する場合は、チェックボックスをチェックを入れます。

□ 送出先 IP アドレス

トラップ送出元のトラップマネージャの IP アドレスを入力します。

□ 送出トラップ種類

トラップの送出カテゴリを設定します。デフォルトは「全て」になっています。
「全て」、「エラーと警告」、「エラーのみ」から選択できます。選択した種類のみトラップが送出されます

POINT

- ▶ 送出トラップの内容については、「付録」-「システムログ、E-Mail 通知、および SNMP トラップメッセージ一覧」(→ P.168) をご覧ください。

□ トラップコミュニティ名

トラップコミュニティ名を設定します。デフォルトは「PUBLIC」になっています。
以下の文字を除く 48 バイトまでの ASCII 文字が設定可能です。
¥/"[]<>:;.,|=+*?'`

システム設定 - 「UPS 設定」



本装置に接続している UPS の設定を行います。設定入力後「保存」をクリックすることで設定が完了します。

□ UPS 連携

UPS からバッテリー駆動のトラップを連続して 3 分間受信した場合、本装置をシャットダウンします。

□ UPS IP アドレス

UPS の IP アドレスを入力します。

□ トラップコミュニティ名

UPS のトラップコミュニティ名を入力します。

□ GET コミュニティ名

UPS の GET コミュニティ名を入力します。

□ UPS MIB

本装置で参照する MIB を ups MIB、jemaMIB、または PowerNetMIB から選択します。

□ UPS MIB の参照

選択した MIB 情報を UPS から参照します。

POINT

- ▶ 本装置で使用できる UPS は ups MIB、jemaMIB、または PowerNetMIB に対応している必要があります。
- ▶ トラップコミュニティ名、トラップコミュニティ名の入力制限事項
48 バイトまでの ASCII 文字により設定できます。ただし、以下の文字は使用できません。
¥/ " [] < > : ; . , | = * + * ? ^

■ UPS の設定

APC 社の PowerNetMIB による UPS を連携するためには次の設定が必要です。

- 「UPS がバッテリー駆動になったら本装置をシャットダウンする」を有効にする
- 「UPS IP アドレス」、「GET コミュニティ名」を入力する
- 「UPS MIB」で「PowerNetMIB」を選択する
「UPS MIB の参照」をクリックして、PowerNetMIB の内容を参照できることを確認してください。

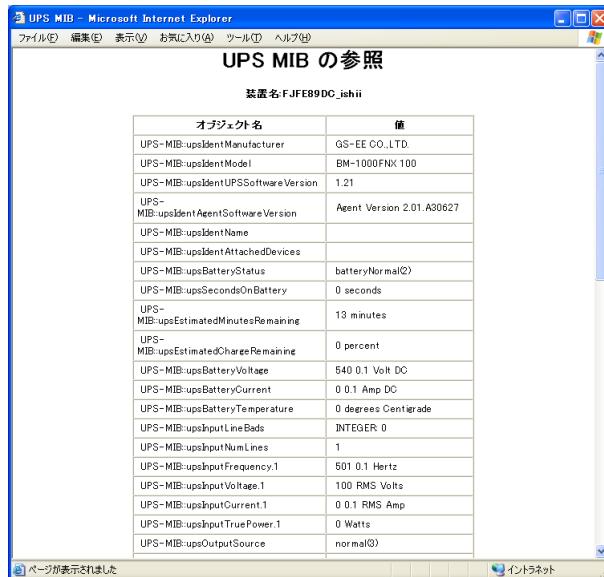
upsMIB、jemaMIB による UPS 連携をするためには次の設定が必要です。

- 「UPS がバッテリー駆動になったら本装置をシャットダウンする」を有効にする
- 「トラップ コミュニティ名」を入力する

POINT

- ▶ 「UPS IP アドレス」、「GET コミュニティ名」、「UPS MIB」を設定していなくても UPS 連携は可能です。
「UPS がバッテリー駆動になったら本装置をシャットダウンする」を有効にし、「トラップ コミュニティ名」を正しく設定していれば、UPS から upsMIB、jemaMIB のバッテリー駆動のトラップを受信できる状態になり、連続して 3 分間受信した場合は本装置をシャットダウンします。

□ UPS MIB の取得例



オブジェクト名	値
UPS-MIB::upsIdentManufacturer	GS-EE CO.,LTD
UPS-MIB::upsIdentModel	BM-1000FNX 100
UPS-MIB::upsIdentUPSSoftwareVersion	1.21
UPS-MIB::upsIdentAgentSoftwareVersion	Agent Version 2.01.A30627
UPS-MIB::upsIdentName	
UPS-MIB::upsIdentAttachedDevices	
UPS-MIB::upsBatteryStatus	batteryNormal(2)
UPS-MIB::upsSecondsOnBattery	0 seconds
UPS-MIB::upsEstimatedMinutesRemaining	13 minutes
UPS-MIB::upsEstimatedChargeRemaining	0 percent
UPS-MIB::upsBatteryVoltage	540 0.1 Volt DC
UPS-MIB::upsBatteryCurrent	0 0.1 Amp DC
UPS-MIB::upsBatteryTemperature	0 degrees Centigrade
UPS-MIB::upsInputLineBads	INTEGER 0
UPS-MIB::upsInputNumLines	1
UPS-MIB::upsInputFrequency.1	501 0.1 Hertz
UPS-MIB::upsInputVoltage.1	100 RMS Volts
UPS-MIB::upsInputCurrent.1	0 0.1 RMS Amp
UPS-MIB::upsInputTruePower.1	0 Watts
UPS-MIB::upsOutputSource	normal(0)

ステータス

ステータスは Web Setup ユーテリティのメインメニューの 1 つで、次の 4 つの設定カテゴリから構成されています。

- ディスク情報 (→ P.55)
- システム情報 (→ P.57)
- 接続情報 (→ P.60)
- ジョブ実行情報 (→ P.62)

ステータス - 「ディスク情報」



現在のディスクの状態が表示されます。

□ ディスク情報

総容量 : ユーザが使用可能なディスクスペースの総容量が表示されます。

使用領域 : ユーザデータにより使用されているディスクスペースが表示されます。

空き領域 : ユーザが使用可能な空きディスクスペースが表示されます。

POINT

- ▶ 利用開始時は、以下のように表示されます。
容量は1MB=1024 × 1024 バイト換算のため 300GB/160GB より少なく表示されます。
 - ・ FMHD-30LR
 - 総容量 約 285,543 (MBytes)
 - 使用領域 約 0 (MBytes)
 - 空き領域 約 285,542 (MBytes)
 - ・ FMHD-16LR3
 - 総容量 約 152,056 (MBytes)
 - 使用領域 約 0 (MBytes)
 - 空き領域 約 152,056 (MBytes)
- ▶ ディスク情報は、ユーザが使用可能なディスクスペース、アクセスログの使用領域、設定情報の領域を合わせた値です。

□ Rebuilding 進捗状況

Rebuilding の進捗状況が表示されます。

□ RAID ログの参照

ディスクの挿入 / 取外し、Rebuilding の開始 / 完了、ディスクの S/N、ハードディスク障害発生時のログを参照します。

□ アクセスログ容量情報

アクセスログで確保しているディスク容量と使用している容量が表示されます。

確保領域 : アクセスログを格納するためだけに確保されているディスクスペースが表示されます。

使用領域 : アクセスログで使用されているディスクスペースが表示されます。

□ ユーザ容量制限情報

アカウントごとの制限容量と使用領域が表示されます。

□ 共有フォルダ情報

共有フォルダ名 : 本装置に登録されている全共有フォルダを表示します。

使用領域 : 「表示」ボタンをクリックすると、共有フォルダの使用領域を計算して別ウィンドウに結果を表示します。使用領域の計算が終了すると、「計算終了」のメッセージを表示します。



ステータス - 「システム情報」



本装置の現在の状態が表示されます。

□ システム情報

- 装置名 : 現在の装置名が表示されます。変更していなければ、デフォルト装置名と同じです。
- デフォルト : ご購入時の名前です。
- F/W バージョン : 本装置にインストールされているファームウェアのバージョンが表示されます。
- MAC アドレス : 本装置のネットワークアダプタの MAC アドレスが表示されます。
- IP アドレス : 本装置が使用する IP アドレスが表示されます。
- 日付 : 本装置に記憶されている現在の日付が表示されます。
- 時刻 : 本装置に記憶されている現在の時刻が表示されます。
- 現在のステータス : 現在の本装置の状態が表示されます。

□ ログの参照、クリア

ログの参照 : ログの参照ボタンをクリックすると別のウィンドウが表示され、システムログが表示されます。トラブルシューティングのために用意されています。

ログのクリア : ログのクリアボタンをクリックすると、ログが消去されます。

□ アクセスログ

アクセスログを取: アクセスログを使用する場合は、チェックボックスにチェックをいれま得する。Samba, FTP, HTTP によるファイルアクセスログを取得します。

アクセスログの総: アクセスログで使用可能な総容量を設定します。

容量 最大 20GB(100MB, 200MB, 500MB, 1GB, 2GB, 5GB, 10GB, 20GB から選択) まで設定できます。

現在の使用領域 : アクセスログで使用されているデータ領域を表示します。

アクセスログの: アクセスログのファイル一覧ボタンをクリックすると別のウィンドが表示されアクセスログのリストが表示されます。このページで格納しているアクセスログファイルを取得したり、削除したりすることができます。

ログの参照 : アクセスログの参照ボタンをクリックすると別のウィンドが表示されアクセスログが表示されます。

POINT

▶ アクセスログの使用領域は、ユーザが使用可能なディスクスペースの一部からなります。

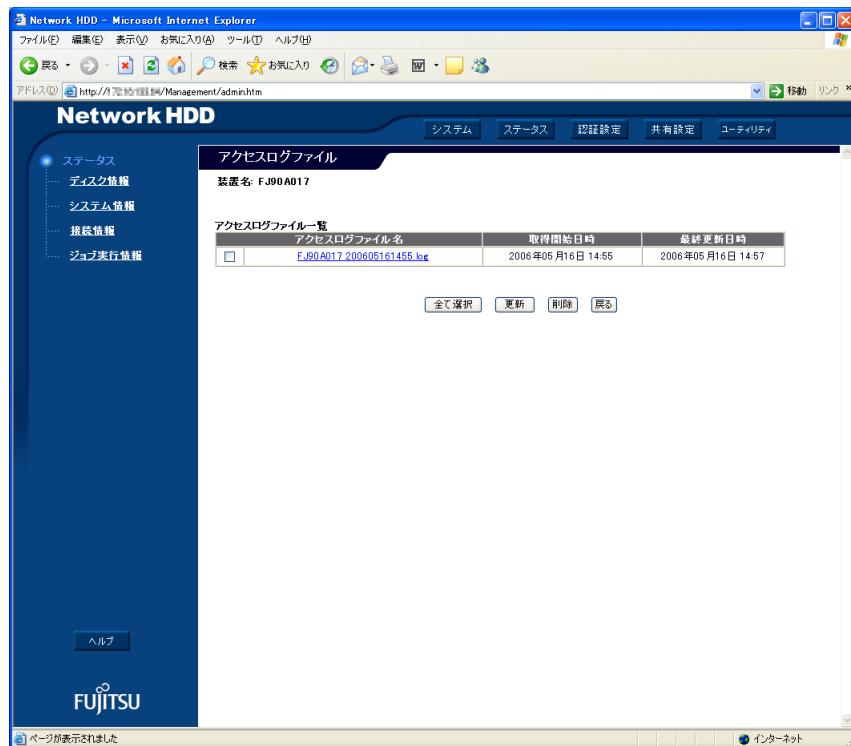
□ WEB 管理画面でのオペレーションログ

ログの参照 : ログの参照ボタンをクリックすると別のウィンドが表示され WEB 管理画面で管理者が操作した内容のログを取得します。

POINT

▶ オペレーションログでは通常"ホスト"として接続元のPCのIPアドレスを取得しますが、接続元のPCのブラウザにプロキシ設定している場合は、そのプロキシサーバのIPアドレスを取得します。

□ アクセスログファイル



The screenshot shows a Microsoft Internet Explorer window with the title 'Network HDD - Microsoft Internet Explorer'. The address bar shows 'http://192.168.1.100/Management/admin.htm'. The main content area is titled 'Network HDD' and shows a list of 'アクセスログファイル' (Access Log Files) for device 'FJ00A017'. The table has columns for 'アクセスログファイル名' (File Name), '取得開始日時' (Start Date), and '最終更新日時' (Last Update Date). One entry is listed: 'FJ00A017 200605161455.log' with '2006年05月16日 14:55' in both columns. Below the table are buttons for '全て選択' (Select All), '更新' (Update), '削除' (Delete), and '戻る' (Back). The left sidebar has navigation links: 'ステータス' (Status), 'ディスク情報' (Disk Information), 'システム情報' (System Information), '接続情報' (Connection Information), and 'ジョブ実行情報' (Job Execution Information). The Fujitsu logo is at the bottom left.

アクセスログファ: アクセスログのファイル名
イル名

取得開始日時 : ログの取得開始日時
最終更新時間 : ログの最新更新日時
更新 : アクセスログファイルの一覧が更新されます。
削除 : 選択したアクセスログファイルを削除します。
戻る : 戻るボタンでシステム情報に戻ります。

アクセスログのダウンロード手順は次のとおりです。

- 1 「アクセスログファイル一覧」内からダウンロードしたい「アクセスログファイル名」を右クリックします。
- 2 「対象をファイルに保存」をクリックし、保存先を選択して保存します。

ステータス - 「接続情報」



The screenshot shows the 'Network HDD' management interface in Microsoft Internet Explorer. The main menu includes 'システム' (System), 'ステータス' (Status), '認証設定' (Authentication Settings), '共有設定' (Sharing Settings), and 'ユーティリティ' (Utility). The left sidebar has links for 'ステータス' (Status), 'ディスク情報' (Disk Information), 'システム情報' (System Information), '接続情報' (Connection Information), and 'ジョブ実行情報' (Job Execution Information). The main content area is titled '接続情報' (Connection Information) and shows '装置名: FJFE89E9'. It displays the message 'MS-Networkの接続情報を表示します。' (Shows connection information for MS-Network) and a '接続情報' (Connection Information) button.



The screenshot shows the 'Network HDD' management interface in Microsoft Internet Explorer. The main menu and sidebar are identical to the previous screenshot. The main content area is titled 'セッション情報' (Session Information) and shows '装置名: FJ90A017'. It includes a checkbox for 'セッションログを取得する' (Get session log) with '保存' (Save) and 'ログの参照' (View log) buttons. Below this is a table titled 'セッション情報' (Session Information) with columns: 共有フォルダ名 (Shared Folder Name), アカウント名 (Account Name), PID, クライアント (Client), 時刻 (Time), and a '切断' (Disconnect) button. The table contains two entries: 'PUBLIC' (guest, 791, iceman, Tue May 16 14:59:22 2006) and 'IPC\$' (guest, 791, iceman, Tue May 16 14:59:13 2006). Below the table is a 'ファイル情報' (File Information) section with buttons for 'PID', '抹消制御' (Delete Control), 'R/W', 'Olock', 'ファイル名' (File Name), and '時刻' (Time). A '更新' (Update) button is also present.

MS-Network により接続しているコンピュータの情報、およびオープンしているファイルの情報

を表示します。FTP で接続しているユーザは表示されません。

□ 接続情報

- 接続情報 : 接続情報ボタンをクリックすると、本装置にアクセスしているクライアントのセッション情報、ファイル情報が表示されます。
- 更新 : 更新ボタンをクリックすると、アップデートされたデータが表示されます。

□ セッションログを取得する

- セッション情報をログとして取得する場合にチェックを入れます。
- 保存 : セッションログの設定を保存します。
- ログの参照 : 接続していた際のセッションログを参照します。(共有フォルダ名、アカウント名、接続しているコンピュータの情報、接続開始/終了時刻など)

POINT

- ▶ 接続情報は、容量によっては表示されない場合があります。

□ セッション情報

- 共有フォルダ: アクセスしている共有フォルダ名を表示します。
名

アカウント名 : 共有にアクセスしているユーザを表示します。

- PID : 接続のプロセス ID を表示します。
- クライアント : クライアントのホスト名と IP アドレスを表示します。
- 時刻 : クライアントがログインした時刻を表示します。
- 切断 : セッションを切断します。

□ ファイル情報

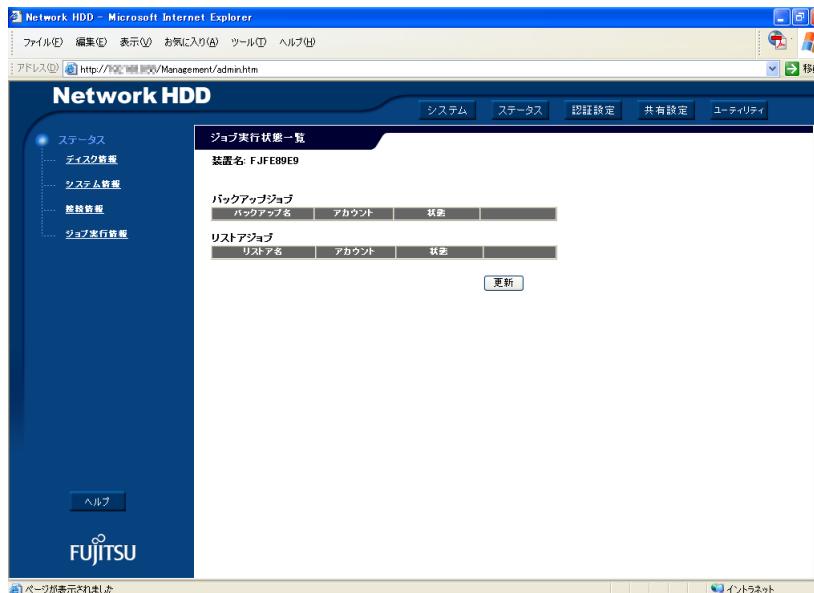
- PID : 接続のプロセス ID を表示します。
- 排他制御 : 排他制御の状態を表示します。
- DENY_NONE : 他のファイルアクセスを拒否しません。
 - DENY_ALL : すべてのファイルに対するアクセスを拒否します。
 - DENY_READ : ファイルに対する read-only アクセスを拒否します。
 - DENY_WRITE : ファイルに対する write-only アクセスを拒否します。
 - DENY_DOS : 読み込み権限でアクセスした場合、他のすべてのファイルについてでも読むことができますが書き込みはできません。書き込み権限でアクセスした場合、他のすべてのファイルにアクセスできません。
 - DENY_FCB : 不要です。
- R/W : ファイルアクセスの種類を表示します。
- RDONLY : 読み込みのみ可能
 - WRONLY : 書き込みのみ可能
 - RDWR : 読み書き可能
- Oplock : 便宜的ロック :

- **Exclusive** : 有効であるとき、ファイルをオープンしている唯一のクライアントであることを示します。ファイル（内容や属性）が変化し、装置にアップデートする際、ファイルがクローズするまでに得られたすべてのファイル情報、または上記のローカル情報の実行を許可します。
- **Batch** : ファイルをオープンしている唯一のクライアントであることを示します。キャッシュや先読みしたローカル情報のすべてのファイル操作の実行を許可します（オープン、クローズを含む）。
- **LEVEL_II** : ファイルに複数のアクセスがあり、修正が行われていないことを示します。クライアントにキャッシュか先読みによる、ローカル情報のファイルの読み込みと属性の取得を許可します。しかしその他のリクエストは装置に送らなければなりません。
- **NONE** : ロック無し。

ファイル名 : ロックされているファイルを表示します。

時刻 : ファイルがロックされた時間を表示します。

ステータス - 「ジョブ実行情報」



実行中のデータバックアップ / リストアのジョブ実行状態を表示しています。

● バックアップジョブ

バックアップジョブ名 : 現在実行中 / 実行待ちのバックアップ名を表示します。

アカウント : バックアップ名を作成したアカウントを表示します。

状態 : 各バックアップ名の状態を表示します。

中止ボタン : バックアップジョブを中止します。

● リストアジョブ

リストアジョブ名 : 現在実行中 / 実行待ちのリストア名を表示します。

アカウント : リストア名を作成したアカウントを表示します。

状態 : 各リストア名の状態を表示します。

中止ボタン : リストアジョブを中止します。

認証設定

認証設定は Web Setup ユーティリティのメインメニューの 1 つで、次の 3 つの設定カテゴリから構成されています。

● 認証設定

- ・認証選択
- ・NT ドメイン認証
- ・AD 認証

認証設定 - 「認証選択」



アカウントの認証方式を選択することができます。認証選択を有効にすることにより、フルダクセスやユーザバックアップ設定ページへのアクセスのためのアカウント認証をドメインコントローラ、Active Directory により行います。

□ 認証方式

次の認証方式からいずれかを選択します：

- ローカル認証

装置に登録されているアカウント情報を利用し、認証します。

- NT ドメイン認証

本装置にアクセスするときに、ドメインコントローラーのユーザアカウント情報を利用し、認証します。

Windows Server 2003、Windows 2000 Server、および Windows NT Server 4.0 の Active Directory の組織単位 (OU) を利用しない場合に選択してください。

- AD 認証

Active Directory のアカウント情報を利用し、認証します。

本装置のローカルグループと Active Directory の組織単位 (OU) との対応付けを行う場合に選択してください。

組織単位 (OU) との対応付けを行わない場合は、「NT ドメイン認証」を選択してください。

ドメイン管理者アカウントは、Active Directory の「Users」コンテナに所属している必要があります。

POINT

▶ 認証方式を切り替えると、すでに登録されているアカウントは削除されません。

□ 除外アカウント

常にローカル認証のみを行うアカウント（除外アカウント）を選択します。

- 常にローカル認証

いずれの認証選択方式を選択しても常にローカル認証される除外アカウントのリストを表示します。

- ローカルアカウントリスト

選択した認証選択方式で認証されるアカウントのリストを表示します。

POINT

▶ 「admin」は例外ユーザになり、常にローカル認証が行われます。

□ 除外アカウントリストへの追加

右側のリストからアカウントを選択し、「<<」をクリックします。

□ 除外アカウントリストからの削除

左側のリストからアカウントを選択し、「>>」をクリックします。

□ ソート

除外アカウント、ローカルアカウントリストのソートを行います。

- ・▲・・・昇順にソートします。
- ・▼・・・降順にソートします。

□ ヘルプ

認証選択のヘルプ画面を表示します。

□ 保存

設定した認証選択情報を保存します。

□ キャンセル

設定した認証選択情報をキャンセルします。

POINT

- ▶ NT ドメイン認証、または AD 認証へ認証方式を変更した後は、有効にした認証設定画面で、サーバ情報を入力し、「保存」をクリックしてください。既にサーバ情報が入力されている場合でも、再度「保存」をクリックし、エラーが表示されないことを確認してください。

認証設定 - 「NT ドメイン認証」



NT ドメインのアカウント情報を利用し、認証します。

設定入力後「保存」ボタンをクリックすることで設定が完了します。

NT ドメイン認証の状態が有効であるとき、ドメインコントローラに対してアクセスが可能な場合のみ、設定が保存されます。

○ 重要

- ▶ NT ドメイン認証を有効にした場合、NT ドメイン認証サーバ側に登録されていないアカウントは利用できません。本装置のみに登録されているアカウントまたは、新規のアカウントを利用したい場合は、必ず NT ドメイン認証サーバ側にアカウントを追加してください。

□ NT ドメイン認証の状態

認証選択で NT ドメイン認証が有効であるかどうかの状態が表示されます。

□ プライマリドメインコントローラ

プライマリに設定されているドメインコントローラのホスト名、又は IP アドレスを入力します。

□ バックアップドメインコントローラ

プライマリドメインコントローラが動作していない場合のバックアップとしてバックアップドメインコントローラを設定している場合は、そのバックアップドメインコントローラのホスト名、又は IP アドレスを入力して下さい。

□ ドメイン管理者アカウント名

ドメインに所属している管理者アカウント名を入力します。

□ パスワード再入力

ドメインに所属しているアカウントのパスワードを入力します。

【再入力】にも同じパスワードを入力します。

□ アクセス時ユーザを自動追加する

チェックをした場合、装置にアクセスしたドメインアカウントを自動的に本装置のアカウントに追加します。

□ ドメインコントローラからアカウントを定期的に取得する

プライマリドメインコントローラから、アカウントを定期的に取得する場合にチェックします。

- 開始時刻

アカウントを定期的に取得開始する時刻を入力します。

「12:00am」は夜中の 12 時、「12:00pm」は昼の 12 時を表します。

- 取得間隔

アカウントを取得してから、次に取得するまでの間隔を入力します。

□ 保存

設定したドメインコントローラ情報を保存します。

保存した後「ログの参照」をクリックして、ログにエラーがないことを確認してください。

□ ただちに取得

設定したドメインコントローラからただちにアカウントリストを取得します。

□ ログの参照

認証選択のログを表示します。

□ ヘルプ

認証選択のヘルプ画面が表示されます。

□ アカウント選択

ドメインコントローラから取得したアカウント数と本装置に既に登録されているアカウントの合計が 255 を超える場合は、本装置へのアカウント追加は自動的に行われませんので、このボタンを押して「アカウント選択」に移ります。

※ 重要

- ▶ 認証選択では、本装置内にはパスワードは保存されていません。認証選択をやめた場合は、各アカウントに対してパスワードを設定する必要があります。

POINT

- ▶ 本機能をサポートしているドメインサーバは、Microsoft Windows Server (Windows Server 2003 / 2000 Server / NT Server 4.0) です。
- ▶ ドメインコントローラからアカウントリストを取得してから、「グループ」「共有フォルダ設定」を行ってください。
- ▶ ドメインコントローラからアカウントを削除しても、本装置のアカウントリストからは削除されません。削除したい場合は、アカウント画面から削除してください。
- ▶ 認証選択時に新規にアカウントの追加を行う場合には、ドメインコントローラ側にアカウントを追加してください。
- ▶ ドメインコントローラにコンピュータ名を入力する場合は、WINS の設定をして下さい。設定していない場合には、アカウントの取得ができない場合があります
- ▶ ドメインコントローラの WINS 設定で、「NetBIOS over TCP/IP を無効にする」に設定している場合、認証選択、および認証選択機能は使用できません。認証選択を行う前に、次の設定を確認してください。
 1. ドメインコントローラの「スタート」 - 「コントロールパネル」 - 「ネットワーク接続」より、使用している接続を選択して、プロパティを表示してください。
 2. 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」 - 「プロパティ」 - 「詳細設定」を開き、「WINS」タブを表示してください。「NetBIOS 設定」で、「NetBIOS over TCP/IP を無効にする」以外にチェックされている事を確認してください。
 3. 「NetBIOS over TCP/IP を無効にする」にチェックしている場合は、「有効にする」へ設定変更を行ってください。
- ▶ ドメインコントローラから全アカウントを取得したい場合には、「ただちに取得」を実行してください。
- ▶ 制限文字を使用したアカウントは取得されません。
- ▶ 「-」または「#」から始まるアカウントは取得されません。
- ▶ サーバーやネットワークの環境によっては、ドメインコントローラからアカウントを取得できない場合があります

■ アカウント選択



ドメインコントローラから取得したアカウントを、本装置のアカウントリストへ登録することができます。

□ アカウントリスト

本装置に既に登録されているアカウントです。

□ ドメインのアカウント

本装置へ登録可能なドメインコントローラのアカウントです。

□ ソート

アカウントリストのソートを行います。

- ・▲・・・昇順にソートします。
- ・▼・・・降順にソートします。

□ アカウント選択

右側のドメインのアカウントフィールドからアカウントを選択し、「<<」をクリックすると、選択したアカウントがアカウントリストへ登録されます。

□ 選択したユーザーの削除

左側のフィールドからアカウントを選択し「削除」をクリックすると、選択したアカウントが本装置から削除されます。

操作が終了したら、「戻る」で前の画面に戻ります。

POINT

- ▶ 本装置にすでに登録されているアカウントと、本装置に登録するためにドメインから取得したアカウントとの合計が 255 を超えた場合、本画面から登録するアカウントを選択する必要があります。
「アカウントリスト」には本装置に既に登録されているアカウントが表示され、255 までアカウントを追加登録できます。255 を超えるアカウントを登録することはできません。登録されているアカウント以外のアカウントを登録したい場合は、アカウントリストから不要なアカウントを削除してください。
「ドメインのアカウント」には本装置に登録するためにドメインから取得したアカウントが表示されます。NT ドメイン認証の場合はそのドメインに属している全てのアカウントが、Active Directory 認証の場合はマッピングの対象となっている OUI に属しているアカウントが表示されます。登録したいアカウントを選択し、「アカウントリスト」に追加してください。ただし、表示されるアカウントは数の最大値は、「最大 ドメインアカウント数」(→ P.69) で表示される値になります。
ドメインコントローラに最大ドメインアカウント数以上のアカウントが存在し、「アカウントリスト」に表示されないアカウントを登録したい場合は、本画面でのアカウント選択登録は行わないで、Windows エクスプローラ、FTP によるアクセスや Web ブラウザによる設定ページへのアクセスを登録したいアカウントのアカウント名及びパスワードを入力して行ってください。すると、自動的にそのアカウントが本装置へ登録されます。
- ▶ 「ドメインのアカウント」に表示できる最大ドメインアカウント数は 10000 です。

認証設定 - 「AD 認証」



Active Directory のアカウント情報を利用し、認証します。

設定変更後、[保存] ボタンをクリックすることで設定が完了します。

Active Directory 認証の状態が有効であるとき、Active Directory に対してアクセスが可能な場合のみ、設定を保存します。

■ 重要

- ▶ AD 認証を有効にした場合、AD 認証サーバ側に登録されていないアカウントは利用できません。本装置のみに登録されているアカウントまたは、新規のアカウントを利用したい場合は、必ず AD 認証サーバ側にアカウントを追加してください。

□ Active Directory 認証の状態

認証選択で Active Directory 認証が有効であるかどうかの状態を表示します。

□ Active Directory サーバ

Active Directory の FQDN (完全修飾ドメイン名) を入力します。

○ POINT

- ▶ IP アドレスでは使用できません。

例えば、Active Directory のホスト名が「machine」で、ドメイン名が「adtest.co.jp」の場合、入力すべき FQDN は次のとおりです。

machine.adtest.co.jp

□ ドメイン管理者アカウント名

Active Directory の管理者権限を持つアカウント名を入力します。

○ POINT

- ▶ ドメイン管理者アカウントは Active Directory の「Users」コンテナに所属している必要があります。

□ パスワード

Active Directory の管理者権限を持つアカウントのパスワードを入力します。

□ 再入力

「パスワード」に入力したのと同じパスワードを入力します。

□ グループマッピング

ローカルグループと Active Directory 組織単位 (OU) をマッピングさせ、マッピングされたローカルグループと組織単位 (OU) の所属アカウントを同じにします。

□ アクセス時ユーザを自動追加する

本装置に登録されていない場合、装置にアクセスした Active Directory のアカウントを自動的に本装置のアカウントに追加します。

○ POINT

- ▶ 追加する際にはグループマッピングテーブルに基づいてマッピングします。
- ▶ マッピングテーブルで指定されていないOUに所属しているActive Directoryアカウントは「同期対象OUに所属していないユーザは自動追加しない」オプションに依存します。

□ 同期対象 OU に所属していないユーザは自動追加しない

マッピングテーブルで指定されている OU に所属している Active Directory アカウントのみ自動追加されるアカウント対象となります。それ以外の OU に所属している Active Directory アカウントは装置に自動追加されません。

POINT

- ▶ 追加する際にはグループマッピングテーブルに基づいてマッピングします。
- ▶ チェックがない場合は、Active Directoryに登録されている全てのアカウントが対象となり、マッピングテーブルで指定されていないOUに所属しているActive Directoryアカウントはeveryone グループのみに追加されます。
- ▶ 本オプションを有効にする為には、「アクセス時ユーザを自動追加する」も有効にする必要があります。よって、「アクセス時ユーザを自動追加する」が無効な場合は本オプションも無効になります。

□ クリア

設定した Active Directory 情報をクリアします。

□ 参照と編集

グループマッピングテーブルの一覧を参照、編集する画面に移動します。

□ 保存

設定した Active Directory 情報を保存します。

保存した後「ログの参照」をクリックして、ログにエラーがないことを確認してください。

□ ログの参照

Active Directory 認証のログを表示します。

□ ヘルプ

Active Directory 認証のヘルプ画面を表示します。

POINT

- ▶ 本機能をサポートしている AD 認証サーバーは、Microsoft Windows Server (Windows Server 2003 / 2000 Server) です。
- ▶ Active Directory 認証を行う場合、Active Directory ドメインの名前解決をするために本装置の DNS サーバ設定を実施してください。
- ▶ 正しく Active Directory 情報を入力したにもかかわらず、「Active Directory ドメインへの接続に失敗しました。」エラーが表示される場合があります。本装置と Active Directory サーバとの時刻にずれがないか確認してください。
Active Directory ではユーザ認証に Kerberos (ケルベロス) と呼ばれるプロトコルを採用しており、Kerberos ポリシーである「コンピュータの時計の同期の最長トレランス」が設定されています。ご購入時には 5 分と設定されていますので、この場合、本装置と Active Directory サーバとの時刻のずれを 5 分以内にする必要があります。
Kerberos ポリシーについて、詳しくはマイクロソフト社のホームページ (<http://www.microsoft.com/japan/technet/security/topics/issues/w2kccadm/w2kadm09.asp>)
- ・マイクロソフト社のホームページやその内部の構成などは予告なく変更される場合があります。その場合は、マイクロソフト社のサイトのトップページから次のキーワードで検索し、情報を探し出してください。
 - コンピュータの時計の同期の最長トレランス
 - アカウントポリシー

- Kerberos ポリシー

- ▶ 「アクセス時ユーザを自動追加する」を有効にしていても、ユーザを自動追加できない場合があります。これは Active Directory 側で設定されている LDAP ポリシーにて、定義されている「MaxPageSize」の値(ご購入時の設定は 1000)以上のアカウントが Active Directory ドメインに登録されているためである可能性があります。マイクロソフト社のホームページ (<http://support.microsoft.com/kb/315071/ja>) をご覧のうえ、LDAP ポリシーの設定変更を行ってください。
- ・マイクロソフト社のホームページやその内部の構成などは予告なく変更される場合があります。その場合は、マイクロソフト社のサイトのトップページから次のキーワードで検索し、情報を探し出してください。

 - MaxPageSize
 - LDAP ポリシー
 - Ntdsutil.exe

■ グループマッピング



The screenshot shows the 'Group Mapping' configuration page for 'Network HDD'. The page has a header with tabs: システム, ステータス, 認証設定, 共有設定, ユーティリティ. The main content area is titled 'グループマッピング' and shows a table with the following data:

ローカルグループ	Active Directory 組織単位(OID)	サブOUを含まない
group01	第1事業部第1技術部第1課	

Below the table are synchronization settings:

- Active Directory との同期を定期的に実施する
- 開始時刻: 12:00 am
- 同期間隔: 8 時間

Buttons at the bottom include '保存' (Save), 'ログの参照' (View Log), and '戻る' (Back).

The 'アカウント選択' section contains a note: '本装置に登録可能な最大アカウント数は255です。Active Directory と同期してアカウントを取得後、これを超える場合は自動的にアカウント追加されません。アカウントを選択してください。' and a 'アカウント選択' button.

グループマッピングの一覧の参照、編集を行います。そして、グループマッピングテーブルに基づいて Active Directory との同期を行います。

同期とは、Active Directory のアカウント情報を取得し、作成したグループマッピングテーブルと照らし合わせて、指定されているローカルグループと組織単位 (OU) が同じになるように Active Directory 側の変更内容を反映させることです。

□ グループマッピング一覧

設定されたグループマッピングの全リストを表示します。

- ローカルグループ
- 本装置のグループ

● Active Directory 組織単位 (OU)

ローカルグループにマッピングされた Active Directory 組織単位 (OU)
「ただちに同期」をクリックして Active Directory と同期した場合、チェックを付けたグループ
マッピングに基づいてマッピングします。

POINT

- ▶ 装置にアクセスしたActive Directoryのアカウントを自動的に本装置のアカウントに追加する場合や Active Directory との同期を定期的に実施する場合、チェックがなくてもグループマッピングテーブルに基づいてマッピングします。

□ 全て選択

「ただちに同期」をクリックして Active Directory と同期する際、全てのグループマッピングに基づいてマッピングする為に、グループマッピングの全リストにチェックを付けます。

□ただちに同期

ただちに Active Directory との同期を行います。

□編集

グループマッピングを作成、編集する画面に移動します。

POINT

- ▶ 認証選択方式の変更、グループマッピングの変更ですでに本装置に登録されているアカウントの削除は行われません。
- ▶ グループマッピングテーブルに基づいてローカルグループへのアカウントの所属・脱退が行われます。よって、マッピングテーブルに無いローカルグループの所属アカウントは同期後も同じになります。
 - ・ 例
ローカルグループや所属しているアカウントは次のとおりです。
 - Group1 (user1, user2, user3)
 - Group2 (user4, user5, user6)
 - Group3 (user7, user8, user9)ここで、Group1 とはグループ名で、user1 は装置に登録済みのアカウントになります。その他も同様です。
AD 認証に切り替えて、次のようなグループマッピングテーブルを作成します。
 - Group1 = OU1 (user4, user5, user6)
 - Group2 = (user7, user8, user9)ここで、Group1 とはグループ名で、OU1 は Active Directory の OU 名になり、user4、user5、user6 は OU1 に所属している Active Directory アカウントになります。その他も同様です。
同期実施後、ローカルグループに所属しているアカウントは次のとおりになります。
 - Group1 (user4, user5, user6)
 - Group2 (user7, user8, user9)
 - Group3 (user7, user8, user9)user1、user2、user3 は削除されず、everyone グループのみの所属となります。
- また、Active Directory 側でアカウントの追加や所属 OU の変更があれば、Active Directory との同期後にその内容が反映されます。ただし、everyone グループには全てのアカウントが所属します。
 - ・ 例
次のようにグループマッピングテーブルを作成します。
 - Group1 = OU1 (user1, user2, user3)
 - Group2 = OU2 (user4, user5, user6)

- Group3 = OU3 (user7, user8, user9)

同期実施後、ローカルグループに所属しているアカウントは次のとおりになります。

- Group1 (user1, user2, user3)
- Group2 (user4, user5, user6)
- Group3 (user7, user8, user9)

所属 OU が次のように変更されたとします。

- Group1 = OU1 (user1, user2, user9)
- Group2 = OU2 (user4, user5)
- Group3 = OU3 (user6)

同期実施後、ローカルグループに所属しているアカウントは次のとおりになります。

- Group1 (user1, user2, user9)
- Group2 (user4, user5)
- Group3 (user6)

user3, user7, user8 は削除されず、everyone グループのみの所属となります。

- ▶ Active Directory 側でアカウントが無効である場合、グループマッピングで指定されていればマッピングされますが、Active Directory 認証にて本装置にアクセスできません。
guest アカウントはデフォルトで存在していますが、AD 認証に関しては他のアカウントと同様です。
- ▶ マッピングテーブルで指定されているOUがActive Directoryに存在しない場合、同期後ログに次のようなログが記録されます。
 - ・ エラー：指定した OU < OU 名 > は Active Directory に存在しません。
この場合、マッピング済みのアカウントは本装置から削除されませんが、everyone グループのみの所属となります。
- ▶ マッピングテーブルで指定されているローカルグループが本装置に存在しない場合、同期後ログに次のようなログが記録されます。
 - ・ エラー：指定したローカルグループ < ローカルグループ名 > は存在しません。
この場合、本装置にマッピングされますが、指定したローカルグループは存在しないため、everyone グループのみの所属となります。

□ Active Directory との同期を定期的に実施する

Active Directory と定期的に同期する場合にチェックします。

- 開始時刻

定期的に同期を開始する時刻を入力します。

「12:00am」は夜中の 12 時、「12:00pm」は昼の 12 時を表します。

- 同期間隔

同期を実施してから、次に同期するまでの間隔を入力します。

□ 保存

Active Directory との同期を定期的に実施する設定を保存します。

□ ログの参照

Active Directory 認証のログを表示します。

□ 戻る

戻るで前の画面に戻ります。

□ ヘルプ

グループマッピングのヘルプ画面を表示します。

□ アカウント選択

Active Directory と同期して取得したアカウント数と本装置にすでに登録されているアカウントの合計が 255 を超える場合は、本装置へのアカウント追加は自動的に行われませんので、このボタンを押してアカウント選択画面に移動します。アカウント選択画面で選択したアカウントは、マッピングテーブルに基づいてローカルグループに追加されます。

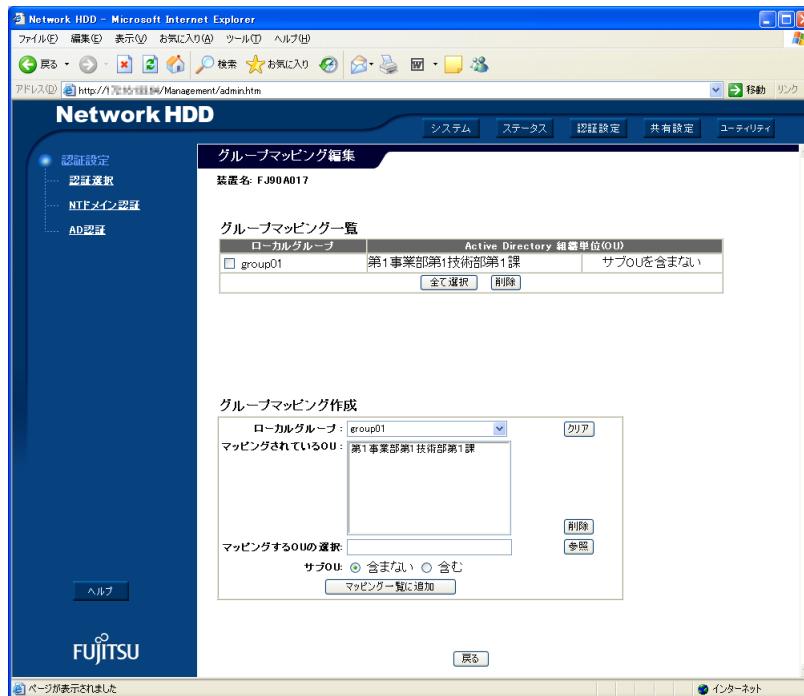
◀ 重要

- ▶ Active Directory 認証設定では、本装置内にはパスワードは保存されていません。
Active Directory 認証を無効にしてローカル認証する場合は、各アカウントに対してパスワードを設定する必要があります。

POINT

- ▶ Active Directory からアカウントを削除しても、本装置のアカウントリストからは削除されません。削除したい場合は、アカウント画面から削除してください。
- ▶ Active Directory 認証設定時に新規にアカウントを自動的に追加する場合は、Active Directory 側にアカウントを追加してください。
- ▶ 本装置にすでに登録されているアカウントの合計が 255 に達している場合はアカウントの追加は行われませんが、すでに登録されているアカウントに対して Active Directory 側で所属 OU などの変更内容を反映します。
- ▶ 日本語 (2 バイト文字など) Active Directory 組織単位 (OU) からのマッピングも可能です。ただし、Active Directory から日本語 (2 バイト文字など) のアカウントは取得しません。
- ▶ 制限文字を使用したアカウントは取得されません。
- ▶ 「-」または「#」から始まるアカウントは取得されません。
- ▶ サーバーやネットワークの環境によっては、Active Directory からアカウントを取得できない場合があります。

■ グループマッピングの編集



グループマッピングの作成、削除、編集を行います。

□ グループマッピング一覧

設定されたグループマッピングの全リストを表示します。

● ローカルグループ

本装置のグループ

● Active Directory 組織単位 (OU)

ローカルグループにマッピングされた Active Directory 組織単位 (OU)

グループマッピングにチェックを付けて「削除」をクリックすると、そのグループマッピングは一覧から削除されます。

□ 全て選択

一括して全てのグループマッピングを削除するために、グループマッピングの全リストにチェックを付けます。

□ 削除

選択したグループマッピングを一覧から削除します。

□ グループマッピング作成

本装置のローカルグループと Active Directory 組織単位 (OU) の対応付けを行います。

□ ローカルグループ

装置のグループリストから選択します。

□ マッピングされている OU

ローカルグループにマッピングされている OU の一覧が表示されます。

□ マッピングする OU の選択

ローカルグループにマッピングしたい OU を選択します。右の「参照」をクリックして、「組織単位 (OU) 一覧参照」画面で OU を選択します。

POINT

- ▶ 選択できる OU 全体の長さは 255 バイトまでになります。

□ サブ OU

Active Directory と同期する場合、マッピングする OU のサブ OU もマッピングする対象とするかどうかを選択します。

- ・含まない・・・指定した OU 直下のみ
- ・含む・・・指定した OU 以下全てのサブ OU を含む

□ クリア

マッピングする OU の選択やサブ OU の設定をクリアします。

□ 削除

マッピングされている OU の一覧から削除したい OU を選択し、「削除」をクリックして削除します。

□ 参照

ローカルグループにマッピングしたい OU を選択するために、「組織単位 (OU) 一覧参照」画面を開きます。

□ マッピング一覧に追加

選択した OU をローカルグループにマッピングするために、マッピング一覧に追加します。

□ ヘルプ

グループマッピング編集のヘルプ画面を表示します。

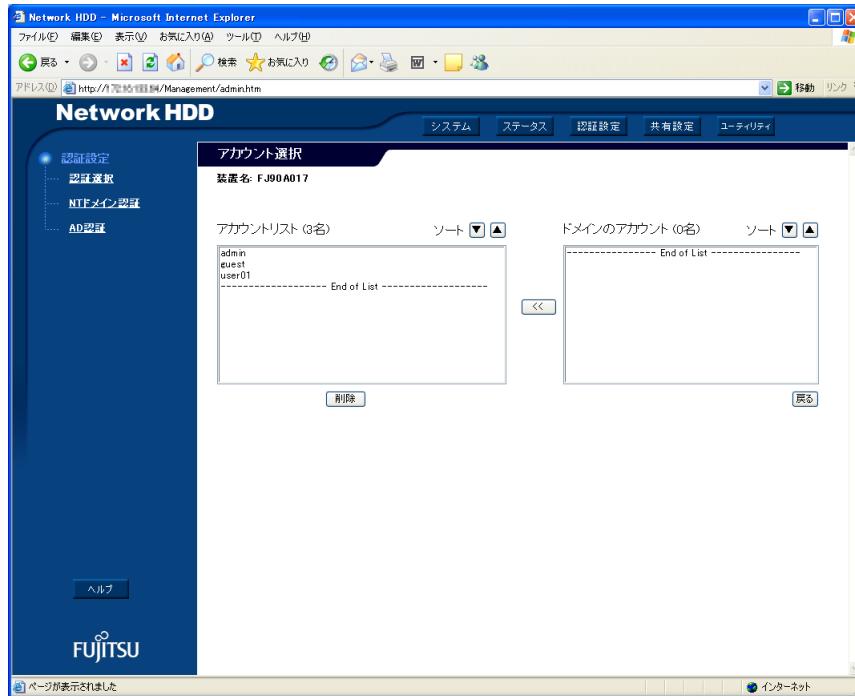
□ 戻る

操作が終了した場合、「戻る」で前の画面に戻ります。

POINT

- ▶ Administrator グループへのマッピングはできません。
Administrator グループへ所属させたい場合は、いったん Active Directory アカウントを本装置のアカウントに追加し、管理者が Web 設定画面上から Administrator グループへ登録してください。
- ▶ everyone グループへのマッピングはできませんが、本装置のアカウントに登録される場合、全てのアカウントが自動的に everyone グループ所属になります。
- ▶ 1つのローカルグループに対して、1つの OU だけではなく、複数の OU をグループマッピング一覧に追加できます。また、1つの OU を複数のローカルグループに関連付けてグループマッピング一覧に追加できます。

■ アカウント選択



ドメインコントローラから取得したアカウントを、本装置のアカウントリストへ登録することができます。

□ アカウントリスト

本装置にすでに登録されているアカウントです。

□ ドメインのアカウント

本装置へ登録可能なドメインコントローラのアカウントです。

□ ソート

アカウントリストのソートを行います。

- ・▲・・・昇順にソートします。
- ・▼・・・降順にソートします。

□ アカウント選択

右側のドメインのアカウントフィールドからアカウントを選択し、「<<」をクリックすると、選択したアカウントがアカウントリストへ登録されます。

□ 選択したユーザの削除

左側のフィールドからアカウントを選択し「削除」をクリックすると、選択したアカウントが本装置から削除されます。

操作が終了したら、「戻る」ボタンで前の画面に戻ります。

POINT

- ▶ 本装置にすでに登録されているアカウントと、本装置に登録するためにドメインから取得したアカウントとの合計が 255 を超えた場合、本画面から登録するアカウントを選択する必要があります。
「アカウントリスト」には本装置にすでに登録されているアカウントが表示され、255 までアカウントを追加登録できます。255 を超えるアカウントを登録することはできません。登録されているアカウント以外のアカウントを登録したい場合は、アカウントリストから不要なアカウントを削除してください。
「ドメインのアカウント」には本装置に登録するためにドメインから取得したアカウントが表示されます。NT ドメイン認証の場合はそのドメインに属している全てのアカウントが、Active Directory 認証の場合はマッピングの対象となっている ONU に属しているアカウントが表示されます。登録したいアカウントを選択し、「アカウントリスト」に追加してください。ただし、表示されるアカウントは数の最大値は、「最大 ドメインアカウント数」(→ P.79) で表示される値になります。
ドメインコントローラに最大ドメインアカウント数以上のアカウントが存在し、「アカウントリスト」に表示されないアカウントを登録したい場合は、本画面でのアカウント選択登録は行わないで、Windows エクスプローラ・FTP によるアクセスや Web ブラウザによる設定ページへのアクセスを登録したいアカウントのアカウント名及びパスワードを入力して行ってください。すると、自動的にそのアカウントが本装置へ登録されます。
- ▶ 「アクセス時ユーザを自動追加する」を有効にしていても、ユーザを自動追加できない場合があります。これは Active Directory 側で設定されている LDAP ポリシーにて、定義されている「MaxPageSize」の値(ご購入時の設定は 1000)以上のアカウントが Active Directory ドメインに登録されているためである可能性があります。マイクロソフト社のホームページ (<http://support.microsoft.com/kb/315071/ja>) をご覧のうえ、LDAP ポリシーの設定変更を行ってください。
 - ・マイクロソフト社のホームページやその内部の構成などは予告なく変更される場合があります。その場合は、マイクロソフト社のサイトのトップページから次のキーワードで検索し、情報を探し出してください。
 - MaxPageSize
 - LDAP ポリシー
 - Ntdsutil.exe
- ▶ 取得するアカウント数が多くなると、表示に時間がかかる場合があります。
- ▶ 「ドメインのアカウント」に表示できる最大ドメインアカウント数は 10000 です。

■ AD 認証の手順

AD 認証の簡単な手順は次のとおりです。

- 1 「認証選択」(→ P.63) で、「AD 認証」を有効にします。
- 2 「AD 認証」(→ P.69) で Active Directory サーバの情報を入力し、保存します。
- 3 「ログの参照」をクリックして、エラーのないことを確認します。
- 4 「グループマッピング」の「参照と編集」をクリックします。
「グループマッピング」(→ P.72) が表示されます。
- 5 「編集」をクリックします。

6 グループマッピングの編集画面 (→ P.73) で、グループマッピングを作成します。

NetworkHDD のローカルグループと AD の OU のマッピングを行い、グループマッピング一覧に追加します。

7 「戻る」をクリックします。

「グループマッピング」 (→ P.72) に戻ります。

8 「グループマッピング一覧」からマッピングしたいグループを選択し、「ただちに同期」をクリックします。

アカウント取得 (同期) が行われます。

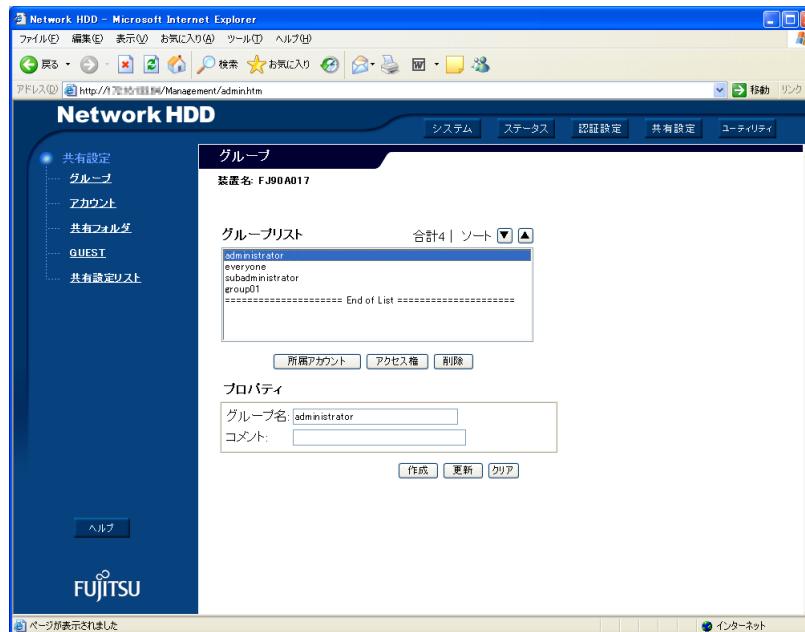
共有設定

共有設定は Web Setup ユーティリティのメインメニューの 1 つで、次の 5 つの設定カテゴリから構成されています。

● 共有設定

- ・ グループ設定
- ・ アカウント設定
- ・ 共有フォルダ設定
- ・ GUEST 設定
- ・ 共有設定リスト

共有設定 - 「グループ設定」



グループを管理します。

現在のグループを参照し、グループの共有フォルダへのアクセス権を修正し、グループに対してアカウントを追加または削除します。また、新しいグループを作成し、既存のグループを削除します。

グループリスト : すべてのグループがリスト表示されます。

everyone、subadministrator と administrator の 3 つのグループは常に存在し、削除できません。

ご購入時に次のグループが設定されています。これらは削除できず、修正も制限されています。

everyone : このグループは、削除できません。

全アカウントがこのグループのメンバであり、このグループから除外できません。

administrator : このグループは、削除できません。

常にすべての共有フォルダに対する「読み書き :Read-Write」のアクセス権をもちます。

admin アカウントは、このグループから削除できませんが、他のアカウントを追加、削除できます。

subadministrator : このグループは削除できません。

subadministrator グループメンバは管理者として Web Setup ユーティリティにログインできます。そして、admin など administrator グループメンバを除く全てのアカウントの設定変更 (プロパティ変更、パスワード変更、アカウントの追加 / 削除) ができます。

POINT

▶ 作成グループ最大数 255 (administrator、everyone、subadministrator 含む)

□新しいグループの作成

新しくグループを作成する場合は、「クリア」ボタンをクリックし、[グループ] 画面でプロパティの下のグループ名の所へ作成したいグループ名を入力、「作成」ボタンをクリックします。ここで新しく作成したグループは、アカウントの割り当てや共有フォルダの関連付けがされていません。「所属アカウント」ボタンでアカウントを関連付けることができます。また、次に説明する [アカウント] [共有フォルダ] 画面で、それぞれ関連付けを行うことができます。

□入力可能文字数・制限

グループ名には、20 バイトまでの ASCII 文字が使用可能です。また、小文字のみ使用可能です (自動変換)。

ただし以下の文字は除きます。

" / ¥ [] : ; | = . , + * ? < > ' ` \$ % @

● 数字で始まるグループは作成できません。

● ーで始まるグループは作成できません。

□ [所属アカウント] [アクセス権] [削除] [作成] [ソート] ボタン

所属アカウントボタン：選択したグループに所属アカウントの関連付けをします。複数追加、削除する場合は、「CTRL」キーまたは「SHIFT」キーを押しながら選択します。

POINT

- ▶ everyone グループは、常にすべてのアカウントに割り当てられ、グループの削除はできません。

アクセス権ボタン : 選択したグループがどの共有フォルダへアクセスできるかを指定できます。複数追加、削除する場合は、「CTRL」キーまたは「SHIFT」キーを押しながら選択します。
「<<Read」をクリックすると読み取り専用、「<<R/W」では読み書きのアクセス権で設定されます。

POINT

- ▶ administrator グループは、すべての共有フォルダへアクセスできます。

削除ボタン : 選択したグループを削除します。
作成ボタン : このボタンを使用すると、グループを作成できます。
更新ボタン : 既存のグループの登録内容を変更する場合には、このボタンを使用します。
クリアボタン : グループを新規に作成する場合には、「クリア」ボタンでフォームをクリアします。
ソートボタン : グループリストのソートを行います。

- ・▲ 昇順にソートします。
- ・▼ 降順にソートします。

□ その他の機能（検索）

グループリスト上にカーソルを置き、キーボードの文字を押すと、その文字を頭文字として持つグループにジャンプします。

共有設定 - 「アカウント設定」



既存アカウントの一覧を参照し、アカウントの情報を修正します。また、アカウントを作成、削除します。

アカウントリスト : すべてのアカウントがリスト表示されます。
admin と guest の 2 つのアカウントは常に存在し、削除できません。

ソートボタン : アカウントリストのソートを行います。
・▲ 昇順にソートします。
・▼ 降順にソートします。

プロパティ : リストから選択したアカウントのプロパティが表示されます。

ご購入時に次のアカウントが設定されています。これらは削除できず、修正も制限されています。

admin : admin アカウントは、administrator グループのメンバであるため、すべての共有フォルダに「読み書き :Read-Write」のアクセス権があります。
デフォルトでは、admin アカウントにはパスワードがありませんが、後で設定できます。パスワードを設定することをお勧めします。

guest : guest アカウントは、everyone グループのメンバであるため、everyone グループのアクセス権を持ちます。

POINT

- ▶ 登録アカウント最大数 255 (admin、guest 含む)

□新しいアカウントの作成

新しくアカウントを作成する場合は「クリア」ボタンをクリックし、以下の項目を入力します。

アカウント名：アカウント名を入力します。アカウント名には、20バイトまでのASCII文字が使用可能です。半角カタカナや2バイト文字（日本語など）は使用できません。特殊な文字（"/ ¥ [] : ; | = . , + * ? < > ' ` ）は使用できません。また、小文字のみ使用可能です（自動変換）。- や # から始まるアカウントは作成できません。

コメント：（オプション）必要であれば入力してください。

パスワード：このアカウントのパスワードを入力します。[再入力] にも同じパスワードを入力します。パスワードには、15バイトまでのASCII文字により設定できます。

これらを入力し、[作成] ボタンをクリックして内容を保存します。作成されたアカウントは、アカウントリストに表示されます。

□アカウントの編集、削除

アカウントリストでアカウント名を選択すると、そのアカウントのプロパティが表示されます。選択したアカウントを削除、編集する場合は、それぞれ [削除] [更新] ボタンをクリックしてください。

POINT

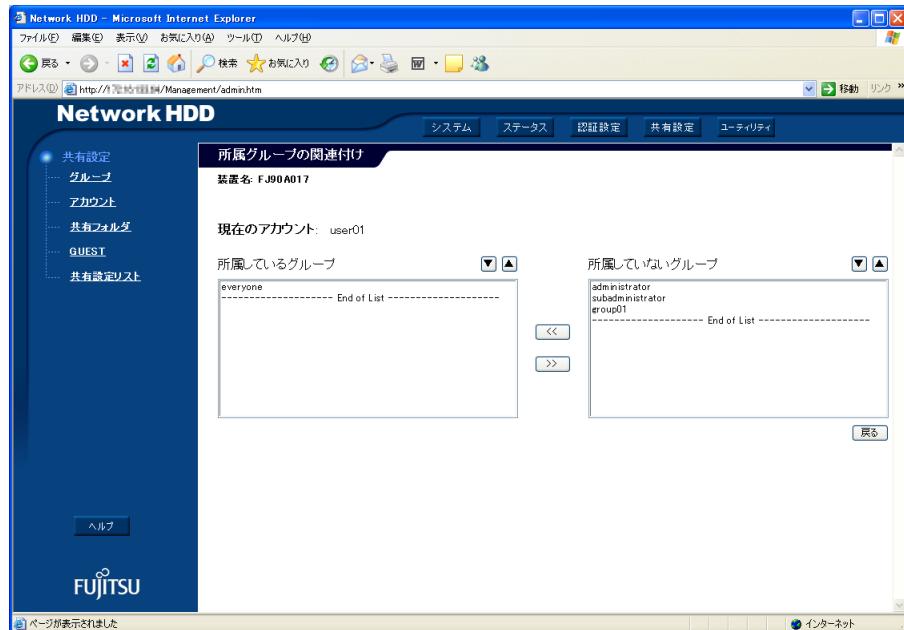
- ▶ admin と guest の2つのアカウントは、削除できません。

□容量制限機能

プロパティの [容量制限を有効にする] のチェックボックスをチェックし、容量を入力し、[作成] ボタンにより、容量制限機能が有効になります。

□ グループを関連付ける

選択したアカウントに対して、グループを関連付ける場合は共有設定の「アカウント」画面から、[所属グループ] ボタンをクリックして、「所属グループの関連付け」画面を表示します。



このグループに選択したアカウントを追加するには、右のリストからグループを選択し、[<<] ボタンをクリックします。

既に所属しているグループから除外する場合は、左のリストからグループを選択し、[>>] ボタンをクリックします。

戻るボタンでアカウント画面にもどります。

□ その他の機能 (検索)

アカウントリスト上にカーソルを置き、キーボードの文字を押すと、その文字を頭文字として持つアカウントにジャンプします。

□ 入力可能文字数・制限

アカウント名には、20 バイトまでの ASCII 文字が使用可能です。

ただし以下の文字を除きます。また、小文字のみ使用可能です（自動変換）。

"/ ¥ [] : ; | = . , * ? < > ' '

コメントには、48 バイトまでの ASCII 文字、半角文字および全角文字（漢字など）が使用可能です。ただし以下の文字は除きます。

" ¥ : | , '

□ ソート アカウントリストのソートを行ないます。

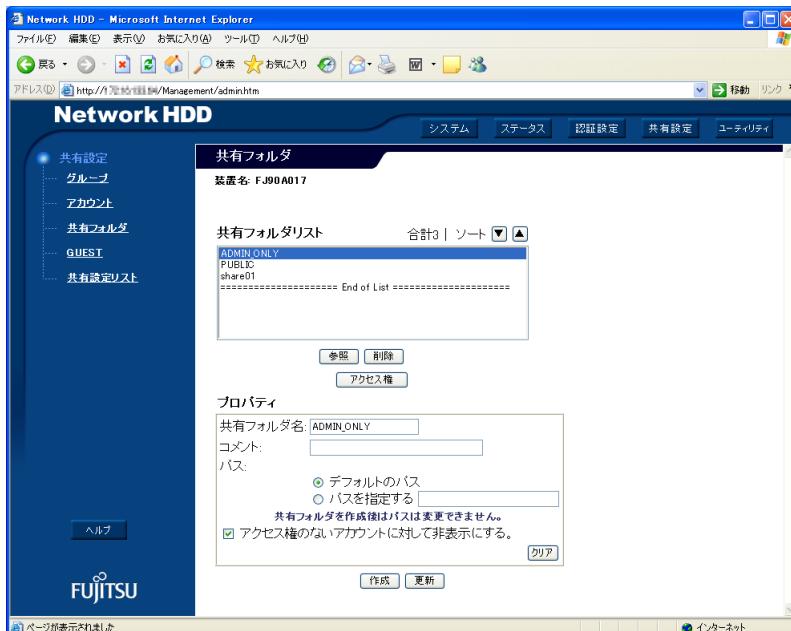
- ・▲・・・昇順にソートします。
- ・▼・・・降順にソートします。

パスワードには、15 バイトまでの ASCII 文字が使用可能です（スペースを含む）。

ただし、アクセス時に認証を行う最大文字数は、以下の制限があります。

	Microsoft ネットワー ク用ファイル共有	FTP	Web Setup ユーティ リティ	NetworkHDD Setup ユーティリティ
認証選択有効時	ドメインコントロー ラのセキュリティポ リシーに依存 注「admin」アカウン トなど除外アカウン トは 15 文字	ドメインコントロー ラのセキュリティポ リシーに依存 注「admin」アカウン トのみ上位 8 バイト	上位 8 バイト	上位 8 バイト 注認証選択の有効・無 効には依存しません
認証選択無効時	15 バイト	上位 8 バイト	上位 8 バイト	

共有設定 - 「共有フォルダ設定」



本装置の共有フォルダを管理します。「共有フォルダ」は、アカウントやグループがアクセスできるフォルダ（ディレクトリ）です。アクセス権は個々のアカウントに対してではなく、グループに対して設定します。

- アカウントは、読み書きできるアクセス権を持つ共有フォルダに対して、フォルダやファイルを作成できます。
- 複数のグループが、同じ共有フォルダへアクセス可能です。
- 共有フォルダのサブフォルダを別の共有フォルダのパスとして設定でき、それぞれの共有フォルダに対して個別にグループのアクセス権限を設定できます。

ただし、上位の共有フォルダに対してアクセス権限を持つアカウントであれば、そのサブフォルダを別の共有フォルダとして異なるアクセス権限を設定していても、上位の共有フォルダを経由して下位の共有フォルダのデータにアクセスできます。

共有フォルダのサブフォルダを別の共有フォルダのパスとして設定する場合は、上位の共有フォルダに対してアクセス権限を Administrator グループのみに設定するなど、慎重に設

定してください。

共有フォルダ名リスト：すべての共有フォルダがリスト表示されます。

参照ボタン : フォルダの中身を参照します。

削除ボタン : 選択した共有フォルダを削除します。

アクセス権ボタン : ユーザグループが選択した共有フォルダへのアクセス権を持つかどうか、またアクセス権限を表示します（読み取り専用 :Read-only か読み書き :Read-Write）。

ソートボタン : 共有フォルダ名リストのソートを行います。

・▲ 昇順にソートします。

・▼ 降順にソートします。

プロパティ : リストから選択した共有フォルダのプロパティが表示されます。

作成ボタン : このボタンを使用すると、共有フォルダを作成できます。

更新ボタン : このボタンを使用すると、共有フォルダ名を変更できます。

クリアボタン : 共有を新規に作成する場合には、「クリア」ボタンでフォームをクリアします。

ご購入時に次の共有が設定されています。これらは削除できず、修正も制限されています。

ADMIN_ONLY : ルートフォルダです。管理者がこのフォルダのコンテンツをバックアップすることで、すべてのデータがバックアップできます。
administrator グループは、常にこの共有フォルダに対する「読み書き :Read-Write」のアクセス権を持ちます。

PUBLIC : ADMIN_ONLY 下のフォルダです。ご購入時の設定では、すべてのアカウントがこの共有フォルダに対する「読み書き :Read-Write」のアクセス権を持ちます。

POINT

▶ 共有フォルダ最大数 255 (ADMIN_ONLY、PUBLIC 含む)

□新しい共有フォルダの作成

新しく共有フォルダを作成する場合は、共有フォルダのプロパティのクリアボタンをクリックし、以下の項目を入力します。

「共有フォルダ」は、アカウントやグループがアクセス可能な本装置上の共有フォルダです。本装置の administrator 権限を持ったアカウントだけが共有フォルダを作成できます。共有フォルダ内に読み書きできるアクセス権を持つアカウントは、フォルダやファイルを作成できます。

共有フォルダ名 : 共有フォルダの名前を入力します。12 バイトまでの ASCII 文字および半角カタカナおよび全角文字（漢字など）が使用できます。

以下の文字は使用できません。

"/ ? [] : ; | = . , + * ? < > ' ` \$ % @

また次の名前は使用できません。

homes、global、printers

- コメント : (オプション) 必要であれば入力してください。
- パス : 共有するフォルダのパスです。フォルダ名とパスを入力します。パス欄に記入したフォルダが存在しない場合は、新しく作成されます。[デフォルトのパス] を選択した場合、フォルダは ADMIN_ONLY フォルダに共有フォルダ名で作成されます。
- [例]  パスを指定する /public/temp/

これらを入力し、[作成] ボタンをクリックして内容を保存します。作成された共有フォルダは、最初の画面の上側の共有フォルダリストに表示されます。

POINT

- ▶ 文字制限
本装置では、パス全体の最大長は ASCII 文字の場合で 255 文字となります。
- ▶ ファイル属性の継承
本装置では、フォルダの属性（読み取り専用、アーカイブ、システム、隠しファイル）は継承されません。
また、ファイル名の属性（読み取り専用、アーカイブ、システム、隠しファイル）については次のとおりです。
 - 読み取り専用、隠しファイル属性：継承されません
 - アーカイブ、システム属性：継承されます（属性の変更はそのファイルの所有者のみが可能）
- 通常、ファイルの所有者は装置にそのファイルを保存したユーザになります。
- ▶ パスの指定に¥は使用できません。

□ 共有フォルダの編集、削除

共有フォルダ名リストで共有フォルダ名を選択すると、その共有フォルダのプロパティが下側に表示されます。選択した共有フォルダを削除する場合は、[削除] ボタンをクリックしてください。共有フォルダ名、コメントを変更する場合は、新しい内容を入力後、「更新」ボタンをクリックしてください。

※重要

- ▶ 共有フォルダの削除では、共有フォルダに設定されていたフォルダおよびフォルダ内のファイルは削除されません。フォルダおよびファイルを削除する場合は、Administrator 権限を持ったアカウントが、ネットワークコンピュータの ADMIN_ONLY フォルダから行ってください。
また、共有フォルダ作成後、パスは変更できません。

POINT

- ▶ ADMIN_ONLY、PUBLIC とも、パスの修正・削除ともできません。

□ グループフォルダ・ビュー機能

アクセス権のないアカウントに対して共有フォルダを非表示にすることができます。
「アクセス権のないアカウントに対して非表示にする」のチェックボックスにより本機能の有効 / 無効を設定できます。

□ その他の機能（検索）

共有フォルダリスト上にカーソルを置き、キーボードの文字を押すと、その文字を頭文字として持つ共有にジャンプします。

□ 入力可能文字数・制限

共有フォルダ名には、12 バイトまでの ASCII および、半角文字および全角文字（漢字など）が使用可能です。ただし以下の文字は除きます。

" / ¥ [] : ; | = . , + * ? < > ` \$ % @

共有フォルダ名に homes,global,printers は使用できません。

コメントには、48 バイトまでの ASCII 文字、半角文字および全角文字（漢字など）が使用可能です。ただし以下の文字は除きます。

" ¥ : | ,

パスには、以下の文字を除く ASCII 文字が使用可能です。

" / ¥ [] : ; | = . , + * ? < > ` \$ % @

グループ名には、20 バイトまでの ASCII 文字が使用可能です。ただし以下の文字は除きます。

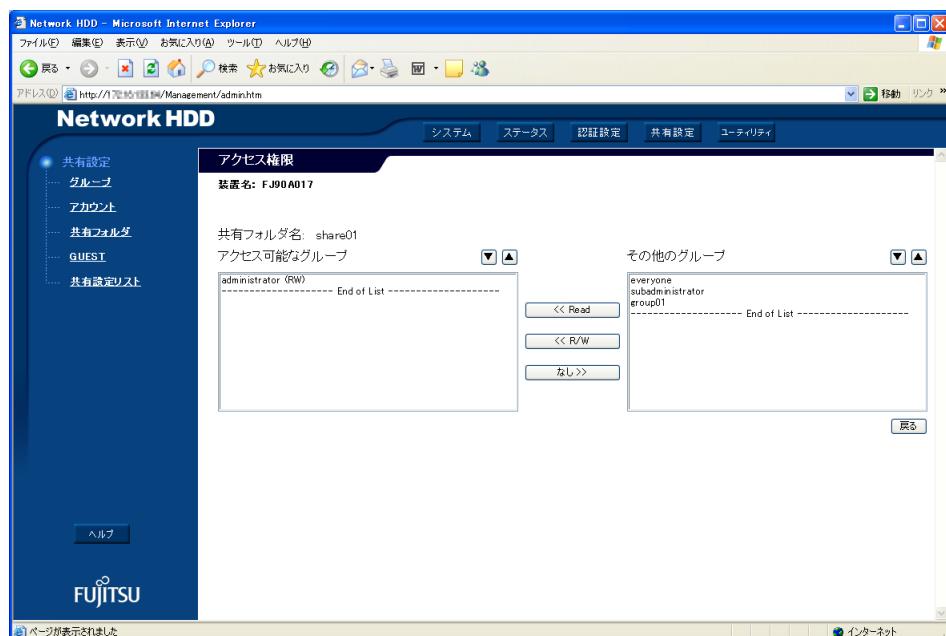
" / ¥ [] : ; | = . , + * ? < > ` \$ % @

□ アクセス権限の設定

グループのアクセス権限を設定します。「読み取り専用 :Read-only」または「読み書き :Read-Write」のいずれかを選択します。デフォルトは「読み書き :Read-Write」です。

既存の共有フォルダに対して、グループの関連付けの設定・変更を行う場合は、「共有フォルダ」で共有名を選択し、「アクセス権」ボタンをクリックします。

Administrator グループは常にすべての共有フォルダに対して、読み書き権限を持ちます。



- 共有フォルダ名 : 共有フォルダ画面で選択した共有フォルダ名を表示します。
- アクセス可能なグループ : 「アクセス可能なグループ」リストには、グループがアクセス可能なグループを表示します。アクセス権限は、R=Read Only（読み取り専用）、R/W=Read-Write（読み書き）で表示されます。
- その他のグループ : 「その他のグループ」リストにはその他のすべてのグループが表示されます。

【アクセス権限の追加】

右側のリストからグループを選択して「<<Read」をクリックすると読み取り専用の権限が与えられます。「<<R/W」ボタンをクリックすると読み書きの権利が与えられます。複数のグループを選択する場合、「CTRL」キーまたは「SHIFT」キーを押しながら選択します。

【アクセス権限の削除】

左側のリストからグループ名を選択して「なし >>」ボタンをクリックします。複数のグループを選択する場合「CTRL」キーまたは「SHIFT」キーを押しながら選択します。

ソートボタン : グループリストのソートを行います。

- ・▲ 昇順にソートします。
- ・▼ 降順にソートします。

POINT

- ▶ everyone グループや subadministrator グループはデフォルトで共有フォルダへのアクセス権限を持っていますが、アクセス権限を削除することもできます。

共有設定 - 「GUEST 設定」

□ GUEST

チェックボックスをチェックすることにより、登録されていないアカウントを「guest」としてログインさせることができます。なお、認証選択を有効にしている場合に本設定は無効となります。デフォルトでは、チェックボックスはチェックされています。



共有設定 - 「共有設定リスト」

合計3 ソート ▲ ▼		合計3 ソート ▲ ▼		合計4 ソート ▲ ▼		合計4 ソート ▲ ▼	
アカウント	グループ	共有フォルダ	グループ	アカウント	グループ	共有フォルダ	
admin	everyone	ADMIN_ONLY	administrator	admin	administrator	ADMIN_ONLY	
guest	everyone	PUBLIC	administrator	subadministrator	subadministrator	PUBLIC	
user01	everyone	share01	administrator	group01	group01	share01	

合計4 ソート ▲ ▼	
グループ	共有フォルダ
group01	user01
everyone	PUBLIC

本装置内のアカウント、グループ、共有フォルダの情報を表示します。

更新ボタン：更新ボタンをクリックすると、アップデートされたデータが表示されます。

- ソート : 項目のソートを行います。
・▲ 昇順にソートします。
・▼ 降順にソートします。

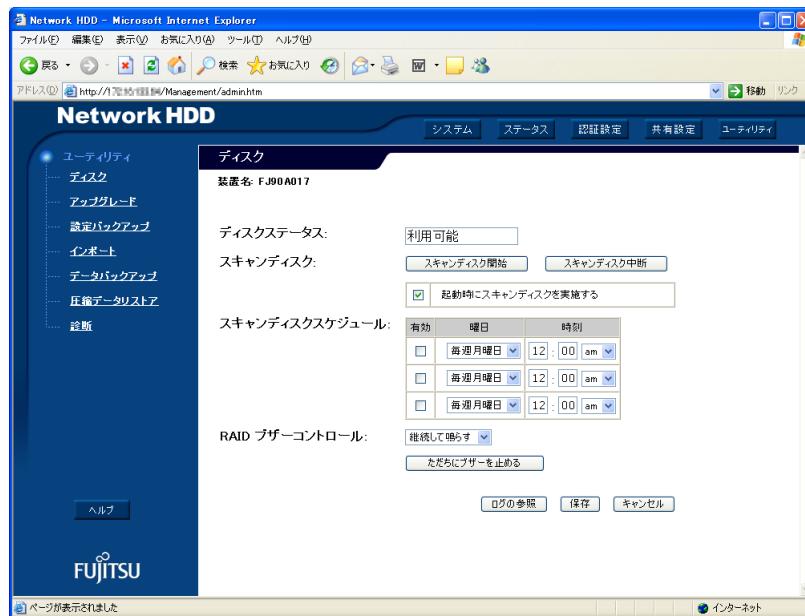
ユーティリティ

ユーティリティは Web Setup ユーティリティのメインメニューの 1 つで、次の 7 つの設定カテゴリから構成されています。

これらのユーティリティは、通常の操作では必要ありません。

- ディスク (→ P.92)
- アップグレード (→ P.94)
- 設定バックアップ (→ P.95)
- インポート (→ P.96)
- データバックアップ (→ P.97)
- 圧縮データリストア (→ P.98)
- 診断 (→ P.99)

ユーティリティ - 「ディスク」



□ディスクステータス

ディスクの現在の状況が表示されます。

利用可能 : 通常の状態です。

利用不可 : ディスクは検出されていますが、使用不可の状態です。

ディスク無し : ディスクが存在しません。

スキャン中 : スキャンディスクを実行中です。

エラー : ディスクが故障しています。

□スキャンディスク

ディスクチェックプログラムを実行し、ファイルシステムをチェックします。

スキャンディスク開始 : スキャンディスクを直ぐに開始します。

スキャンディスク中止 : スキャンディスクを中止します。

起動時にスキャンディスク: 起動時にファイルシステムの検査を実施します。
を実施する

□スキャンディスクスケジュール

スキャンディスクを行う曜日（毎特定曜日、平日、毎日）、時間を指定できます。時間を設定し、左のチェックボックスをチェックしてください。
設定入力後「保存」をクリックすることで設定が完了します。

POINT

- ▶ 時刻の設定：12：00am は夜中の12時を、12：00pm は昼の12時を表します。
- ▶ HDD の空き容量が最低約 1MB 以上ある必要があります。

□RAID ブザーコントロール

継続して鳴らす : 鳴ったブザーは継続して鳴ります。ブザーは障害の発生した方のハードディスクの鍵を解除するか、ただちにブザーを止めるのボタンを押すまで鳴り続けます。

1分後に止める : 鳴ったブザーは1分後に自動的に止まります。

ただちにブザーを止め: このボタンをクリックすると、鳴っているブザーはただち止まります。

ADMIN_ONLY フォルダ直下に作成される「lost+found <日付時刻>」フォルダに関してスキャンディスクを実行し、一部損傷していたファイルが修復されると、ADMIN_ONLY フォルダ直下に作成される「lost+found <日付時刻>」フォルダに格納されます。（ここで " <日付時刻> " とはフォルダのスキャンディスクが終了した日付と時刻 'YYYYMMDDHHSS' になります。）ただし、そのフォルダに格納されているファイルはオーナーと権限がそのまま引き継がれていますので、パーティションに注意してファイル操作を行ってください。

ユーティリティ -「アップグレード」



本装置のファームウェアのアップグレードを行います。「参照」ボタンをクリックして、アップグレードモジュールを指定し、[アップグレード開始] ボタンをクリックします。アップグレード操作中は、本装置を使用できません。またこの接続を含めたすべての接続は、切断されます。本装置は、アップグレードが終了すると自動的に再起動します。

POINT

- ▶ [アップグレード開始] ボタンをクリック後は、「アップグレードが完了しました」のメッセージが表示され、本装置が再起動するまで、他の操作を行わないでください。
アップグレードが正常に終了せず、不具合の原因となる場合があります。

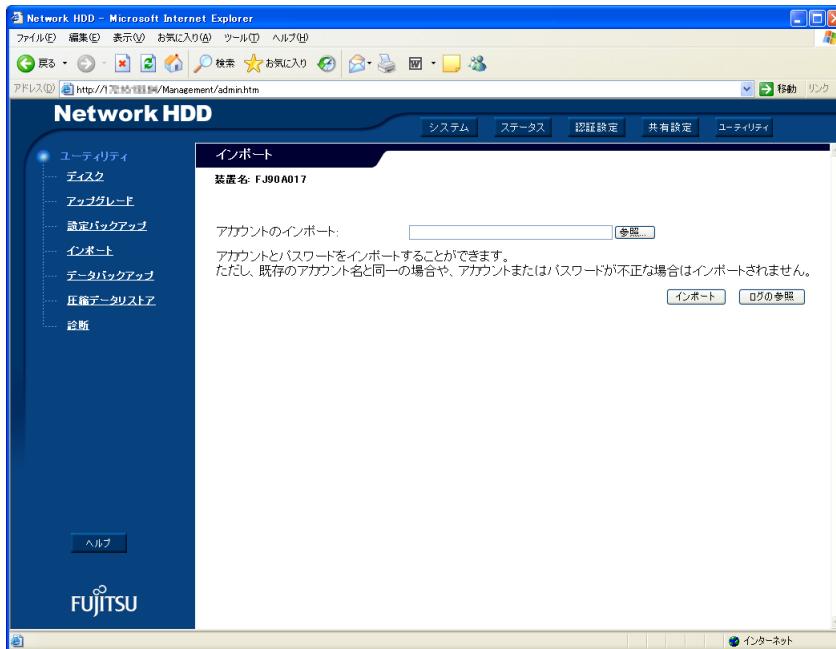
ユーティリティ - 「設定バックアップ」

設定情報のバックアップおよびリストアを行います。



詳細は、「第4章 装置のバックアップ」の「2 設定情報のバックアップ」を参照してください。

ユーティリティ - 「インポート」



CSV 形式のアカウント情報をインポートします。

アカウント情報ファイルを参照ボタンから指定し、[インポート] ボタンをクリックします。

POINT

- 既存のアカウント名と同一の場合やアカウント名が不正な場合は、インポートされません。
また、パスワードが入力されていない CSV ファイルのインポートを行うと、パスワードなしのアカウントが登録されます。

(アカウント情報作成例)

下記のようにアカウント名とパスワードを記述し、CSV 形式で保存します。

	A	B	C
1	User1	Password1	
2	User2	Password2	
3	User3	Password3	
⋮	⋮	⋮	

注 : CSV 形式で保存すると、アカウント名とパスワードどうしの間はカンマで区切られます。

重要

- インポート結果がログに出力されます。実行後、ログを確認してください。

アカウント名、パスワードの制限事項

以下の制限事項を外れたアカウント、パスワードはインポートされません。

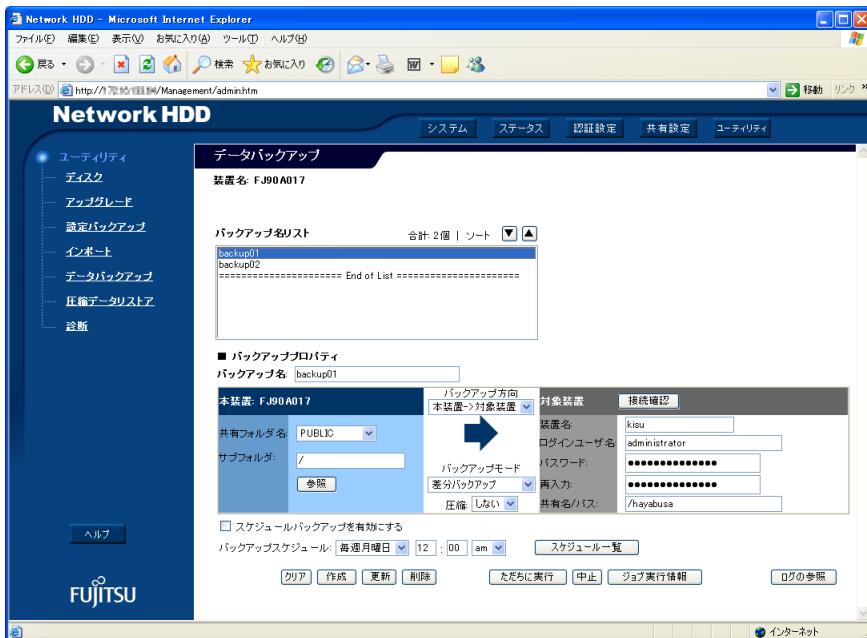
アカウント名には、20 バイトまでの ASCII 文字が使用可能です。

● 特殊な文字 (" / ¥ [] : ; | = . , + * ? < > ` `) は使用できません。

- 「-」または「#」で始まるアカウント、パスワードは CSV ファイルからインポートされません。パスワードは 15 バイトまでの ASCII 文字により設定できます。

ユーティリティ - 「データバックアップ」

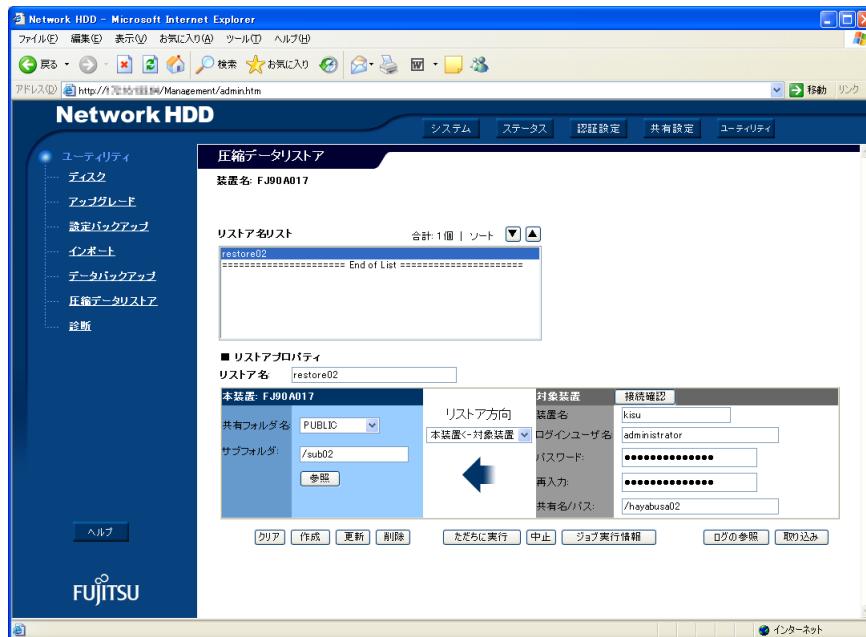
データをバックアップします。



詳細は、「第 4 章 装置のバックアップ」の「3 スケジュールによるバックアップ」を参照してください。

ユーティリティ - 「圧縮データリストア」

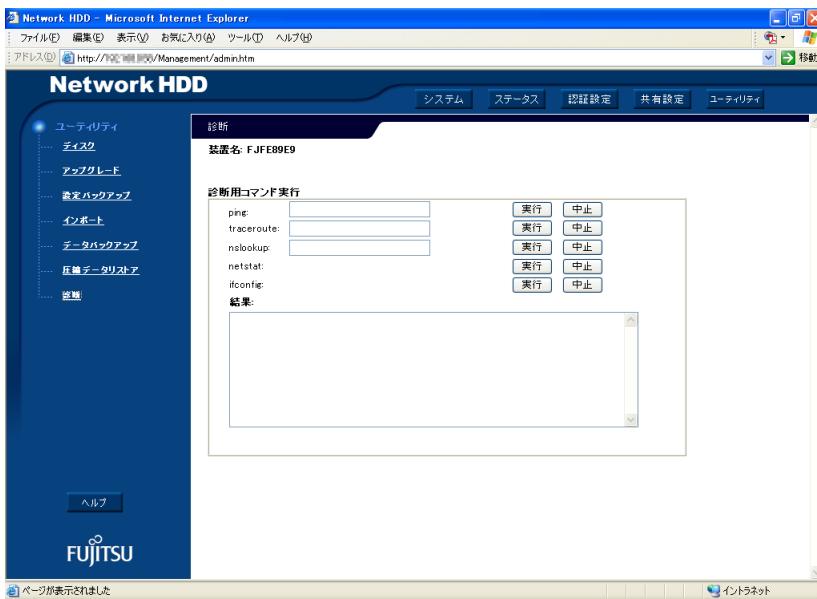
圧縮したバックアップデータをリストアします。



詳細は、「第4章 装置のバックアップ」の「4 圧縮バックアップデータのリストア」を参照してください。

ユーティリティ - 「診断」

本装置と LAN の状態を診断します。



本装置のネットワークの状態を確認するための診断コマンドを実行します。

□ 診断用コマンド実行

- ping : ネットワークの疎通を確認します。疎通確認したいホストの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
- traceroute : ネットワークの経路を調査します。経路確認したいホストの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
- nslookup : DNS サーバーに名前解決を行います。名前解決したいホストの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
- netstat : ホストのネットワーク接続状態を確認します。
- ifconfig : ネットワーク環境を確認します。
- 結果 : 診断用コマンドの実行結果を表示します。
- 実行 : 診断を実行します。
- 中止 : 診断を中止します。

5 RAID サブシステムの保守

RAID サブシステムは、自動的にデータを「ミラーリング」します。各ディスクには、データの完全なコピーが常に保持されます。

しかし RAID によるデータ保護機能は、ハードディスクの物理的故障の範囲に限定されており、全ての障害に対してデータを保全するものではありません。必ずデータのバックアップを実行してください。

バックアップの方法は、「第4章 装置のバックアップ」を参照してください。

ハードディスクの故障

ハードディスクが故障すると、LCD パネルにメッセージが表示されます。ドライブを至急交換してください。

メッセージの詳細は、「第9章 付録 3 LCD パネル表示メッセージ一覧」を参照してください。

ハードディスクの交換

重要

- ▶ 次の事項に注意してください。
 - ・新しいハードディスクは、一定条件を満たしたものでなければいけません。本装置専用のスペアディスクをご使用ください。
 - ・新しいスペアディスクを挿入すると、データが他のハードディスクからコピーされます。このプロセスは「再構築」と呼ばれます。両方のハードディスクを同時に交換すると、再構築は不可能となり本装置が故障します。
 - ・本装置は、ホットスワップ可能であり、ハードディスクの交換中でも動作可能です。
 - ・故障したハードディスクを交換するときは、本体の電源をオンにし、再構築が完了するまでオンのまましてください。

□ RAID システムの LCD 表示について

本装置の RAID システムには、次の LCD メッセージがあります。



(LCD 上) (LCD 下)

Welcome RAID / Vx.XX.XX 電源投入時直後に表示

DISK1 : OK / DISK2 : OK 正常時

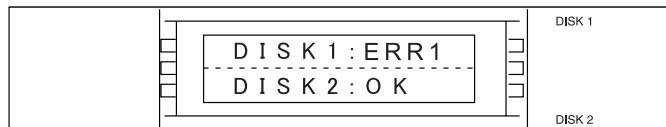
詳細は、「第9章 付録 3 LCD パネル表示メッセージ一覧」を参照してください。

□ RAID の LCD パネルに FAIL または ERR が表示された場合

どちらかのディスクの LCD パネル表示が FAIL または ERR になった場合、本体装置 (FMHD-30LR/16LR3) に添付されているマニュアルの「LCD パネル表示メッセージ一覧」に記載されている対処方法に従ってください。対処方法でディスクの交換が必要になった場合には、以下の作業を本体装置の電源を投入した状態で実施してください。

詳細は、「第9章 付録 3 LCD パネル表示メッセージ一覧」の対処方法にしたがってください。

[例] DISK1:ERR1、DISK2:OK の表示の場合



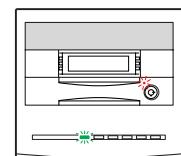
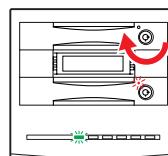
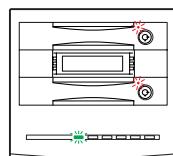
☞ 重要

▶ 下記の作業は、本装置の電源を投入した状態で実施してください。

1.LCDパネルに
ERR1が表示

2.ERR1が表示され
た方の鍵を解除

3.ERR1が表示され
た方のスペアディ
スクを引き抜く



Rebuilding

・スペアディ
スクのLED
点灯

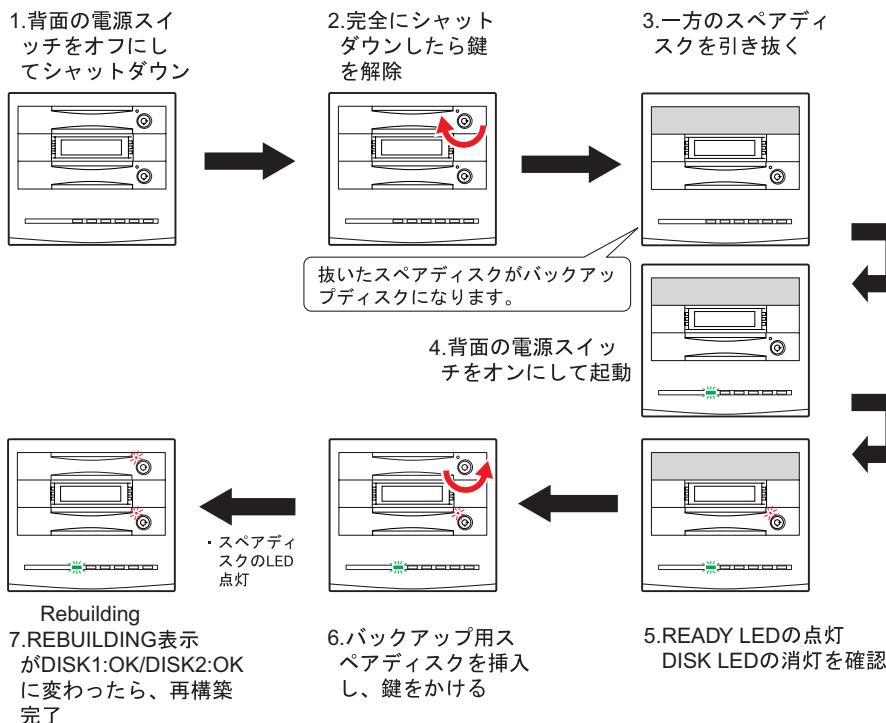
5.REBUILDING表示
がDISK1:OK/DISK2:OK
に変わったら、再構築
完了

4.新しいスペアディ
スクを挿入し、鍵
をかける

- ▶ 再構築中 (LCD 表示が Rebuilding 表示中) は、スペアディスクを取り外さないでください。
- ▶ 上記以外の操作は行わないでください。データが破壊される場合があります。
- ▶ 交換作業中は衝撃等を与えないでください。

□バックアップ用スペアディスク（バックアップディスク）を作成する場合

バックアップ用（保存用）のスペアディスク（以下、バックアップディスク）を作成する場合には、以下の作業を実施してください。



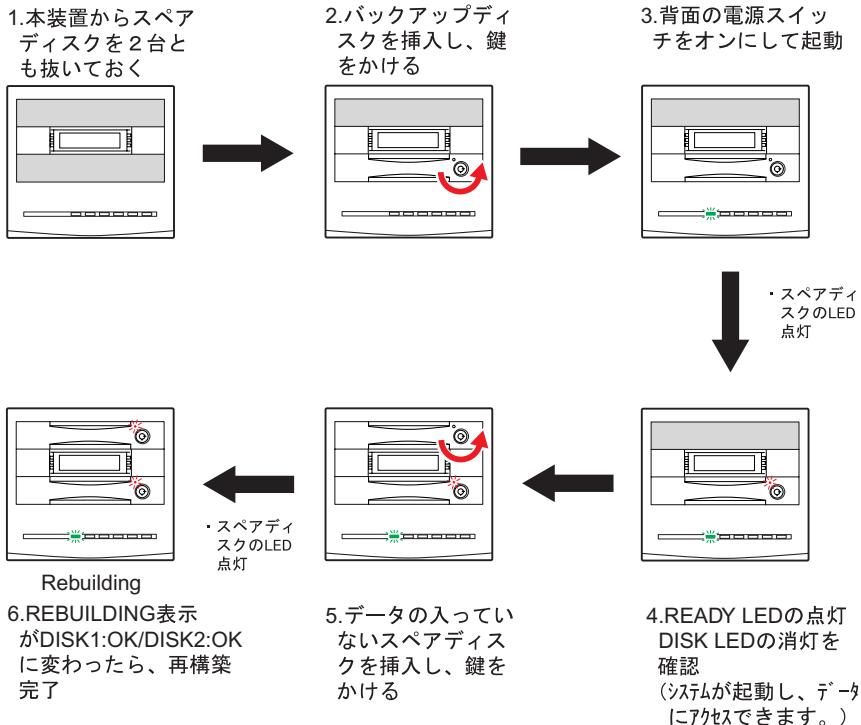
交換用のディスクは、一定条件を満たしたものを使用する必要があります。本装置専用のスペアディスクをご使用ください。ご購入に関しましては、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」までお問い合わせください。

重要

- 再構築中 (LCD 表示が Rebuilding 表示中) は、スペアディスクを取り外さないでください。
- 上記以外の操作は行わないでください。データが破壊される場合があります。
- 交換作業中は衝撃等を与えないでください。

□ バックアップディスクからデータの復元を行う場合

バックアップディスクからデータの復元を行う場合には、以下の作業を実施してください。



重要

- ▶ 再構築中 (LCD 表示が Rebuilding 表示中) は、スペアディスクを取り外さないでください。
- ▶ 上記以外の操作は行わないでください。データが破壊される場合があります。
- ▶ 交換作業中は衝撃等を与えないでください。

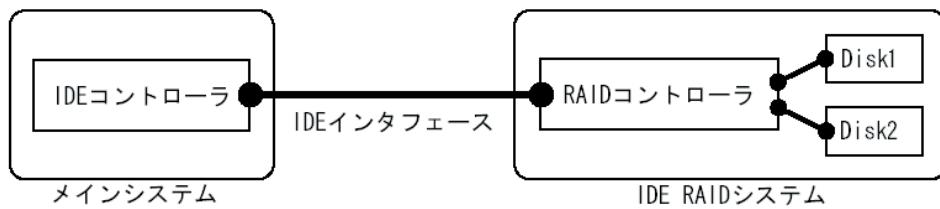
RAID の機能について

本装置には、RAID システムが搭載されています。しかし RAID によるデータ保護機能は、ハードディスクの物理的故障の範囲に限定されており、全ての障害に対してデータを保全するものではありません。例えば、急な停電等による電源切断が発生した場合や、システム本体に発生した障害がハードディスクに影響した場合には、データはハードディスク内には格納されていない場合があります。必ずデータのバックアップを実行してください。

□ RAID システムの構成

本装置に搭載される RAID システムは、2 機の同一のハードディスクを搭載することで、ディスクのミラーリングを実行します。

システム概略図



本装置の IDE RAID システムにおいては、本装置メインシステムのハードディスクアクセス信号を RAID コントローラが分配し、双方のハードディスクへ同時に書き込みを行います。このため、一方のハードディスクに障害が発生した場合においても、他方のハードディスクによってデータが維持されます。

□ システムエリアとデータエリア

本装置では、設定情報をハードディスク内に格納しています。

このため、お客様自身で任意のハードディスクを使用することはできません。

必ず、本体に添付のハードディスクおよびスペアディスクをご使用ください。

□ スペアディスクに関して

スペアディスクのご購入に関しましては、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」にお問い合わせください。スペアディスクを装着する場合の再構築の方法については「ハードディスクの交換」(→ P.100) を参照してください。

POINT

- 再構築（リビルド）では、一方のハードディスクから他方のハードディスクへ全てのデータをコピーする（ミラーリング）処理を行います。

□ ハードディスクの交換に関して

システム運用中に RAID システムの LCD パネルに FAIL または ERR が表示された場合にはディスクの交換を行う必要があります。

詳しくは、「第9章 付録 3 LCD パネル表示メッセージ一覧」を参照し、対処方法にしたがってください。

この場合には、FAIL または ERR が表示されたスペアディスクを抜き、新しいスペアディスクを挿入してください（新しいスペアディスクの装着はシステムが起動した状態で行ってください）。

□バックアップ用スペアディスクの作成について

不測の事態に備えてバックアップ用のスペアディスクを作成し、保存しておくことができます。

スペアディスクの一方を新しいスペアディスクに交換し、バックアップスペアディスクを作成します。

この場合、一度システムをシャットダウンしてから一方のスペアディスクを抜いてください。その後スペアディスクを挿入する前にシステムを起動し、システムが起動してから新しいバックアップ用スペアディスクを挿入してください。

6 活用例

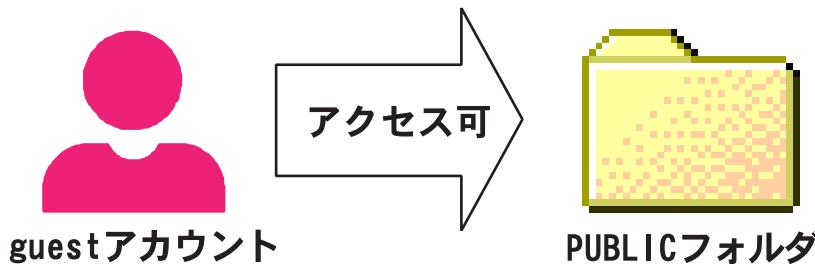
ここでは、初めてご使用になる方のための具体的な活用例をご紹介します。

- 初期設定のまま使用する
- 各々のアカウントのみが利用可能な専用フォルダを作成して運用する
- 複数のアカウントをグループ管理して、専用のフォルダを作成し、グループごとに運用する

初期設定のまま使用する

ネットワークの設定が終わった後、何の設定もせずに、装置を使用することができます。初期状態で、guest アカウントと PUBLIC フォルダが設定されています（ローカル認証の場合のみです）。

何も設定しない状態でも、guest アカウントとして public フォルダに入り、使用することができます。



- guest アカウント

初期状態から設定されている everyone グループのアカウントです。everyone グループのアクセス権を持ち、登録されていないユーザ（アカウント）は「guest」としてログインできます。

- PUBLIC フォルダ

初期状態から設定されているフォルダで、ご購入時の設定では、全てのアカウントがこの共有フォルダに対する「読み書き :Read/Write」のアクセス権限を持ちます。

- everyone グループ

初期状態から設定されているグループで、全てのアカウントがこのグループに所属します。

各々のアカウントのみが利用可能な専用フォルダを作成して運用する

アカウント「aaa」を作成し、アカウント「aaa」だけが使用できる専用フォルダを作成する方法をご説明します。

POINT

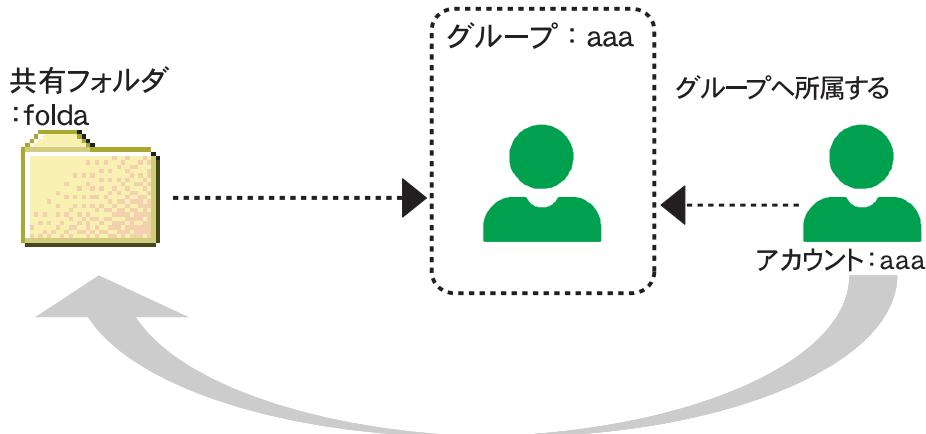
- ▶ Administrator 権限を持つアカウントはすべてのフォルダにアクセス可能です。
- ▶ 「admin」アカウントのパスワードを必ず設定してください。

■ 設定手順

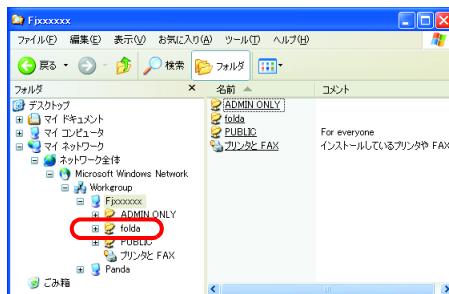
- 1 Web Setup ユーティリティにアドミニストレータ（「admin」アカウント）でログインします。
- 2 「共有フォルダ」-「アカウントの設定」から、アカウント名に aaa を作成します。
- 3 「共有フォルダ」から共有フォルダ名に folda を入力して、作成します。
- 4 「共有フォルダ」-「グループ」からグループ名に folda を入力して作成します。
- 5 「共有フォルダ」-「グループ」からグループ folda に、所属アカウントに aaa をいれます。
- 6 「共有フォルダ」から共有フォルダ名を folda を選択し、「アクセス権」を押します。
アクセス権限の画面から、グループ folda に対して RW 権を与えます。

■ 構造概念図

□ ここまでの一連の操作を行なった結果、下図のような構造ができあがりました。



□ エクスプローラからは、下の画面のように共有フォルダ「folda」が作成されていることが確認できます。



□ ここまでの一連の操作を使用する人のアカウント毎に繰り返すことで、アカウントごとの専用フォルダを作成することができます。

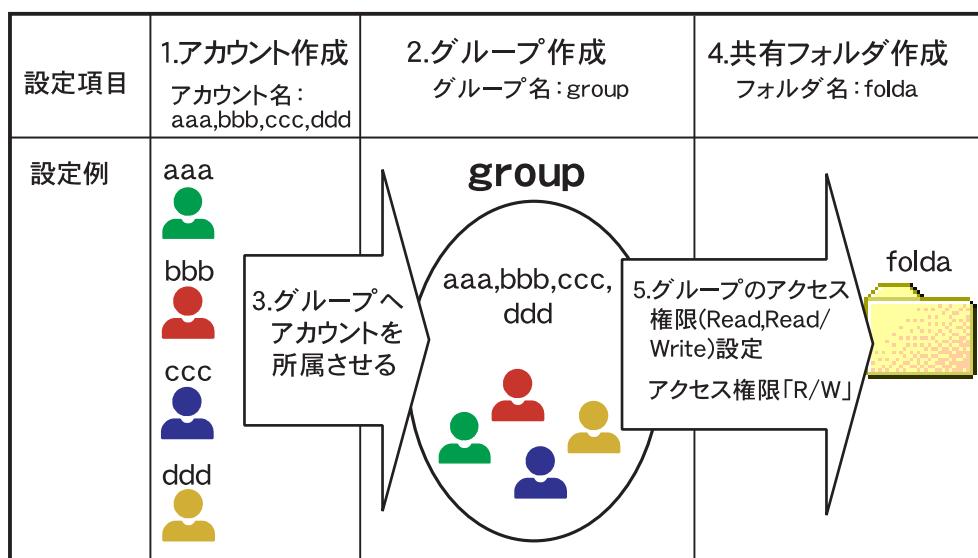
複数のアカウントをグループ管理して、専用のフォルダを作成し、グループごとに運用する

アカウントを4つ作成し、4つのアカウントを1つのグループに所属させ、そのグループだけが使用できる共有フォルダを作成する方法をご説明します。

ここでは、一連の操作を Web Setup ユーティリティの「共有設定」を使用して作成する例をご紹介します。

■ 設定手順

1. アカウントの作成 ⇒ 2. グループの作成 ⇒ 3. グループへアカウントを所属させる ⇒ 4. 共有フォルダ作成 ⇒ 5. グループのアクセス権限設定の順で完了します。



1 アカウントの作成

1. Web Setup ユーティリティにアドミニストレータ（「admin」アカウント）でログインします。

POINT

- ▶ 「admin」アカウントのパスワードを必ず設定してください。

2. ログインすると、「システム設定」の「システム」画面が表示されます。



3. 「共有設定」の「アカウント」メニューを選択し、「アカウント」画面を表示します。
4. プロパティのアカウント名へ「aaa」を、パスワード欄へパスワードを入力し、「作成」ボタンをクリックします。同様に、アカウント bbb、ccc、ddd、についても入力します。

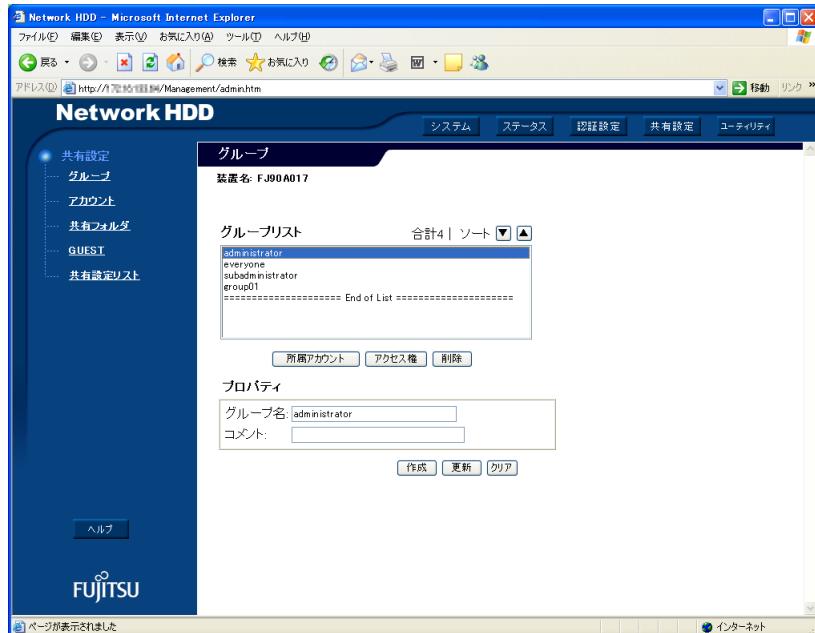
POINT

- ▶ アカウント名及びパスワードは、コンピュータでネットワークにログインするときにお使いのものと同一にする必要があります。
- ▶ パスワードは各々の利用者が設定変更できます。

5. アカウントリストに、「aaa」、「bbb」、「ccc」、「ddd」が追加されます。
6. アカウント作成完了です。

2 グループの作成

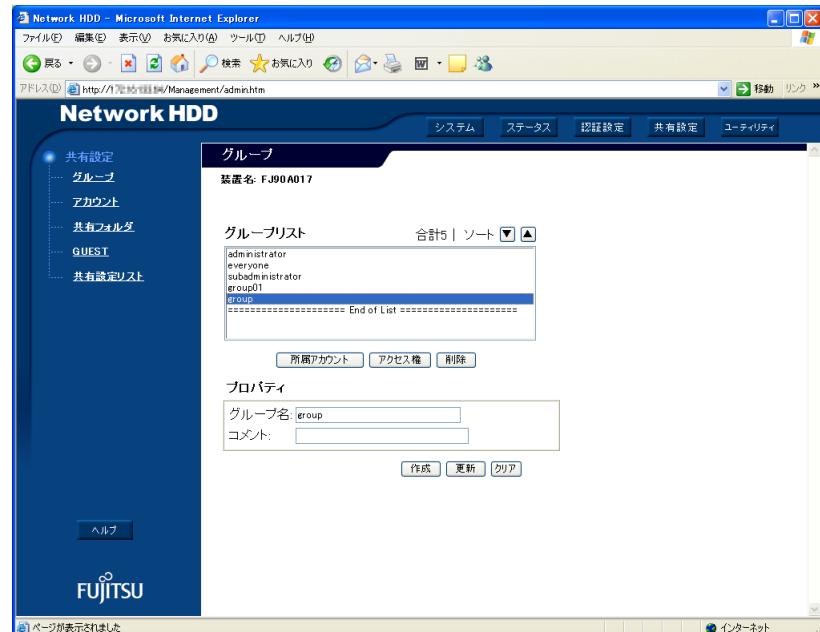
1. 共有設定の「グループ」メニューをクリックして、「グループ」画面を表示します。



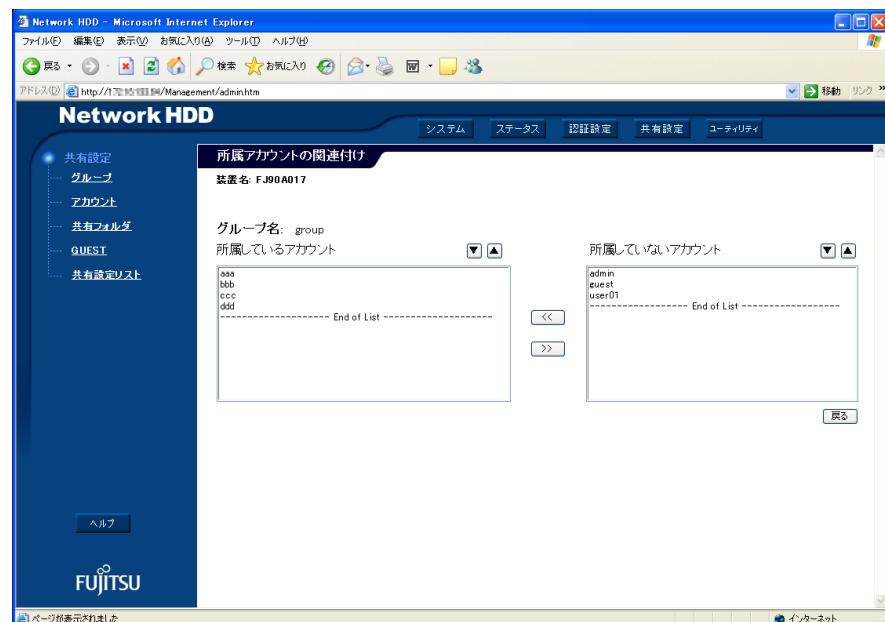
2. グループ名へ作成したいグループ名「group」を入力し、「作成」ボタンをクリックします。
3. グループリストに、「group」が追加されます。
4. グループの作成完了です。

3 グループアカウントを所属させる

1. 共有設定の「グループ」メニュー「グループ」画面のグループリストから、アカウントを所属させたいグループ名へカーソルを移動します。



2. 「所属アカウント」ボタンをクリックすると、登録されているアカウントが表示されます。



3. 所属させたいアカウント名を、「所属しているアカウント」リストへ「<>」ボタンで移動します。
4. アカウントの所属は完了です。

4 共有フォルダの作成

1. 「共有設定」の「共有フォルダ」メニューをクリックして、「共有フォルダ」画面を表示します。



2. 共有フォルダ名へ作成したいフォルダ名「folda」を入力し、「作成」ボタンをクリックします。
3. 共有フォルダ名リストに、「folda」が追加されます。
4. 共有フォルダ作成完了です。

5 アクセス権限の設定

最後に共有フォルダ「folda」に対し、グループ「group」にアクセス権限を持たせる設定を行います。

1. 「共有設定」の「共有フォルダ」画面で、共有フォルダ名リストから「folda」にカーソルを移動し、「アクセス権」ボタンをクリックします。



2. アクセス権限画面にグループ名が表示されますので、アクセスを可能にしたいグループ名を「アクセス可能なグループ」のリストへ「<<R/W」ボタンで移動します。

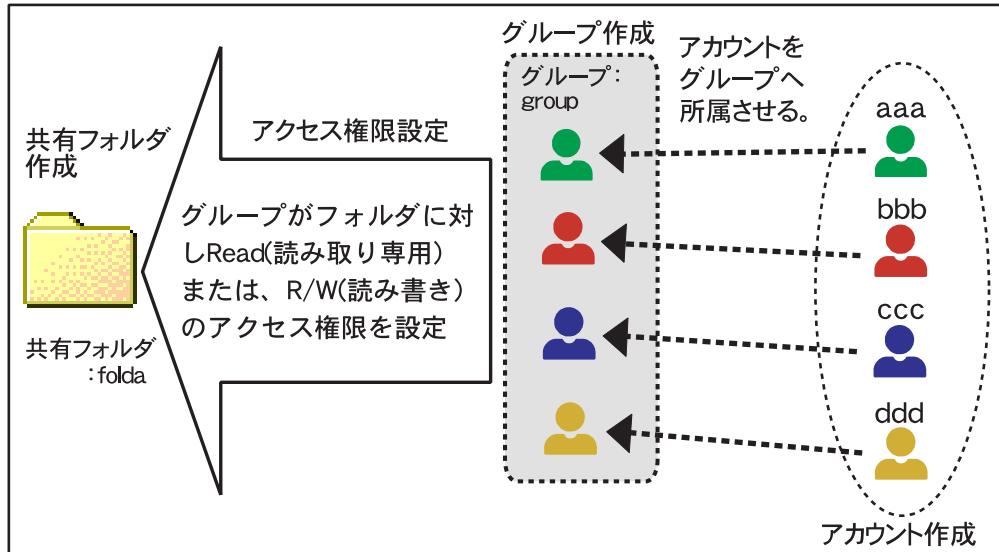


※重要

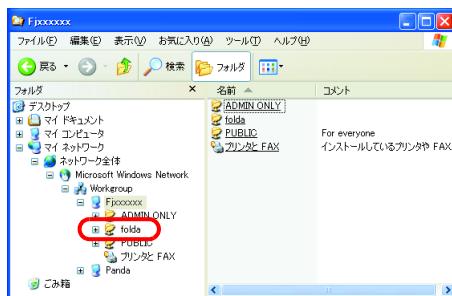
- 権限には、「読み取り専用」と、「読み書き」の2種類があります。
「読み取り専用」にする場合は「<<Read」ボタンを、「読み書き」権限を与える場合は、「<<R/W」ボタンを押してグループの移動をさせてください。

■ 構造概念図

□ ここまでの一連の操作を行なった結果、下図のような構造ができあがりました。



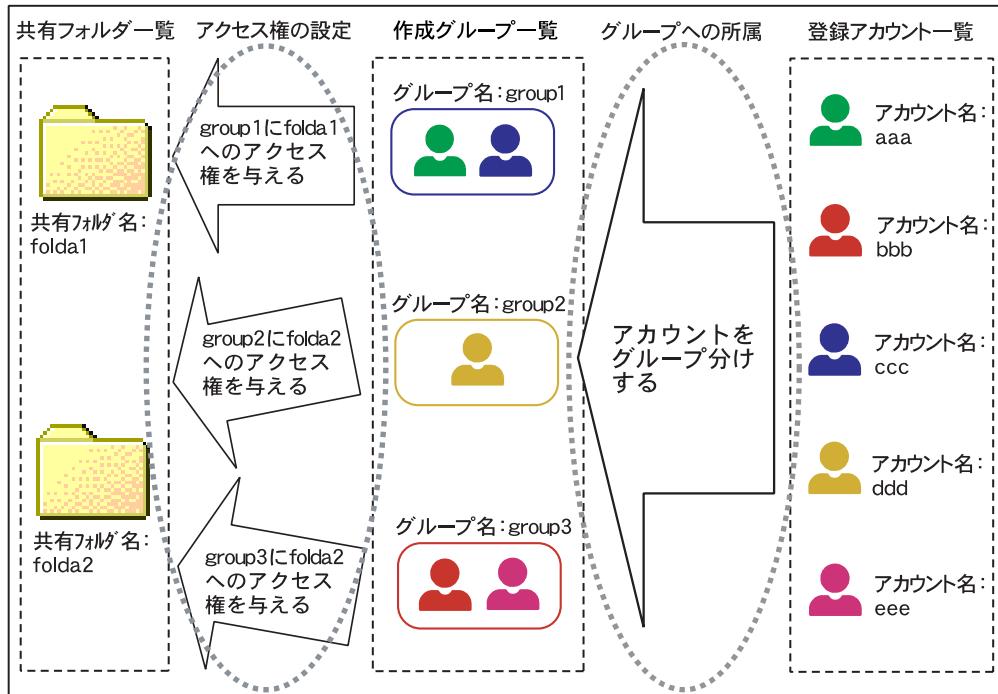
□ エクスプローラからは、下の画面のように共有フォルダ「folda」が作成されていることを確認できます。



□ ここまで 1 ~ 5 の操作を行なうことにより、複数のアカウントについてグループ管理を行い、フォルダに対してのアクセス権限をグループ単位でたえることができます。

共有フォルダ・アカウント・グループの関係

- アカウントは、必ずどこかのグループに所属させます。
- 共有フォルダに対して、アクセス権をグループ単位で設定します。
- アクセス権のあるグループに所属しているアカウントが、共有フォルダにアクセスすることができます。



第4章

装置のバックアップ

4

1 データのバックアップ	118
2 設定情報のバックアップ	119
3 スケジュールによるバックアップ	122
4 圧縮バックアップデータのリストア	132

1 データのバックアップ

アドミニストレータ権限を持ったアカウントは、どのフォルダでもバックアップできます。Windows 上で本装置の全ファイルをバックアップするには、エクスプローラからadministratorグループのアカウントでADMIN_ONLYフォルダを選択してファイルコピーすることでバックアップをとることができます。

POINT

- ▶ この操作では、設定情報はバックアップされません。
設定情報は、次項「2 設定情報のバックアップ」の操作で、バックアップをとることができます。
- ▶ 設定情報とは、以下の内容です。
 - ・装置名
 - ・Microsoft ネットワーク情報（ワークグループ名等）
 - ・アカウント情報（パスワードを含む）
 - ・グループ情報
 - ・共有情報
 - ・アカウント／グループ／共有相互のアクセス関連情報

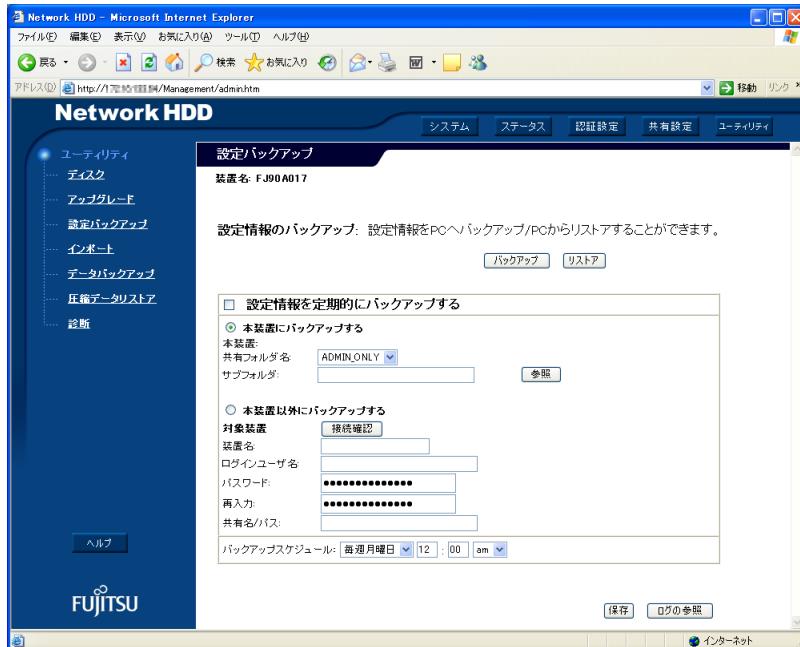
重要

- ▶ エクスプローラ等、他のユーティリティによりデータのバックアップを行った場合、そのバックアップデータの復元を行うと、データの容量制限の設定が初期状態に戻ります。
- ▶ OS によっては、容量制限機能で設定した容量を超えるファイルをコピーしようとすると、正常にコピーされません。

2 設定情報のバックアップ

設定情報は、Web Setupユーティリティのユーティリティグループの設定バックアップからバックアップすることができます。

設定バックアップ画面から、「バックアップ」または「リストア」ボタンをクリックすると、バックアップ/リストアそれぞれの画面が表示されます。



バックアップ（リストア）する情報は下記の項目です。

- システム（日付、時間を除く）
- TCP/IP 設定
- Microsoft ネットワーク（ワークグループ名等）
- FTP 設定
- E-mail 通知設定
- 電源管理設定
- NTP 設定
- SNMP 設定
- UPS 設定
- アカウント（パスワード含む）
- グループ
- 共有情報
- アカウント／グループ／共有相互のアクセス関連情報
- GUEST
- 認証選択
- ディスクユーティリティ設定
- データバックアップ設定

- 圧縮データリストア設定
- NT ドメイン設定
- AD ドメイン設定

□ バックアップ手順 (手動)

1 [バックアップ] ボタンをクリックします。

ファイルのダウンロード画面が表示されます。

2 [保存] ボタンをクリックします。

保存フォルダ名とファイル名を入力するダイアログが表示され、自由に設定して保存することができます。

ファイルが保存された後、以下のメッセージが表示されます。

「ダウンロードの完了」

3 [閉じる] ボタンをクリックします。

□ バックアップ手順 (自動)

1 「設定情報を定期的に自動バックアップ」にチェックをいれます。

2 「本装置にバックアップする」または「本装置以外にバックアップする」を選択します。

・本装置にバックアップする場合

共有フォルダ名 : 共有フォルダ名を設定します。デフォルトは「ADMIN_ONLY」になっています。

サブフォルダ : サブフォルダ名を設定します。デフォルトは空白になっています。

・本装置以外にバックアップする場合

装置名 : バックアップ先または元の装置名を入力します。

ログインユーザ名 : バックアップ先または元の装置に登録されているアカウントを入力してください。

パスワード : バックアップ先または元の装置に登録されているアカウントのパスワードを入力してください。

再入力 : 「再入力」にも同じパスワードを入力してください。

共有名/パス : バックアップ先または元の装置の共有名、及びパスを入力してください。

バックアップスケ: バックアップを実施する日時を設定します。毎特定曜日、平日、
ジュール 毎日が設定できます。

□ リストア手順

1 [リストア] ボタンをクリックします。

設定ファイルのアップロード画面が表示されます。

2 [参照] ボタンをクリックします。

ファイルの選択画面が表示されます。

バックアップにより保存したファイルを選択します。

3 [アップロード開始] ボタンをクリックします。

リストアが実行されます。

バックアップにより保存したファイルより、設定情報がリストアされます。

リストア後「リストアが完了しました。システムは 10 秒後に自動的にリブートします。」とメッセージが表示され、装置はリブートされます。

4 「閉じる」ボタンをクリックして、Web Setup ユーティリティを終了します。

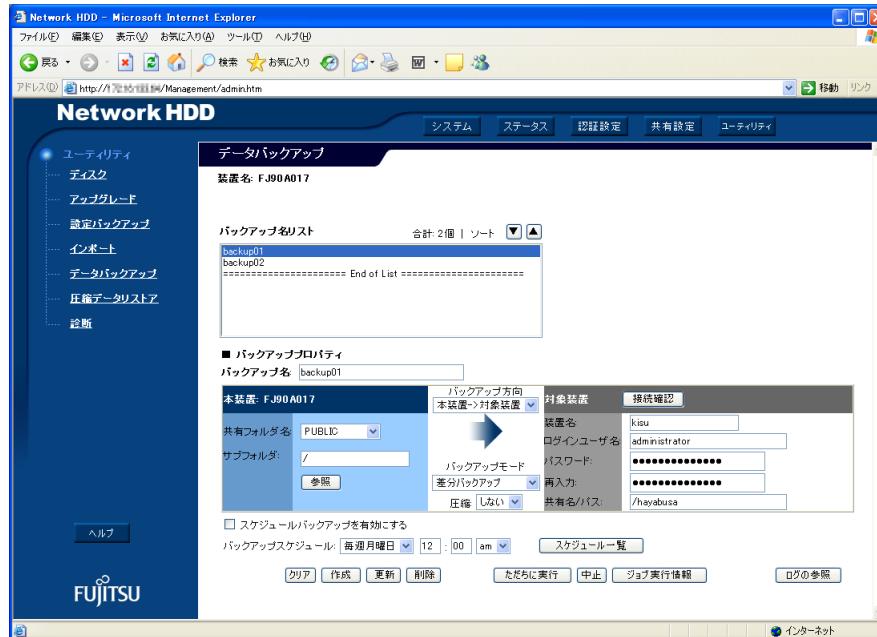
本装置はリブートされるため、リブートが完了するまではアクセスできません。

 **POINT**

- ▶ Microsoft ネットワークで使用する Admin アカウントのパスワード情報および Web Setup ユーティリティで使用するパスワード情報は、同一のものであり、バックアップされます。
- ▶ リストア後の注意事項
 - 設定情報のバックアップ時の共有フォルダ設定の構成とデータのバックアップ時の共有フォルダ設定の構成が異なるとき、構成によって共有フォルダに設定していたパスが存在しない状態になることがあります。
この場合、実在のフォルダに対する共有フォルダ設定が有効になつていませんので、共有フォルダ名リスト上の該当共有フォルダが赤字で表示（警告）されます。
該当共有フォルダを選択し、パスを指定して更新を実施してください。

3 スケジュールによるバックアップ

共有フォルダ内のデータや他の装置のデータを Web Setup ユーティリティのユーティリティのデータバックアップ画面からバックアップすることができます。



データをバックアップします。

□ バックアップ名リスト

設定済みのバックアップ名のリストです。

□ ソート

バックアップ名リストのソートを行います。

- ・▲ 昇順にソートします。
- ・▼ 降順にソートします。

□ バックアッププロパティ

バックアップ名 : バックアップ名は 50 まで登録可能です。

バックアップ方向 : バックアップ方向は 2 種類あり、バックアップ名ごとにプルダウンメニューから選ぶことができます。

- ・本装置→対象装置 : 本装置のデータをバックアップ先にコピーします。
- ・本装置←対象装置 : バックアップ元のデータを本装置にコピーします。

バックアップモード： コピーモードは3種類あり、バックアップ名ごとに選ぶことができます。

- ・ **フルバックアップ**： バックアップ元の共有内のデータをバックアップ先へコピーします。バックアップ先に同名のファイルやフォルダが存在する場合にはすべて上書きされます。
- ・ **差分バックアップ**： バックアップ元の共有内のデータをバックアップ先へコピーします。バックアップ先に同名のファイルやフォルダが存在する場合には、バックアップ元ファイルの方が新しい場合に限り上書きされます。
- ・ **拡張差分バックアップ**： 差分バックアップに加え、バックアップ元に存在しないファイルがバックアップ先に存在する場合には、バックアップ先のファイルを削除します。

POINT

- ▶ フルバックアップは、スケジュールで行うことができません。LANの負荷を軽減するために設定できないようにしています。

圧縮 : バックアップを行うときに、バックアップデータの圧縮を行うか行わないかをプルダウンメニューから選択します。

共有フォルダ名 : 本装置内の共有名をプルダウンメニューから選択します。

POINT

- ▶ ウェルカム画面の「データバックアップ」よりログインした場合には、ログインしたアカウントに対応した共有名のみ設定できます。
- ▶ 本装置へのバックアップを行う場合には、書き込み可能な共有名を指定してください。読み取り専用を指定するとエラーになります。

サブフォルダ : 参照ボタンでサブフォルダを選択します。

対象装置名 : 対象装置の装置名またはIPアドレスです。

ログインアカウント名 : 対象装置に登録されているアカウントです。

POINT

- ▶ アカウント名には、20バイトまでのASCII文字が使用可能です。
 - ・ 特殊な文字 (" / ¥ [] : ; | = . , + * ? < > ' ') は使用できません。
 - ・ - や # から始まるアカウントは作成できません。
- ▶ 対象装置にアカウントがなければ作成してください。
- ▶ 対象装置のOSがWindows MEでは対象装置名をIPアドレスで設定した場合、対象装置のOSの問題の為、正常に動作いたしません。対象装置名を設定してください。

パスワード : 装置に登録されているパスワードを入力してください。[再入力]にも同じパスワードを入力します。

共有名 / パス : バックアップ元／バックアップ先装置の共有名およびパスを入力します。

入力は、以下のルールに基づいて行ってください。

1. 最初は / (または¥) マークから始めてください。
2. / 共有名 / パスの順で入力してください。

POINT

- ▶ 共有フォルダ名は、以下の文字を除く、12バイトまでの ASCII 文字が設定可能です。
 - ・句読点、特殊文字は使用できません。
 - ・homes,global,printers は作成できません。
- ▶ 対象装置がコンピュータの場合には、共有設定を行ってください。
- ▶ 区切り文字には、/マークおよび¥マークが使用できます。

重要

- ▶ 本装置にバックアップを行う場合は、設定したアカウント専用のフォルダを作成してください。1つの共有フォルダに対して複数のバックアップを行うことはできません。
複数のバックアップを行う場合は、バックアップ名ごとにバックアップ先の共有フォルダを作成してください。

スケジュールバックアップ：チェックボックスを使い、スケジュールバックアップの有効/無効を選択します。

バックアップスケジュール：バックアップ名ごとに異なるスケジュール、時刻を設定できます。

バックアップスケジュール：「スケジュール一覧」ボタンで「バックアップスケジュール一覧」が表示されます。バックアップ名リストにあるすべてのバックアップ名のバックアップ開始時刻がわかります。



POINT

- ▶ 時刻の設定：12:00am は夜中の 12 時、12:00pm は昼の 12 時を表します。

重要

- ▶ 同時に実行できるバックアップ数は20個までです。20個を超えてスケジュールを実行しようととした場合、21 個目からは実行されません。「スケジュール一覧」ボタンで表示される「バックアップスケジュール一覧」でスケジュール内容を確認し、スケジュールが重ならないように設定してください。また、スケジュールの開始時刻が違っていても、バックアップ実行中に同時に実行されるバックアップ数が 20 個を超えた場合は動作しませんので、実行されているバックアップ数が 20 個以内になるように開始時刻を設定してください。

□ ボタン操作

- クリア : フォームのクリア、新しい送り先装置用に空のフォームを表示します。
- 作成 : バックアップ名を追加します。
- 更新 : 選択したバックアップ名の情報を更新します。
- 削除 : 選択したバックアップ名を削除します。
- ただちに実行 : 選択したバックアップがただちに実行されます。
- 中止 : 実行中のバックアップを中止します。
- ログの参照 : データバックアップのログを参照します。
- 参照 : 本装置内の共有フォルダのサブフォルダを参照します。
- 接続確認 : 対象装置の共有フォルダへアクセス可能かどうか確認します。
- スケジュール: バックアップ名リストにあるバックアップのスケジュール内容を表示します。この内容により、設定されている全てのバックアップのスケジュール開始時刻がわかります。

POINT

- ▶ バックアップを行ったデータは、エクスプローラによりバックアップ先の装置に作成された共有フォルダをコピーすることにより復元することができます。

POINT

- ▶ データバックアップ結果は、ログに出力されます。データバックアップ実行後は、「ログの参照」で必ずログを確認してください。
さらに、エラーが発生した場合は E-Mail 通知されますので、E-Mail 通知機能を有効にすることをお奨めします。
- ▶ データバックアップ機能でコピーを行った場合、送り元のファイル属性が送り先のファイル属性に継承されないことがあります。
- ▶ 本装置にバックアップを行う場合には、設定したアカウント専用のフォルダを作成して行ってください。バックアップ先に同一名称のフォルダやファイルが存在しても上書きされます。確認メッセージは出ません。

■ データバックアップ時のサブフォルダ設定例

複数のバックアップを本装置に設定して運用する場合に、「共有フォルダ」を同一にして、「サブフォルダ」を利用して整理・管理することが可能です。「共有フォルダ」と「サブフォルダ」の設定例は以下のとおりです。

以下の設定例 1～3 は、「共有フォルダ」「サブフォルダ」が設定済みで、さらに `backup_folder`(既に設定されている共有フォルダ)にデータバックアップを追加したい場合のサブフォルダの指定例です。

□ 設定例 1：既に他のバックアップ名で使用されている共有フォルダとサブフォルダ「`backup_folder/tanaka`」の中に新規サブフォルダを作成し、データバックアップを行いたい場合。

以下フォルダ名が他のバックアップ名で設定済み

- 共有フォルダ名 : `backup_folder`
- サブフォルダ : `/tanaka/mydoc`

共有フォルダ名 (例)	サブフォルダ名 (例)	左記のフォルダ名が使用されている場合で、 新規バックアップを作成時に・・・・	
		指定できないサブフォルダ名	指定できるサブフォルダ名
例 : <code>backup_folder</code>	例 : <code>/tanaka/mydoc</code>	1) <code>/tanaka/mydoc/mypicture</code> 2) <code>/tanaka/mydoc/mymusic</code> 3) <code>/tanaka/mydoc</code> (重複) 4) <code>/tanaka</code> (親フォルダ) 5) 指定無し (親フォルダ)	1) <code>/tanaka/report</code> と <code>/tanaka/report</code> 以下全て 2) <code>/yamamoto</code> と <code>/yamamoto</code> 以下全て 3) <code>/satoh</code> と <code>/satoh</code> 以下全て 4) 共有フォルダに <code>backup_folder2</code> を指定して <code>backup_folder2</code> 以下全て

■ 重要

- ▶ バックアップ先の「共有フォルダ」を既に使用しているものを指定したい場合、サブフォルダは必ず新規のものにしなければなりません。
サブフォルダは必ず重複しないように、名前を変えて作成してください。

□ 設定例 2：既に他のバックアップ名で使用されている共有フォルダ「`backup_folder`」の中に新規サブフォルダを作成し、データバックアップを行いたい場合。

以下フォルダ名が他のバックアップ名で設定済み

- 共有フォルダ名 : `backup_folder`

- サブフォルダ : /yamamoto

共有フォルダ名 (例)	サブフォルダ 名 (例)	左記のフォルダ名が使用されている前提で、 新規バックアップを作成時に・・・	
		指定できないサブフォルダ名	指定できるサブフォルダ名
例:backup_folder	例 : /yamamoto	1) /yamamoto (重複) 2) /yamamoto/mydoc 3) /yamamoto/mydoc/mypicture 4) /yamamoto/mydoc/mumusic 5) 指定無し (親フォルダ)	1) /tanaka と /tanaka 以下全て 2) /satoh と /satoh 以下全て 3) 共有フォルダに backup_folder2 を指定して backup_folder2 以下全て

POINT

- ▶ バックアップ先の「共有フォルダ」を既に使用しているものを指定したい場合、サブフォルダは必ず新規のものにしなければなりません。
サブフォルダは必ず重複しないように、名前を変えて作成してください。

□ 設定例 3：既に他のバックアップ名で使用されている共有フォルダ「backup_folder」以外の共有フォルダにデータバックアップを行いたい場合。

以下フォルダ名が他のバックアップ名で設定済み

- 指定済み共有フォルダ名 : backup_folder
- サブフォルダ : (指定無し)

共有フォルダ名 (例)	サブフォルダ名 (例)	左記のフォルダ名が既に設定されている場合で、 新規バックアップを作成時に・・・	
		指定できないサブフォルダ名	指定できるサブフォルダ名
例:backup_folder	例 : 指定無し	1) 指定無し (重複) 2) /tanaka と /tanaka 以下全て 3) /yamamoto と /yamamoto 以下全て 4) /satoh と /satoh 以下全て	1) 共有フォルダに backup_folder2 を指定して backup_folder2 以下全て

重要

- ▶ バックアップ先の共有フォルダを既に使用しているものを指定したい場合でもサブフォルダが指定されていなければ、同じ共有フォルダは指定できません。バックアップ作成時は、異なる共有フォルダを新規に作成してください。
- ▶ 新規にバックアップ名を作成する時、バックアップ先のフォルダ指定をする際、既に他のバックアップ名で使用している「共有フォルダ」内にバックアップしたい場合は、「共有フォルダ」の配下に「サブフォルダ」を新規に作成することで、同じ「共有フォルダ」に対して複数のバックアップが可能になります。ただし、既に作成済みのバックアップで「共有フォルダ」の下にサブフォルダが指定されているときに限ります。指定されていない場合は「共有フォルダ」の指定はできません。
- ▶ バックアップを実施した際は、必ず結果をログで確認してください。
- ▶ エラーが発生した場合は E-mail 通知されますので、E-mail 通知機能を有効にすることをお勧めします。

- ▶ 対象装置に "Microsoft Windows Server 2003" OS の装置を指定した場合、対象装置のセキュリティポリシーを以下の様に設定する必要があります。
 - ・ Windows Server 2003 がドメインコントローラの場合
 - スタートメニューより、「管理ツール」 - 「ドメインコントローラセキュリティポリシー」を選択し、"既定のドメインコントローラセキュリティの設定" を表示して下さい。
 - 「セキュリティの設定」 - 「ローカルポリシー」 - 「セキュリティオプション」を選択して下さい。
 - [Microsoft ネットワークサーバー : クライアントが同意すれば、通信にデジタル署名を行う] をダブルクリック（又は、右クリックしてプロパティを選択）して下さい。 ↑「デジタル」「このポリシーの設定を定義する」にチェックをし、「無効」を選択して下さい。
 - [Microsoft ネットワークサーバー : 常に通信にデジタル署名を行う] をダブルクリック（又は、右クリックしてプロパティを選択）して下さい。「このポリシーの設定を定義する」にチェックをし、「無効」を選択して下さい。
 - 設定変更後はセキュリティポリシーの更新の為、PC の再起動（又は、PC のコマンドプロンプトを起動し「gpupdate」コマンドの実行）をして下さい。
 - ・ Windows Server 2003がスタンドアロンサーバ(ドメインコントローラではない)の場合
 - スタートメニューより、「管理ツール」 - 「ローカルセキュリティポリシー」を選択し、"既定のローカルセキュリティの設定" を表示して下さい。
 - 「セキュリティの設定」 - 「ローカルポリシー」 - 「セキュリティオプション」を選択して下さい。
 - [Microsoft ネットワークサーバー : クライアントが同意すれば、通信にデジタル署名を行う] をダブルクリック（又は、右クリックしてプロパティを選択）して下さい。 ↑「デジタル」「このポリシーの設定を定義する」にチェックをし、「無効」を選択して下さい。
 - [Microsoft ネットワークサーバー : 常に通信にデジタル署名を行う] をダブルクリック（又は、右クリックしてプロパティを選択）して下さい。「このポリシーの設定を定義する」にチェックをし、「無効」を選択して下さい。
 - 設定変更後はセキュリティポリシーの更新の為、PC の再起動（又は、PC のコマンドプロンプトを起動し「gpupdate」コマンドの実行）をして下さい。

設定例

■ コンピュータの共有設定



コンピュータの共有設定を行います。

※ 重要

- ▶ 共有フォルダを設定すると、同一ネットワーク内の他のユーザからアクセスが可能になります。
Windows 上で「アクセス許可」の設定を行うことをお勧めします。
ただし、ご使用の Windows の種類によっては、設定できない場合があります。

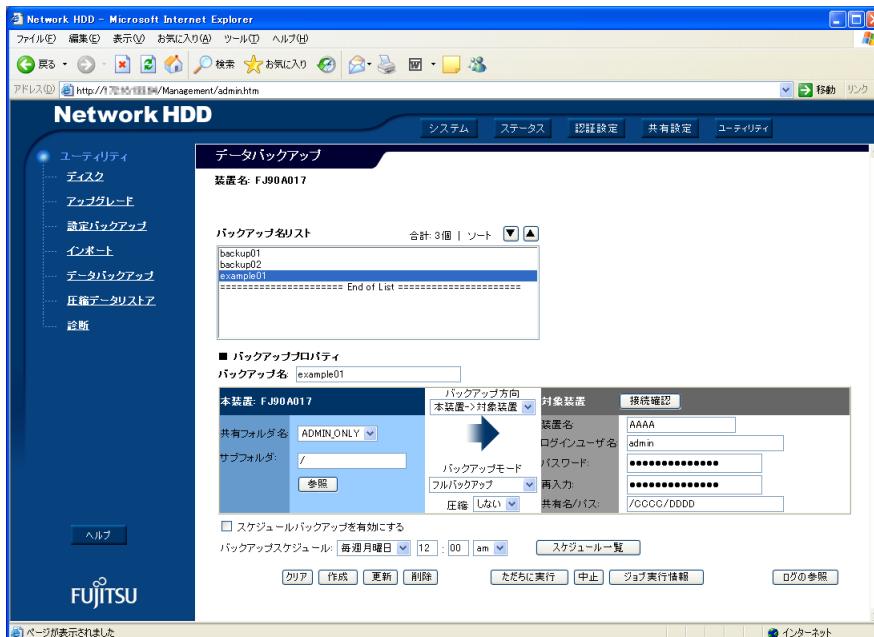
POINT

- ▶ Windows の共有設定の共有名の最後に「\$」マークを付けると、Windows のマイネットワーク上に共有名は表示されません。
例えば「共有名 : Backup\$」の場合、本装置の共有名 / パスには、「/Backup\$」と入力する必要があります。

■ 本装置のデータを他のコンピュータにバックアップする場合 (セルフバックアップ)

コンピュータ装置名 : AAAA

フォルダ構成 : C:/BBBB/CCCC/DDDD
CCCC フォルダを共有設定しており DDDD フォルダにバックアップ



バックアップ方向 : 「本装置→対象装置」を選択

共有フォルダ名 : バックアップ行う本装置の共有名を選択 (例 ADMIN_ONLY)

対象装置名 : バックアップ先の装置名 (例 AAAA)

ログインアカウント名 : AAAA のアカウント名 (例 admin)

パスワード : AAAA ユーザのパスワード (例 admin のパスワード)

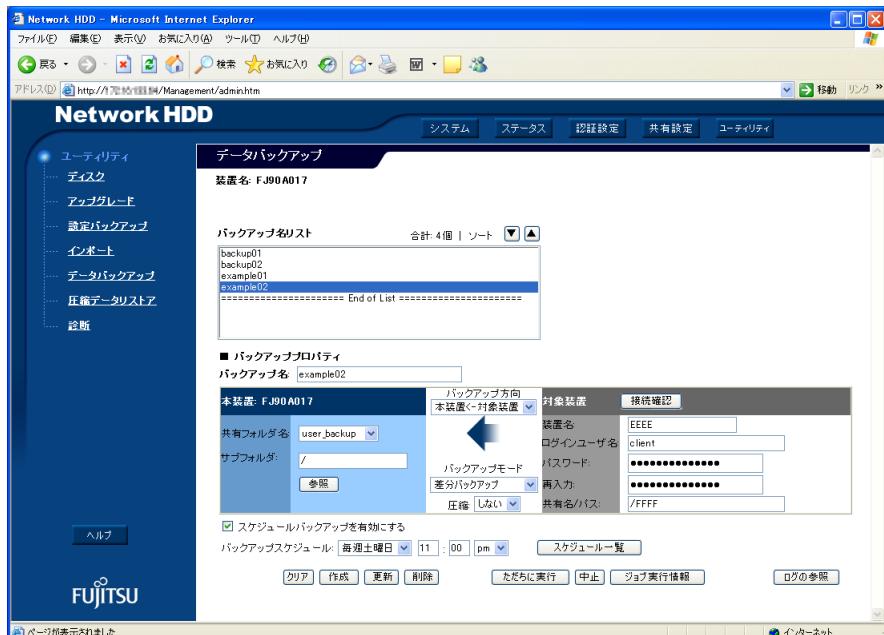
共有名 / パス : バックアップ先のフォルダ名 (例 /CCCC/DDDD)

■ クライアントコンピュータのデータを本装置にバックアップする場合 (クライアントバックアップ)

コンピュータ装置名 : EEEE

フォルダ構成 : C:/FFFF

FFFF フォルダを共有設定しており FFFF フォルダをバックアップ



バックアップ方向 : 「本装置←対象装置」を選択

共有フォルダ名 : データコピー先になる本装置の共有名を選択 (例 user_backup)

対象装置名 : バックアップ元のコンピュータ装置名 (例 EEEE)

ログインアカウント名 : EEEE のアカウント名 (例 client)

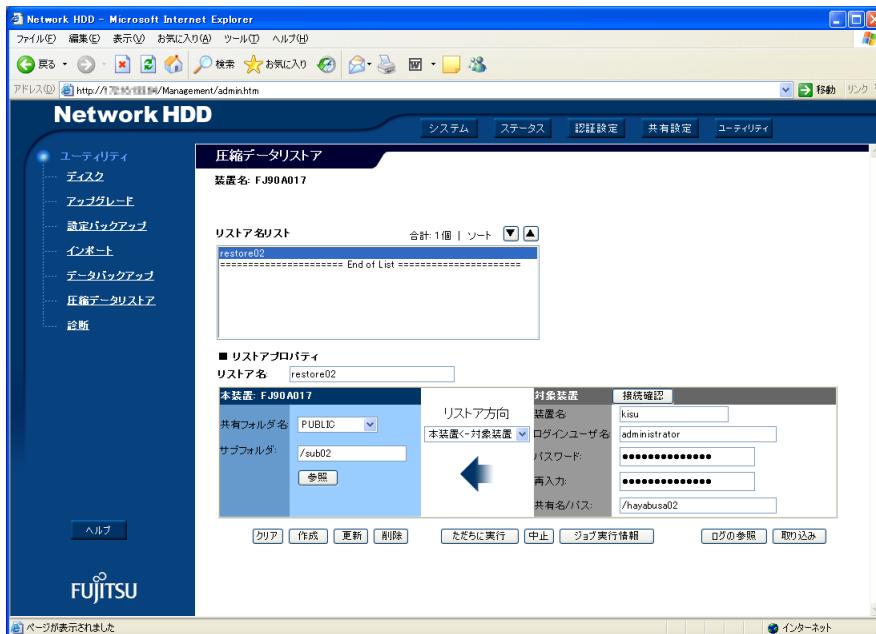
パスワード : EEEE ユーザのパスワード (例 client のパスワード)

共有名 / パス : バックアップするフォルダ名 (例 /FFFF)

ジョブ実行情報ボタン : クリックするとジョブ実行情報に移動

4 圧縮バックアップデータのリストア

データを圧縮してバックアップを行った場合は、Web Setup ユーティリティのユーティリティの圧縮データリストア画面からリストアすることができます。



バックアップした圧縮データをリストアします。

リストア名リスト

圧縮を行ったバックアップ名がリストア名として表示されます。リストア名は 100 個まで登録可能です。

リストアプロパティ

共有フォルダ名 : 本装置内の共有フォルダ名をプルダウンメニューから選択します。

POINT

- ウェルカム画面の「リストア」よりログインした場合には、ログインしたアカウントに対応した共有フォルダ名のみ設定できます。
- 本装置へのリストアを行う場合には、書き込み可能な共有フォルダ名を指定してください。読み取り専用を指定するとエラーになります。

サブフォルダ : 参照ボタンでサブフォルダを選択します。

リストア方向 : リストアを行う方向をプルダウンメニューから選択します。

対象装置名 : 対象装置の装置名または IP アドレスです。

ログインアカウント名 : 対象装置に登録されているアカウントです

POINT

- ▶ アカウント名は特殊な文字 (" / ¥ [] : ; | = . , + * ? < > ' ') は使用できません。
- ▶ 対象装置にアカウントがなければ作成してください。

パスワード	: 対象装置の装置に登録されているパスワードを入力してください。[再入力] にも同じパスワードを入力します。
共有名 / パス	: 対象装置の共有名およびパスを入力します。 入力は、以下のルールに基づいて行ってください。 1. 最初は / (または¥) マークからはじめてください。 2. / 共有名 / パスの順で入力してください。

POINT

- ▶ 共有名は、特殊な文字 (" / ¥ [] : ; | = . , + * ? < > ' ' \$ % @) は使用できません。
- ▶ 対象装置がコンピュータの場合には、共有設定を行ってください。
- ▶ 区切り文字には、/ マークおよび¥マークが使用できます。

□ ボタン操作

ソート	: リストア名のリストのソートを行います。 • ▲ 昇順にソートします。 • ▼ 降順にソートします。
クリア	: フォームのクリア、新しいリストア展開先の装置用に空のフォームを作成します。
作成	: リストア名を追加します。
更新	: 選択したリストア名の情報を更新します。
削除	: 選択したリストア名の情報を削除します。
ただちに実行	: 選択したリストアが直ちに実行されます。
中止	: 実行中のリストアを中止します。
ログの参照	: リストアのログを参照します。
取り込み	: バックアップ名リストから相対的なリストア名リストを作成します。
参照	: 本装置内の共有フォルダのサブフォルダを参照します。
接続確認	: 対象装置にアクセス可能かどうか確認します。

Memo

第 5 章

ユーザの環境設定

5

1 アカウントパスワードの変更	136
2 共有フォルダ／ファイルの参照	138
3 ディスクの使用	140

1 アカウントパスワードの変更

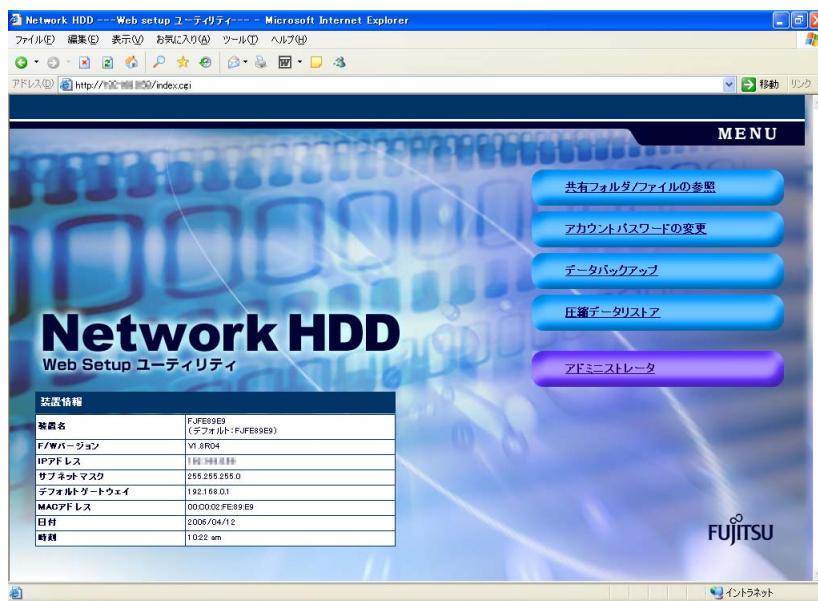
管理者が本装置上で有効なアカウント名を設定すると、Windows ユーザは次の手順に従ってパスワードを変更できます。

- 1 Web ブラウザを起動します。
- 2 [アドレス] ボックスに次のように入力します。

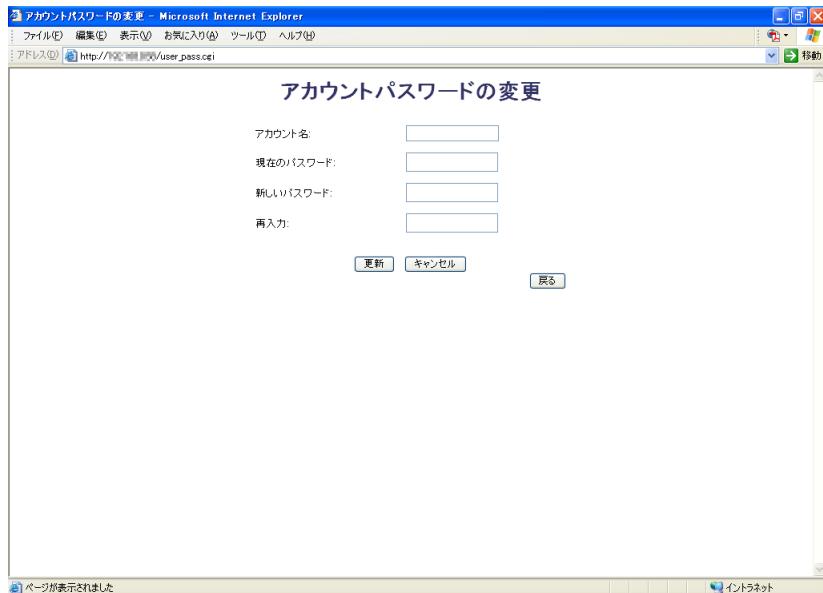
http://<ip_address>/
<ip_address> には、本装置の IP アドレスを指定します。
例：http://192.168.0.2/

POINT

- 本装置の IP アドレスが分からない場合は、管理者に問い合わせてください。



- 3** [アカウントパスワードの変更] ボタンをクリックして認証ダイアログが表示されたら、ユーザ名とパスワードを入力してログインします。



- 4** 既存のアカウント名、パスワード、新しいパスワードを入力します。

- 5** 設定を更新し、Web ブラウザを閉じます。

POINT

▶ パスワード管理

Windows, 本装置、他の装置で「アカウント名」、「パスワード」を同じにしておくと、何度も「アカウント名」、「パスワード」を入力しなくても済みますので便利です。

2 共有フォルダ／ファイルの参照

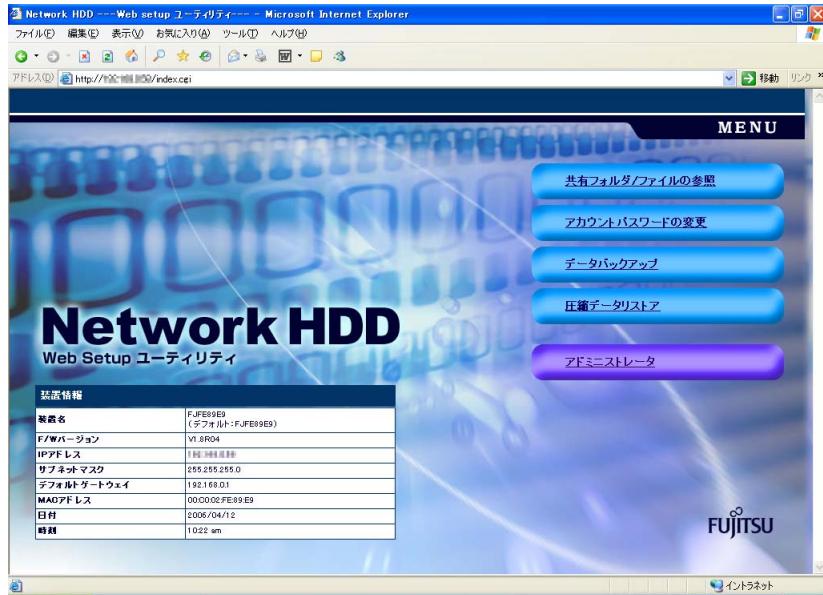
HTTP プロトコルで WEB ブラウザ表示をし、共有フォルダの中身を参照する場合に使用します。

- 1 Web ブラウザを起動します。
- 2 [アドレス] ボックスに次のように入力します。

`http://<ip_address>/`
<ip_address> には、本装置の IP アドレスを指定します。
例：`http://192.168.0.2/`

POINT

- ▶ 本装置の IP アドレスが分からない場合は、管理者に問い合わせてください。



- 3 [共有フォルダ／ファイルの参照] ボタンをクリックします。
- 共有フォルダ、ファイル、基本的な情報が表示されます。
ファイル管理には、エクスプローラ等のファイルマネージャを使用してください。

POINT

- ▶ OS によっては、参照したときに「プリンタ」が表示されることがあります。

重要

- ▶ 共有フォルダ内のファイル名に 2 バイト文字および半角カタカナを使用したファイルをダウンロードする場合は、ファイル名を付けてダウンロードしてください。
- ▶ 共有フォルダ内のフォルダ／ファイルの編集、生成、削除、リネームを行う場合は、Windows エクスプローラで本装置を指定し、共有フォルダにアクセスしてください。

- ▶ 1 ファイル 4GB 以上のファイルをダウンロードする場合は、エクスプローラの Windows 共有、または FTP でダウンロードしてください。

3 ディスクの使用

本装置のディスクを使用するには、ドライブをアクセスしたい本装置の各フォルダに「対応付ける」必要があります。そうすると「ドライブ」がすべての Windows プログラムで使用可能となります。手順は、次のとおりです。(Windows XP の場合)

- 1 デスクトップの [マイネットワーク] アイコンをダブルクリックします。
- 2 [マイネットワーク] の画面から、本装置を探します。一覧に表示されない場合は、[ワークグループのコンピュータを表示する] をダブルクリックします。次に本装置があるワークグループをダブルクリックします (デフォルトでは本装置は [Workgroup] 内にあります)。
- 3 [本装置の装置名] アイコンをダブルクリックします。
- 4 アクセス権のあるフォルダ (ディレクトリ) を右クリックし、[ネットワークドライブの割り当て] を選択します。
- 5 このフォルダのドライブを選択し、[ログオン時に再接続] ボックスをチェックします (これをしないと、Windows を終了したときに割り当てが失われます)。次に [完了] をクリックします。
- 6 このドライブは Windows エクスプローラで使用可能となり、すべての Windows アプリケーション内の「ファイルを開く」または「名前を付けて保存」ダイアログで使用できます。

POINT

- ▶ フォルダにアクセスするとき、パスワードの入力を求めるダイアログが表示されることがあります。
「Windows ログオン名」「パスワード」と本装置の「アカウント名」「パスワード」を同一にしてください。

第 6 章

装置廃棄時のデータ消去

6

■ 装置廃棄時のデータ消去

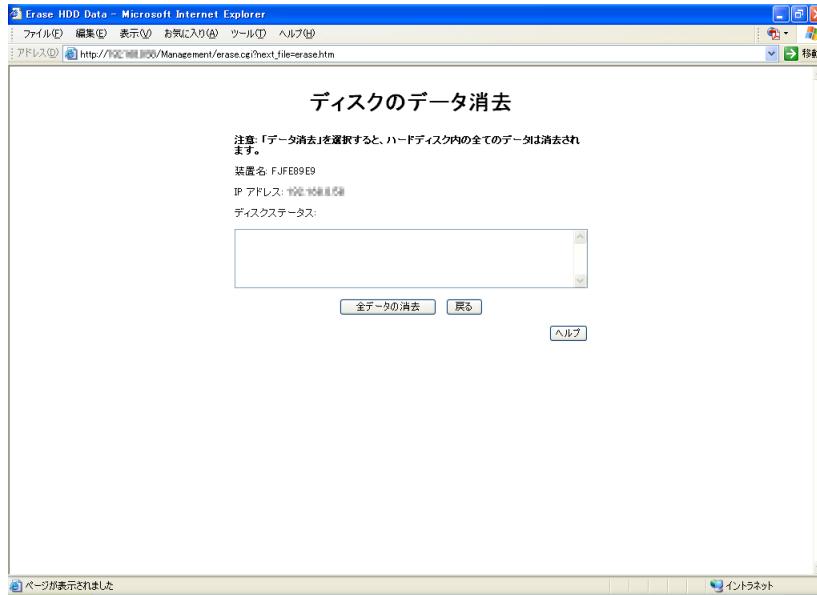
本装置を廃棄する場合に第三者へのデータ漏洩を防止するために、ディスクのデータ消去でハードディスク上のすべてのデータを消去することができます。

注) 超高度な技術によるデータの読み出しを 100% 防ぐことはできません。

重要

- ▶ 本操作を行うと、本装置は使用できなくなります。

本機能は、誤消去を防止するために Web Setup ユーティリティのメニューには登録されていません。また、一度消去するとデータは復旧できませんので、実行の判断は慎重に行ってください。



□ ディスクのデータ消去手順

1 Web Setup ユーティリティを起動します（起動方法は「第3章 運用と管理」を参照してください）。

2 [アドレス] ボックスに次のように入力します。

`http://<ip_address>/Management/erase_disk.htm`

<ip_address>には、本装置の IP アドレスを指定します。

例 : `http://192.168.0.2/Management/erase_disk.htm`

POINT

- ▶ アドレスは大文字と小文字は区別されますので、正確に入力してください。

3 [全データの消去] ボタンをクリックします。

実行確認のダイアログが 2 回表示されますので、実行する場合はそれぞれ [OK] ボタンを押してください。実行しない場合は、[キャンセル] を押してください。

4 データ消去が実行されます。

消去実行中は、ディスクステータスに進捗状況が表示されます。

POINT

- ▶ 全データの消去が終了するまでには、160GBHDDで約3時間30分、300GBHDDで約6時間かかります。
- ▶ データ消去後、再度本装置を利用したい場合は、「第7章 ディスクの初期化」を行ってください。

Memo

第7章

ディスクの初期化

7

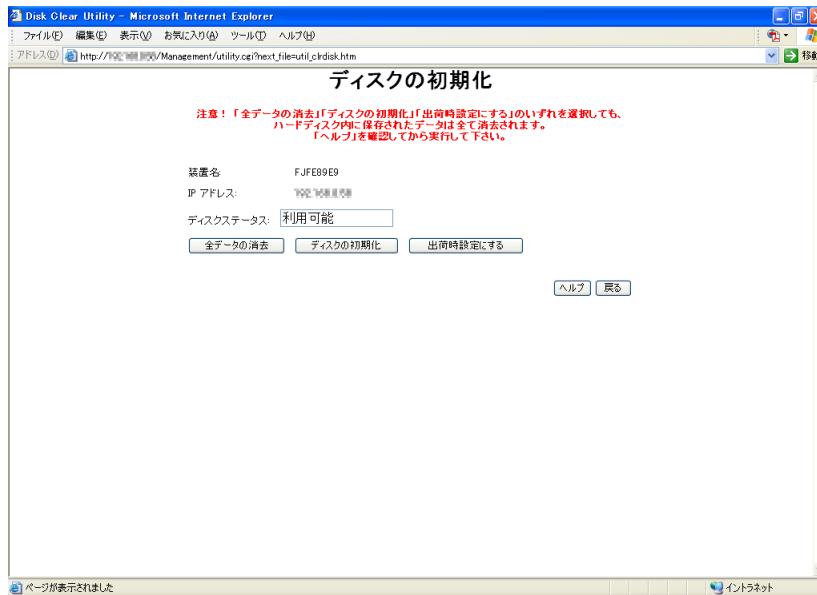
■ ディスクの初期化

本操作では、ディスクの初期化を行い、装置をご購入時の状態に戻すことができます。

■ 重要

- ▶ 本操作では簡易的に初期化を行なうだけですので、装置廃棄時には必ず「第6章 装置廃棄時のデータ消去」を行なってください。
- ▶ 本操作で初期化を行なった後は、データの復旧はできません。

本機能は、誤操作を防止するためにWebSetup ユーティリティのメニューには登録されていません。また、一度初期化するとデータは復旧できませんので、実行の判断は慎重に行なってください。



□ ディスクの初期化手順

1 WebSetup ユーティリティを起動します。(起動方法は「第3章 運用と管理」を参照してください。)

2 [アドレス] ボックスに次のように入力します。

`http://<ip_address>/Management/clear_disk.htm`

<ip_address>には、本装置のIPアドレスを指定します。

例 : `http://192.168.0.2/Management/clear_disk.htm`

POINT

- ▶ アドレスは大文字と小文字は区別されますので、正確に入力してください。

3 ボタンを選択し、クリックします。

[全データの消去] ボタン : ディスク内の全てのデータを消去します。アカウント、グループ、共有フォルダの設定についても消去されます。システムの設定はのこります。

[ディスクの初期化] ボタン : ディスクの初期化を行います。ディスクはフォーマットされ、全てのデータは消去されます。すでに装置用にフォーマットされているディスクを再フォーマットする場合は、アカウント、グループの設定は保持されます。システムの設定はのこります。

[出荷時設定にする] ボタン : 全てのシステム設定をご購入時の設定にリセットします。全てのアカウント、グループ、共有設定と全てのデータは削除されます。

4 ディスクの初期化が実行されます。

初期化終了時には、完了のダイアログが表示されます。

参考：ディスクの初期化による、ディスク内のデータ状況

	ディスク内 (ADMIN_ONLY フォルダ以下) に保存し たデータ	アカウント・グル ープ・共有フォルダの 設定情報	その他 (スケジュー ルスキャンディスク 等) の設定情報
全データの消去	消去	消去	保持
ディスクの初期化 (既 にフォーマットされ ている場合)	消去	保持	保持
出荷時設定にする	消去	消去	消去

Memo

第8章

トラブルシューティングと FAQ

8

□ NetworkHDD Setup ユーティリティで本装置が表示されない。

● 次の項目をチェックします。

- ・本装置が正しくインストールされ、LAN 接続にも問題なく、電源がオンであることを確認します。
- ・コンピュータと本装置が同じネットワークセグメント上にあることを確認します。
- ・コンピュータに TCP/IP ネットワークプロトコルがインストールされていることを確認します。Windows では [コントロールパネル] → [ネットワーク接続] を使用して行います。変更したいローカルエリア接続を右クリックして「プロパティ」を選択し、「この接続は次の項目を使用します。」ボックスの「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックし、インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティダイアログボックスを表示します。

全般のタブから、IP アドレスを設定します。

- ・LAN に DHCP サーバーがある場合は、[自動的に IP アドレスを取得する]を選択できます。
- ・そうでない場合は [IP アドレスを指定する] を選択し、[IP アドレス] と [サブネットマスク] の値を入力してください。本装置の IP アドレスをデフォルトで使用する場合に使用できる [IP アドレス] の範囲は 192.168.0.1 ~ 192.168.0.254 までで、[サブネットマスク] は 255.255.255.0 です (本装置のデフォルトの IP アドレスは 192.168.0.2 で、サブネットマスクは 255.255.255.0 です)。

各ホストには、固有の IP アドレスと同じサブネットマスクが必要なことに注意してください。

- ・Windows Vista の場合、次の設定が必要です。

1. 「コントロールパネル」 → 「ネットワークと共有センター」の「ネットワーク探索」と「ファイル共有」を有効にします。
「ネットワーク」の画面から、装置が検出されます。
2. 装置名をダブルクリックします。
共有フォルダにアクセスできます。

セキュリティ対策ソフトを導入した場合、ファイヤーウォールなどの設定の変更が必要となる場合があります。

□ NetworkHDD Setup ユーティリティを使用していて、本装置は一覧に表示されるが [管理 (Web ブラウザ)] ボタンが使用できない。

- 本装置のIPアドレスがお使いのコンピュータと同一ネットワークにない場合に起こります。
[基本設定] ボタンを使用して、本装置にお使いのコンピュータと同一ネットワークのIPアドレスとネットワークマスク (サブネットマスク) を割り当て、一覧を再表示します。

□ 本装置を設定したが、[マイネットワーク] に表示されない。

- [スタート] → [検索] → [コンピュータ名または人] → [ネットワーク上のコンピュータ] を使用して、コンピュータ名のボックスに本装置の名前を入力して検索してください。
これで表示されない場合は、お使いの PC の TCP/IP の設定を行ってください。

□ [ネットワークコンピュータ] で本装置の装置名をクリックすると、パスワードの入力を求める画面が表示される。

- 次の場合に表示されます。

- ・この共有フォルダへのアクセス権がありません、管理者に依頼し、アクセス許可をもらいます。

- ・コンピュータ上で使用したログイン名を本装置側で認識できず、guest のアクセス権を持つアカウントとして認識（初期設定値の場合、everyone グループ）されました。
この場合は次の方法で対処してください。
 - ・本装置上の共有フォルダへアクセス可能なグループを everyone と設定する
 - ・共有フォルダへアクセス可能な既存のグループに guest アカウントを追加する
 - ・共有フォルダへアクセス可能な既存のグループに、コンピュータへログイン時のアカウント名を追加する
- ・コンピュータ上で使用したログイン名を本装置が認識していますが、パスワードは認識されていません。
本装置のパスワードを入力するか、コンピュータへログイン時のパスワードと本装置のパスワードを同じ設定にしてください。

□ **Web インタフェースの使用時にデータによって画面に収まらないものがあり、スクロールバーも表示されない。**

- Web ブラウザまたは Windows で非常に大きなフォントを使用したときにのみ発生します。
フォントサイズを縮小してください。
 - ・Web ブラウザでは [表示] → [文字サイズ] を選択してフォントサイズを変更します。
 - ・Windows では [コントロールパネル] → [画面] → [デザイン] を使用してフォントサイズを変更します。[標準] または [大きいフォント] の 2 つの標準設定のどちらかが使用できます。

Memo

第9章

付録

9

1 装置仕様	154
2 ソフトウェア仕様	155
3 LCD パネル表示メッセージ一覧	157
4 フォルダ名 / ファイル名の文字制限	167
5 システムログ、E-Mail 通知、および SNMP トラップメッセージ一覧	168

1 装置仕様

型名	FMHD-30LR	FMHD-16LR3
外形寸法	180mm (W) × 331mm (D) × 166mm (H) (突起部を除く)	
質量	約 6.5kg	
動作温度	5 ~ 35 °C	
動作湿度	20 ~ 80%RH (結露しないこと)	
保存温度	0 ~ 50 °C	
保存湿度	8 ~ 80%RH (結露しないこと)	
ネットワークプロトコル	Microsoft ネットワーク (NetBIOS over TCP/IP) / FTP / NTP 管理ツール (HTTP、SMTP)	
同時アクセス数	50 クライアント	
ネットワークインターフェース	10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T オートネゴシエーション RJ45 コネクタ	
対応 OS	Windows Vista (Business, Home Premium, Home Basic)、Windows XP SP2 (Home Edition / Professional)、Windows 2000 SP4 (Professional/Server)、Windows Server 2003 SP1、Windows Me、Windows NT SP6 (Workstation 4.0/Server 4.0)	
対応ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 7.0、Internet Explorer 6.0SP2、Internet Explorer 6.0SP1、Internet Explorer 5.5SP2	
LED	背面 : LAN 接続ステータス × 2 前面 : ステータス LED × 6	
電源 ^{注1}	AC 100V 50 ~ 60Hz +2%-4% (入力波形は正弦波のみサポート)	
記憶容量 ^{注2}	300GB	160GB
消費電力	30W (R/W 時)	
エネルギー消費効率 ^{注3} / 区分名	0.049 [区分 : i]	0.092 [区分 : i]

注 1 : 矩形波が出力される機器 (UPS (無停電電源装置) や車載用 AC 電源等) に接続されると故障する場合があります。

注 2 : 記憶容量は、1GB=1000 × 1000 × 1000 バイト換算です。

注 3 : エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定法により測定された消費電力を、省エネ法で定める記憶容量で除いたものです。

2 ソフトウェア仕様

各パラメータの制限

	値	出荷時設定
装置名	14 バイトまでの ASCII 文字。 ただし以下の文字、およびすべてが数字の装置名は除く ' ~ ! # @ \$ ^ & * () = + [] { } ¥ ; : ' " . , < > / ? SPACE	FJxxxxxx (xxxxxx は、MAC アドレスの下位 3 バイト)
コメント	48byte までの ASCII 文字および日本語文字。 ただし以下の文字は除く " ¥ : , ' 注) システム設定のコメントは、日本語文字不可。	
ワークグループ名	15 バイトまでの ASCII 文字。 ただし以下の文字は除く " / ¥ [] : ; = . , + * ? < > '	Workgroup
E-Mail 通知先 アドレス [1] ~ [3]	48 バイトまでの E-mail アドレス (ASCII 文字) ただし以下の文字は除く " / ¥ [] : ; = . , + * ? < > '	
E-Mail 表題	48 バイトまでの ASCII 文字。 ただし以下の文字は除く " / ¥ [] : ; = . , + * ? < > '	
アカウント名	20 バイトまでの ASCII 文字。 ただし以下の文字を除く " / ¥ [] : ; = . , + * ? < > ' 小文字のみ使用可能 (自動変換) また、- や # で始まるアカウントは作成できません。	guest admin
パスワード	15 バイトまでの ASCII 文字 (スペースを含む)	
グループ名	20 バイトまでの ASCII 文字。 ただし以下の文字は除く " / ¥ [] : ; = . , + * ? < > ' ` \$ % @ また、小文字のみ使用可 (自動変換)。数字から始まるグループ、- や # で始まるグループは作成できません。	everyone administrator subadministrator

	値	出荷時設定
共有フォルダ名	12 バイトまでの ASCII 文字および日本語文字。 ただし以下の文字は除く "/ ¥ []:; =, + * ? < > ' ` \$ % @	ADMIN_ONLY : administrator グループ のみアクセス可 public : 全ユーザがアクセス可
ディレクトリ名	以下の 18 バイトの ASCII 文字を除く。 "/ ¥ []:; =., + * ? < > ' `	
サブフォルダ名	以下の 18 バイトの ASCII 文字を除く。 "/ ¥ []:; =., + * ? < > ' `	

POINT

▶ 文字制限

- ・パス全体の最大長は ASCII 文字の場合で 255 文字となります。
- ・登録アカウント最大数 255 (admin、guest 含む)
- ・作成グループ最大数 255 (administrator、subadministrator、everyone 含む)
- ・共有フォルダ最大数 255 (ADMIN_ONLY、PUBLIC 含む)

重要

- ▶ Windows 上でファイル名、フォルダ名に使用できない文字はご利用できません。

3 LCD パネル表示メッセージ一覧

■ ステータスマッセージ一覧

LCD パネルに表示されるステータスマッセージは次のとおりです。

表示	内容
Power OFF	ディスクの鍵を外した、または施錠しないまま起動した。
FAIL1	ディスクから一定時間応答が無い。
FAIL2	データの読み書き時にディスクで修復不可能なエラーが発生した。
FAIL3	データの読み書き時にディスクに要求されたコマンドが中断した。または、データの読み書き時にディスクに要求されたコマンドが認識できない。
ERR1	Rebuilding 実行時に、Source ディスクから読み込みできないセクタが見つかった。
ERR2	Rebuilding 実行時に、Source ディスクに要求されたコマンドが中断した。または、Rebuilding 実行時にディスクに要求されたコマンドが認識できない。
ERR3	<ul style="list-style-type: none"> 1つのディスクの動作中、データの読み書き時に読み込みできないセクタが見つかった。 2つのディスクで同時に、データの読み書き時に読み込みできないセクタが見つかった。 1つのディスクの動作中、要求されたコマンドが中断した、または要求されたコマンドが認識できない。 2つのディスクで同時に、要求されたコマンドが中断した、または要求されたコマンドが認識できない。
OFF	トレイの鍵がかけられていて、ディスクへの電源を停止している状態。片方のディスクが ERR2 の時にこの状態になる。

■ メッセージの組み合わせと対処方法

LCD メッセージ	装置の動作状況	説明	対処方法
Welcome Raid VX.XX.XX	電源投入時	電源投入直後にこの表示	—
DISK1 : OK DISK2 : OK	起動時 <通常>	電源投入後、問題なければ、通常この表示	—
Rebuilding... DISK1 => DISK2 **%	リビルディング <正常>	** はリビルディングの経過を表す	—
Rebuilding... DISK2 => DISK1 **%	リビルディング <正常>	** はリビルディングの経過を表す	—
DISK1 : OK DISK2 : Power OFF	起動時、DISK2 施錠せず	—	施錠すれば、Rebuilding DISK1 => DISK2 を開始します。
DISK1 : Power OFF DISK2 : OK	起動時、DISK1 施錠せず	—	施錠すれば、Rebuilding DISK2 => DISK1 を開始します。
DISK1 : Power OFF DISK2 : Power OFF	起動時、 DISK1,2 共に施錠せず	—	この状態では起動できない為、再起動が必要となります。強制終了し、再度電源投入を行ないます。強制終了は、電源スイッチを 4 秒以上押しつづけると実行されます。

LCD メッセージ	装置の動作状況	説明	対処方法
DISK1 : FAIL1 DISK2 : OK	運用中	DISK1 から一定時間応答がありませんでした。	DISK1 と DISK2 のデータが不一致となっている可能性がある為、DISK2 ⇒ DISK1 へ Rebuilding を実施して下さい。DISK1 の鍵をはずし、再度鍵をかけてください。自動的に Rebuilding が実施されます。 正常に Rebuilding が終了すれば、作業終了です。正常に Rebuilding が終了しなかった場合は、DISK1 の修理(交換)が必要です。 Rebuilding の実施方法はマニュアルの「第3章 5 RAID サブシステムの保守」をご覧下さい。
	Rebuilding 中	Target ディスク DISK1 から一定時間応答がありませんでした。Rebuilding は中止されます。	
DISK1 : FAIL3 DISK2 : OK	運用中	DISK1 に要求されたコマンドが中断したか、あるいは認識できませんでした。	正常に Rebuilding が終了すれば、作業終了です。正常に Rebuilding が終了しなかった場合は、DISK1 の修理(交換)が必要です。 Rebuilding の実施方法はマニュアルの「第3章 5 RAID サブシステムの保守」をご覧下さい。
DISK1 : OK DISK2 : FAIL1	運用中	DISK2 から一定時間応答がありませんでした。	DISK1 と DISK2 のデータが不一致となっている可能性がある為、DISK1 ⇒ DISK2 へ Rebuilding を実施して下さい。DISK2 の鍵をはずし、再度鍵をかけてください。自動的に Rebuilding が実施されます。 正常に Rebuilding が終了すれば、作業終了です。正常に Rebuilding が終了しなかった場合は、DISK2 の修理(交換)が必要です。 Rebuilding の実施方法は、マニュアルの「第3章 5 RAID サブシステムの保守」をご覧下さい。
	Rebuilding 中	Target ディスク DISK2 から一定時間応答がありませんでした。Rebuilding は中止されます。	
DISK1 : OK DISK2 : FAIL3	運用中	DISK2 に要求されたコマンドが中断したか、あるいは認識できませんでした。	正常に Rebuilding が終了すれば、作業終了です。正常に Rebuilding が終了しなかった場合は、DISK2 の修理(交換)が必要です。 Rebuilding の実施方法は、マニュアルの「第3章 5 RAID サブシステムの保守」をご覧下さい。
DISK1 : FAIL2 DISK2 : OK	運用中	データの読み書きが行われている際に、DISK1 で修復不可能なエラーが発生しました。	DISK1 の交換が必要です。スペアディスクで、DISK1 の修理(交換)を実施してください。
DISK1 : OK DISK2 : FAIL2	運用中	データの読み書きが行われている際に、DISK2 で修復不可能なエラーが発生しました。	DISK2 の交換が必要です。スペアディスクで、DISK2 の修理(交換)を実施してください。
Wrong Capacity DISK1 > DISK2	DISK1,2 の HDD 容量違い	物理的に 2 台の HDD の容量が違う場合	スペアディスクを確認し、本装置専用のスペアディスクでないものが入っていた場合は専用のものと入れ替えてください。
Wrong Capacity DISK2 > DISK1	DISK1,2 の HDD 容量違い	物理的に 2 台の HDD の容量が違う場合	
Rebuilding *... DISK1 ⇒ DISK2 XX%	Rebuilding 中	Source ディスクの DISK1 で読み込みできないセクタが見つかりました。ただし、Rebuilding は継続して実行されます。	電源を落とさずに、Rebuilding が終了するまでお待ちください。そのまま Rebuilding が完了すると、読み出せないセクタがあった為 DISK1:ERR1 となりますので、DISK1:ERR1、DISK2:OK の対処方法に従って下さい。
Rebuilding *... DISK2 ⇒ DISK1 XX%	Rebuilding 中	Source ディスクの DISK2 で読み込みできないセクタが見つかりました。ただし、Rebuilding は継続して実行されます。	電源を落とさずに、Rebuilding が終了するまでお待ちください。そのまま Rebuilding が完了すると、読み出せないセクタがあった為 DISK2:ERR1 となりますので、DISK1:OK、DISK2:ERR1 の対処方法に従って下さい。
Source FAIL1 DISK1 ⇒ DISK2	Rebuilding 中	Source ディスクの DISK1 から一定時間応答がありませんでした。Rebuilding は中止されます。	装置をシャットダウン後、DISK1 を 1 本で起動し、再度 Rebuilding を実施してください。正常に起動しなかった場合や、Rebuilding が正常に終了しなかった場合は、DISK1 の修理(交換)が必要です。この場合データは残りません。
DISK1 : OK DISK2 : ERR1	Rebuilding 完了後	Rebuilding 中に Source ディスクの DISK2 で読み込みできないセクタが見つかり、Rebuilding は完了しました。	スペアディスクでバックアップを実施している場合は、スペアディスクから、データの復旧が可能です。

LCD メッセージ	装置の動作状況	説明	対処方法
Source FAIL1 DISK 2 ⇒ DISK1	Rebuilding 中	Source ディスクの DISK2 から一定時間応答がありませんでした。Rebuilding は中止されます。	装置をシャットダウン後、DISK2 を 1 本で起動し、再度 Rebuilding を実施してください。正常に起動しなかった場合や、Rebuilding が正常に終了しなかった場合は、DISK2 の修理(交換)が必要です。この場合データは残りません。
DISK1 : ERR1 DISK2 : OK	Rebuilding 完了後	Rebuilding 中に Source ディスクの DISK1 で読み込みできないセクタが見つかり、Rebuilding は完了しました。	スペアディスクでバックアップを実施している場合は、スペアディスクから、データの復旧が可能です。
Rebuilding fail Source : DISK 1	Rebuilding 中	Source ディスクの DISK1 に要求されたコマンドが中断したか、あるいは認識できませんでした。Rebuilding は中止されます。	DISK1 の修理(交換)が必要な為、直ちにデータのバックアップを実施して下さい。尚、バックアップが正常に終了しない場合、データは残りません。装置を再起動しますと、DISK1 : ERR2 表示になります。スペアディスクでバックアップを実施している場合は、スペアディスクから、データの復旧が可能です。
Rebuilding fail Source : DISK 2	Rebuilding 中	Source ディスクの DISK2 に要求されたコマンドが中断したか、あるいは認識できませんでした。Rebuilding は中止されます。	DISK2 の修理(交換)が必要な為、直ちにデータのバックアップを実施して下さい。尚、バックアップが正常に終了しない場合、データは残りません。装置を再起動しますと、DISK2 : ERR2 表示になります。スペアディスクでバックアップを実施している場合は、スペアディスクから、データの復旧が可能です。
Rebuilding fail Target : DISK 1	Rebuilding 中	Target ディスクの DISK1 に要求されたコマンドが中断したか、あるいは認識できませんでした。Rebuilding は中止されます。	DISK1 が一時的に応答しなかった可能性があります。再度 DISK2 ⇒ DISK1 へ Rebuilding を実施して下さい。DISK1 の鍵をはずし、再度鍵をかけて Rebuilding を実施してください。自動的に Rebuilding が実施されます。正常に Rebuilding が終了すれば、作業終了です。Rebuilding が正常に終了しなかった場合は、DISK1 の修理(交換)が必要です。
Rebuilding fail Target : DISK 2	Rebuilding 中	Target ディスクの DISK2 に要求されたコマンドが中断したか、あるいは認識できませんでした。Rebuilding は中止されます。	DISK2 が一時的に応答しなかった可能性があります。再度 DISK1 ⇒ DISK2 へ Rebuilding を実施して下さい。DISK2 の鍵をはずし、再度鍵をかけて Rebuilding を実施してください。自動的に Rebuilding が実施されます。正常に Rebuilding が終了すれば、作業終了です。Rebuilding が正常に終了しなかった場合は、DISK2 の修理(交換)が必要です。
DISK1 : ERR2 DISK2 : OFF	「Rebuilding fail Source : DISK 1」 発生中	「Rebuilding fail Source : DISK1」発生後に、Source ディスクの DISK1 に要求されたコマンドが中断したか、認識できませんでした。または再起動しました。	DISK1 の修理(交換)が必要な為、ただちにデータのバックアップを実施してください。なお、バックアップが正常に終了しない場合、データは残りません。スペアディスクでバックアップを実施している場合は、スペアディスクから、データの復旧が可能です。
DISK1 : ERR2 DISK2 : Power OFF	「Rebuilding fail Source : DISK 1」 発生中	「Rebuilding fail Source : DISK1」発生後に、DISK2 の鍵を外した。	DISK1 の修理(交換)が必要な為、ただちにデータのバックアップを実施してください。なお、バックアップが正常に終了しない場合、データは残りません。スペアディスクから、データの復旧が可能です。

LCD メッセージ	装置の動作状況	説明	対処方法
DISK1 : OFF DISK2 : ERR2	「Rebuilding fail Source : DISK 2」 発生中	「Rebuilding fail Source: DISK 2」発生後に、Source ディスクの DISK2 に要求されたコマンドが中断したか、認識できませんでした。または再起動しました。	DISK2 の修理 (交換) が必要な為、ただちにデータのバックアップを実施してください。なお、バックアップが正常に終了しない場合、データは残りません。スペアディスクでバックアップを実施している場合は、スペアディスクから、データの復旧が可能です。
DISK1 : Power OFF DISK2 : ERR2	「Rebuilding fail Source : DISK 2」 発生中	Rebuilding fail Source : DISK 2 発生後に、DISK1 の鍵を外した。	
DISK1 : ERR3 DISK2 : ERR3	運用中	2 つのディスクで同時に、データの読み書き時に読み込みできないセクタが見つかりました。または要求されたコマンドが中断したか、認識できませんでした。	DISK1 と DISK2 の修理 (交換) が必要です。交換手順は次のとおりです。 1. DISK1 を単独で起動し、直ちにデータのバックアップと設定ファイルのバックアップを実施します。 2. DISK2 を単独で起動し、直ちにデータのバックアップと設定ファイルのバックアップを実施します。DISK1、DISK2 ともバックアップが正常に終了しない場合、データは残りません。スペアディスクでバックアップを実施している場合は、スペアディスクからデータの復旧が可能です。 3. DISK1 に新しいディスクを挿入して単独で起動し、取得できた設定ファイルをリストアします。 4. 再起動し、バックアップした DISK1 のデータを戻します。 5. バックアップした DISK2 のデータを戻します。それぞれのディスクからバックアップしたデータを戻すとき、最新のデータを確保するために各ディスクの差分をチェックしてください。 6. DISK2 に新しいディスクを挿入し、Rebuilding を実施します。
DISK1 : ERR3 DISK2 : FAIL2	一方の DISK にて障害発生中	DISK 2 にて障害発生中に、DISK1 にデータの読み書き時に読み込みできないセクタが見つかった、または要求されたコマンドに対して中断もしくは認識できませんでした。	DISK1 と DISK2 の修理 (交換) が必要です。交換手順は次のとおりです。 1. DISK1 を単独で起動し、直ちにデータのバックアップと設定ファイルのバックアップを実施します。バックアップが正常に終了しない場合、データは残りません。スペアディスクでバックアップを実施している場合は、スペアディスクからデータの復旧が可能です。 2. DISK1 に新しいディスクを挿入して単独で起動し、取得できた設定ファイルをリストアします。 3. 再起動し、バックアップした DISK1 のデータを戻します。 4. DISK2 に新しいディスクを挿入し、Rebuilding を実施します。

LCD メッセージ	装置の動作状況	説明	対処方法
DISK1 : ERR3 DISK2 : XXXX (XXXX は FAIL1,FAIL3,OFF)	一方の DISK に て障害発生中	DISK2 にて障害発生中に、DISK1 にデータの読み書き時に読み込みできないセクタが見つかった、または要求されたコマンドに対して中断もしくは認識できませんでした。	<p>DISK1 の修理 (交換) が必要です。交換手順は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. DISK1 を単独で起動し、直ちにデータのバックアップと設定ファイルのバックアップを実施します。 2. DISK2 を単独で起動し、直ちにデータのバックアップと設定ファイルのバックアップを実施します。DISK1、DISK2 ともバックアップが正常に終了しない場合、データは残りません。スペアディスクでバックアップを実施している場合は、スペアディスクからデータの復旧が可能です。 3. DISK1 に新しいディスクを挿入して単独で起動し、取得できた設定ファイルをリストアします。 4. 再起動し、バックアップした DISK1 のデータを戻します。 5. バックアップした DISK2 のデータを戻します。それぞれのディスクからバックアップしたデータを戻すとき、最新のデータを確保するために各ディスクの差分をチェックしてください。 6. DISK2 を挿入し、Rebuilding を実施します。正常に Rebuilding が終了すれば、作業終了です。正常に終了しなかった場合は、DISK2 の修理 (交換) が必要です。
DISK1 : FAIL2 DISK2 : ERR3	一方の DISK に て障害発生中	DISK1 にて障害発生中に、DIKS2 データの読み書き時に読み込みできないセクタが見つかった、または要求されたコマンドに対して中断もしくは認識できませんでした。	<p>DISK1 と DISK2 の修理 (交換) が必要です。交換手順は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. DISK2 を単独で起動し、直ちにデータのバックアップと設定ファイルのバックアップを実施します。バックアップが正常に終了しない場合、データは残りません。スペアディスクでバックアップを実施している場合は、スペアディスクからデータの復旧が可能です。 2. DISK1 に新しいディスクを挿入して単独で起動し、取得できた設定ファイルをリストアします。 3. 再起動し、バックアップした DISK2 のデータを戻します。 4. DISK2 に新しいディスクを挿入し、Rebuilding を実施します。

LCD メッセージ	装置の動作状況	説明	対処方法
DISK1 : XXXX DISK2 : ERR3 (XXXX は FAIL1,FAIL3,OFF)	一方の DISK に て障害発生中	DISK1 にて障害発生中に、DIKS2 データの読み書き時に読み込み できないセクタが見つかった、ま たは要求されたコマンドに対し て中断もしくは認識できませ んでした。	<p>DISK2 の修理 (交換) が必要です。交換手順 は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. DISK1 を単独で起動し、直ちにデータ のバックアップと設定ファイルのバッ クアップを実施します。 2. DISK2 を単独で起動し、直ちにデータ のバックアップと設定ファイルのバッ クアップを実施します。DISK1、DISK2 ともバックアップが正常に終了しない 場合、データは残りません。スペアディ スクでバックアップを実施している場 合は、スペアディスクからデータの復 旧が可能です。 3. DISK1 を挿入して単独で起動し、初期 化します。DISK1 を初期化後、再度 DISK1 にエラーが発生した場合は DISK1 の修理 (交換) が必要です。 4. 取得できた設定ファイルをリストアし ます。 5. 再起動し、バックアップした DISK1 の データを戻します。 6. バックアップした DISK2 のデータを戻 します。それぞれのディスクからバッ クアップしたデータを戻すとき、最新 のデータを確保するために各ディスク の差分をチェックしてください。 7. DISK2 に新しいディスクを挿入し、 Rebuilding を実施します。

LCD メッセージ	装置の動作状況	説明	対処方法
DISK1 : FAIL1 DISK2 : FAIL1	一方の DISK にて障害発生中	どちらかの DISK にて障害発生中に、もう一方の DISK から一定時間応答がありませんでした。	<ol style="list-style-type: none"> DISK1 を単独で起動し、直ちにデータのバックアップと設定ファイルのバックアップを実施します。 DISK2 を単独で起動し、直ちにデータのバックアップと設定ファイルのバックアップを実施します。DISK1、DISK2ともバックアップが正常に終了しない場合、データは残りません。スペアディスクでバックアップを実施している場合は、スペアディスクからデータの復旧が可能です。 DISK1 を挿入して単独で起動し、初期化します。DISK1 を初期化後、再度 DISK1 にエラーが発生した場合は DISK1 の修理（交換）が必要です。 取得できた設定ファイルをリストアします。 再起動し、バックアップした DISK1 のデータを戻します。 バックアップした DISK2 のデータを戻します。それぞれのディスクからバックアップしたデータを戻すとき、最新のデータを確保するために各ディスクの差分をチェックしてください。 DISK2 に新しいディスクを挿入し、Rebuilding を実施します。正常に Rebuilding が終了すれば、作業終了です。正常に終了しなかった場合は、DISK2 の修理（交換）が必要です。
DISK1 : FAIL1 DISK2 : FAIL2	一方の DISK にて障害発生中	DISK2 にて障害発生中に、DISK1 から一定時間応答がありませんでした。	<p>DISK2 の修理（交換）が必要です。交換手順は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> DISK1 を単独で起動し、直ちにデータのバックアップと設定ファイルのバックアップを実施します。バックアップが正常に終了しない場合、データは残りません。スペアディスクでバックアップを実施している場合は、スペアディスクからデータの復旧が可能です。 DISK1 を挿入して単独で起動し、初期化します。DISK1 を初期化後、再度 DISK1 にエラーが発生した場合は DISK1 の修理（交換）が必要です。 取得できた設定ファイルをリストアします。 再起動し、バックアップした DISK1 のデータを戻します。 DISK2 に新しいディスクを挿入し、Rebuilding を実施します。

LCD メッセージ	装置の動作状況	説明	対処方法
DISK1 : FAIL1 DISK2 : XXXX (XXXX は FAIL3,OFF)	一方の DISK に て障害発生中	DISK2 にて障害発生中に、DISK1 から一定時間応答がありません でした。	<ol style="list-style-type: none"> DISK1 を単独で起動し、直ちにデータ のバックアップと設定ファイルのバッ クアップを実施します。 DISK2 を単独で起動し、直ちにデータ のバックアップと設定ファイルのバッ クアップを実施します。DISK1、DISK2 ともバックアップが正常に終了しない 場合、データは残りません。スペアディ スクでバックアップを実施している場 合は、スペアディスクからデータの復 旧が可能です。 DISK1 を挿入して単独で起動し、初期 化します。DISK1 を初期化後、再度 DISK1 にエラーが発生した場合は DISK1 の修理（交換）が必要です。 取得できた設定ファイルをリストアし ます。 再起動し、バックアップした DISK1 の データを戻します。 バックアップした DISK2 のデータを戻 します。それぞれのディスクからバッ クアップしたデータを戻すとき、最新 のデータを確保するために各ディスク の差分をチェックしてください。 DISK2 に新しいディスクを挿入し、 Rebuilding を実施します。正常に Rebuilding が終了すれば、作業終了で す。正常に終了しなかった場合は、 DISK2 の修理（交換）が必要です。
DISK1 : FAIL2 DISK2 : FAIL1	一方の DISK に て障害発生中	DISK1 にて障害発生中に、DISK2 から一定時間応答がありません でした。	<p>DISK1 の修理（交換）が必要です。交換手順 は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> DISK2 を単独で起動し、直ちにデータ のバックアップと設定ファイルのバッ クアップを実施します。バックアップ が正常に終了しない場合、データは残 りません。スペアディスクでバッ クアップを実施している場合は、スペア ディスクからデータの復旧が可能で す。 DISK1 に新しいディスクを挿入して單 独で起動し、取得できた設定ファイル をリストアします。 再起動し、バックアップした DISK2 の データを戻します。 DISK2 を挿入し、Rebuilding を実施しま す。正常に Rebuilding が終了すれば、作 業終了です。正常に終了しなかった場 合は、DISK2 の修理（交換）が必要です。

LCD メッセージ	装置の動作状況	説明	対処方法
DISK1 : XXXX DISK2 : FAIL1 (XXXX は FAIL3,OFF)	一方の DISK に て障害発生中	DISK1 にて障害発生中に、DISK2 から一定時間応答がありません でした。	<ol style="list-style-type: none"> DISK1 を単独で起動し、直ちにデータ のバックアップと設定ファイルのバッ クアップを実施します。 DISK2 を単独で起動し、直ちにデータ のバックアップと設定ファイルのバッ クアップを実施します。DISK1、DISK2 ともバックアップが正常に終了しない 場合、データは残りません。スペアディ スクでバックアップを実施している場 合は、スペアディスクからデータの復 旧が可能です。 DISK1 を挿入して単独で起動し、初期 化します。DISK1 を初期化後、再度 DISK1 にエラーが発生した場合は DISK1 の修理（交換）が必要です。 取得できた設定ファイルをリストアし ます。 再起動し、バックアップした DISK1 の データを戻します。 バックアップした DISK2 のデータを戻 します。それぞれのディスクからバッ クアップしたデータを戻すとき、最新 のデータを確保するために各ディスク の差分をチェックしてください。 DISK2 を挿入し、Rebuilding を実施しま す。正常に Rebuilding が終了すれば、作 業終了です。正常に終了しなかった場 合は、DISK2 の修理（交換）が必要です。

LCD メッセージ	装置の動作状況	説明	対処方法
Rebuilding... DISK1 => DISK2 00%	リビルディング <異常>	Power OFF の状態で、HDD を入れ替えた場合、DISK2 がフラグ無し	SourceHDD を 1 本で起動した後にもう 1 本を挿入すると、後から入れたもう 1 本が Target となってリビルディングが開始されます。HDD の中身が不明な場合は、HDD を 1 本ずつで起動し中身を確認してください。その後、Source にしたい方の HDD で起動させ、もう 1 本をあとから入れリビルディングを実行します。
Rebuilding... DISK2 => DISK1 00%	リビルディング <異常>	Power OFF の状態で、HDD を入れ替えた場合、DISK1 がフラグ無し	
Rebuild Flag ERR DISK1 : S DISK2 : S	リビルディング <フラグ異常>	Power OFF の状態で、HDD を入れ替えた場合、DISK1,2 共にフラグが Source	
Rebuild Flag ERR DISK1 : T DISK2 : T	リビルディング <フラグ異常>	Power OFF の状態で、HDD を入れ替えた場合、DISK1,2 共にフラグが Target	
Rebuild Flag ERR DISK1 : T DISK2 : X	リビルディング <フラグ異常>	Power OFF の状態で、HDD を入れ替えた場合、DISK2 がフラグ無し	
Rebuild Flag ERR DISK1 : X DISK2 : T	リビルディング <フラグ異常>	Power OFF の状態で、HDD を入れ替えた場合、DISK1 がフラグ無し	
Rebuild Flag ERR DISK1 : S DISK2 : U	リビルディング <フラグ異常>	Power OFF の状態で、HDD を入れ替えた場合、DISK2 がフラグ不明	
Rebuild Flag ERR DISK1 : T DISK2 : U	リビルディング <フラグ異常>	Power OFF の状態で、HDD を入れ替えた場合、DISK2 がフラグ不明	
Rebuild Flag ERR DISK1 : X DISK2 : U	リビルディング <フラグ異常>	Power OFF の状態で、HDD を入れ替えた場合、DISK1 がフラグ無しで、DISK2 がフラグ不明	
Rebuild Flag ERR DISK1 : U DISK2 : S	リビルディング <フラグ異常>	Power OFF の状態で、HDD を入れ替えた場合、DISK1 がフラグ不明	
Rebuild Flag ERR DISK1 : U DISK2 : T	リビルディング <フラグ異常>	Power OFF の状態で、HDD を入れ替えた場合、DISK1 がフラグ不明	
Rebuild Flag ERR DISK1 : U DISK2 : X	リビルディング <フラグ異常>	Power OFF の状態で、HDD を入れ替えた場合、DISK1 がフラグ不明で、DISK2 がフラグ無し	
Rebuild Flag ERR DISK1 : U DISK2 : U	リビルディング <フラグ異常>	Power OFF の状態で、HDD を入れ替えた場合、DISK1,2 共にフラグ不明	

注：データのバックアップを実施する場合は、Administrator グループのアカウントで装置にアクセスし、「ADMIN_ONLY」フォルダ直下の全てのファルダとファイルを別装置にバックアップします。バックアップしたデータを戻す場合も同様に Administrator グループのアカウントで装置にアクセスし、「ADMIN_ONLY」フォルダ直下に、バックアップした全てのファルダとファイルを戻します。

- Source：リビルディング実行時のデータのコピー元です。
- Target：リビルディング実行時のデータのコピー先です。
- Flag (フラグ)：NetworkHDD では、2 台の HDD の片側にソース (Source) のフラグが付き、もう一方に (ターゲット) Target のフラグがつきます。
- Rebuilding (再構築)：リビルディングはソース (Source) からターゲット (Target) にデータがコピーされます。

4 フォルダ名 / ファイル名の文字制限

□ フォルダ名／ファイル名に使用可能な文字

JIS 第一水準、JIS 第二水準、および以下の機種依存文字。

□ フォルダ名／ファイル名に使用可能な機種依存文字

I II III IV V VI VII VIII IX X

靄靄青晴顙顙飯飼餒館馞麟

i ii iii iv v vi vii viii ix x

i ii iii iv v vi vii viii ix x

1 | Page



- ▶ 上記以外の機種依存文字は使用できません。

5 システムログ、E-Mail 通知、および SNMP トランプメッセージ一覧

「E-Mail、トランプ」欄が○の項目が E-mail 通知、SNMP トランプ送信されます。

■ ユーティリティ

□ スキャンディスク

ログ内容	意味	E-Mail トランプ	種類
ディスク使用中のため、スキャンディスクは実行しませんでした。	ディスク使用中でスキャンディスクの実行ができなかったとき (スケジュールスキャンディスク時)	○	警告
スキャンディスクに失敗しました。	ディスク不良などでスキャンディスクができなかったとき	○	エラー
スキャンディスクは中止されました。	スキャンディスクが中止されたとき		情報
スキャンディスクが終了しました。エラーは検出されませんでした。	スキャンディスクが正常に終了したとき		情報
ディスクの初期化に失敗しました。	ディスクフォーマットに失敗したとき	○	エラー
データクリアに失敗しました。	全データの消去に失敗したとき	○	エラー
データクリアが完了しました。	全データの消去が完了したとき		情報
出荷時設定へのリセットに失敗しました。	ご購入時の設定に戻すのを失敗したとき	○	エラー
出荷時設定へのリセットが完了しました！ システムは10秒後にリブートします。	ご購入時の設定に戻すのが完了したとき		情報

□ アップグレード

ログ内容	意味	E-Mail トランプ	種類
エラー：ファイル名かフォーマットが不正です。	アップグレードファイルが不正なものだったとき	○	エラー
アップグレードが完了しました。	アップグレードが完了したとき	○	情報
アップグレード中にエラーが発生しました。 再度実行してください。	アップグレード中にエラーが発生したとき	○	エラー
リストアが完了しました。システムは直ちにシャットダウンします。	RAID の F/W のアップグレードが完了したとき		情報

□ データバックアップ

ログ内容	意味	E-Mail トランプ	種類
バックアップ：バックアップ '%s' 終了	データバックアップが終了したとき		情報
バックアップ：バックアップ '%s' 失敗、ファイルサーバ '%s' に繋がりません。	サーバにつながらなかったとき	○	エラー
バックアップ：バックアップ '%s' でエラー発生、ファイル '%s' が読みません。	装置内のファイルが読み込めなかったとき	○	エラー

ログ内容	意味	E-Mail トランプ	種類
バックアップ: バックアップ '%s' でエラー発生、ファイル '%s' に書き込めません。	装置内のファイルが書き込み不可だったとき	○	エラー
バックアップ: バックアップ '%s' でエラー発生、ソースディレクトリ '%s' が開けません。	ソースディレクトリが開けなかったとき	○	エラー
バックアップ: バックアップ '%s' でエラー発生、バックアップ先のディレクトリ '%s' が開けません。	バックアップ先のディレクトリが開けなかったとき	○	エラー
バックアップ: バックアップ '%s' でエラー発生、ソースファイル '%s' にアクセスできません。	ソースファイルが開けなかったとき	○	エラー
バックアップ: バックアップ '%s' でエラー発生、バックアップ先のファイル '%s' にアクセスできません。	バックアップ先のファイルにアクセスできなかったとき	○	エラー
バックアップ: バックアップ '%s' でエラー発生、バックアップ先のパス '%s' にアクセスできません。	バックアップ先のパスにアクセスできなかったとき	○	エラー
バックアップ: バックアップ '%s' でエラー発生、バックアップ先のディレクトリ '%s' を削除できません。	バックアップ先のディレクトリが削除できなかったとき	○	エラー
バックアップ: バックアップ '%s' でエラー発生、バックアップ先のファイル '%s' を削除できません。	バックアップ先のファイルが削除できなかったとき	○	エラー
バックアップ: バックアップ '%s' 開始。	データバックアップが開始したとき		情報
バックアップ: スキャンディスク中です、バックアップ '%s' を続行できません。	スキャンディスク実行中にバックアップを実行しようとしたとき	○	警告
バックアップ: アップグレード中です、バックアップ '%s' を続行できません。	装置のファームウェアアップグレード中にバックアップを実行しようとしたとき	○	警告
バックアップ: ハードディスクの初期化中です、バックアップ '%s' を続行できません。	ハードディスクの初期化中にバックアップを実行しようとしたとき	○	警告
バックアップ: ハードディスクの消去中です、バックアップ '%s' を続行できません。	ハードディスクの消去中にバックアップを実行しようとしたとき	○	警告
バックアップ: バックアップ '%s' でエラーが発生しました、権限がありません。	対象フォルダやファイルに、権限がないなどの理由により、データアクセスができなかったとき	○	エラー
バックアップ: バックアップ '%s' でエラーが発生しました、バックアップ先装置のディスク容量が不足しています。	バックアップ先の空き容量が不足しているとき	○	エラー
バックアップ: バックアップ '%s' でエラーが発生しました、接続が切断されました。	バックアップ中に接続が切断されたとき	○	エラー
バックアップ: バックアップ '%s' で多くのエラーが発生しました。バックアップ '%s' を中止します。ログまたは E-Mail 通知されたエラー内容を確認の上対処し、再度実行してください。	エラーが大量に出たために、バックアップジョブを中止するとき	○	エラー
バックアップ: 多くのバックアップジョブが現在動作中です。バックアップ '%s' は中止されました。	同時に動作するバックアップジョブが多すぎるため、バックアップを中止するとき	○	エラー

□圧縮データリストア

ログ内容	意味	E-Mail トラップ	種類
リストア : リストア "%s" 終了	圧縮データリストアが終了したとき		情報
リストア : リストア "%s" 失敗, ファイルサー バ "%s" に繋がりません。	サーバにつながらなかったとき	○	エラー
リストア : リストア "%s" でエラー発生, ファ イル "%s" が読みません。	装置内のファイルが読み込めなかったとき	○	エラー
リストア : リストア "%s" でエラー発生, ファ イル "%s" に書き込めません。	装置内のファイルが書き込み不可だったと き	○	エラー
リストア : リストア "%s" でエラー発生, ソー スディレクトリ "%s" が開けません。	ソースディレクトリが開けなかったとき	○	エラー
リストア : リストア "%s" でエラー発生, リス トア先のディレクトリ "%s" が開けません。	リストア先のディレクトリが開けなかっ たとき	○	エラー
リストア : リストア "%s" でエラー発生, ソー スファイル "%s" にアクセスできません。	ソースファイルが開けなかったとき	○	エラー
リストア : リストア "%s" でエラー発生, リス トア先のファイル "%s" にアクセスできません。	リストア先のファイルにアクセスできな かったとき	○	エラー
リストア : リストア "%s" でエラー発生, リス トア先のパス "%s" にアクセスできません。	リストア先のパスにアクセスできなかっ たとき	○	エラー
リストア : リストア "%s" でエラー発生, リス トア先のディレクトリ "%s" を削除できま せん。	リストア先のディレクトリが削除できな かったとき	○	エラー
リストア : リストア "%s" でエラー発生, リス トア先のファイル "%s" を削除できません。	リストア先のファイルが削除できなかっ たとき	○	エラー
リストア : リストア "%s" 開始。	圧縮データリストアが開始したとき		情報
リストア : スキャンディスク中です, リスト ア "%s" を続行できません。	スキャンディスク実行中にリストアを実行 しようとしたとき	○	警告
リストア : アップグレード中です, リストア "%s" を続行できません。	装置のファームウェアアップグレード中に リストアを実行しようとしたとき	○	警告
リストア : ハードディスクの初期化中です, リストア "%s" を続行できません。	ハードディスクの初期化中にリストアを実 行しようとしたとき	○	警告
リストア : ハードディスクの消去中です, リ ストア "%s" を続行できません。	ハードディスクの消去中にリストアを実行 しようとしたとき	○	警告
リストア : リストア "%s" でエラーが発生しま した, 権限がありません。	対象フォルダやファイルに、権限がないなど の理由により、データアクセスができなかっ たとき	○	エラー
リストア : リストア "%s" でエラーが発生しま した, リストア先装置のディスク容量が不足 しています。	リストア先の空き容量が不足しているとき	○	エラー
リストア : リストア "%s" でエラーが発生しま した, ファイル "%s" が解凍できません。	圧縮ファイルが壊れているとき	○	エラー
リストア : リストア "%s" でエラーが発生しま した, 接続が切断されました。	リストア中に接続が切断されたとき	○	エラー
リストア : リストア "%s" で多くのエラーが発 生しました。リストア "%s" を中止します。ロ グまたはE-Mail通知されたエラー内容を確認 の上対処し、再度実行してください。	エラーが大量に出たために、リストアジョブ を中止するとき	○	エラー

ログ内容	意味	E-Mail ト ラッ プ	種類
リストア：多くのリストアジョブが現在動作中です。リストア "%s" は中止されました。	同時に動作するリストアジョブが多すぎるため、リストアを中止するとき	○	エラー
リストア：リストア "%s" 終了	圧縮データリストアが終了したとき		情報
リストア：リストア "%s" 失敗、ファイルサー バ "%s" に繋がりません。	サーバにつながらなかったとき	○	エラー

□ インポート

ログ内容	意味	E-Mail ト ラッ プ	種類
インポートされないアカウント - 存在するアカウント名です：%d 行目。	既に存在するアカウントがファイルの中にあったとき	○	警告
インポートされないアカウント - 不正なアカウント名です：%d 行目。	不正なアカウント名があったとき	○	警告
アカウント数が多すぎます、アカウントを追加できません。現在 %d 行目です。	アカウント数が合計 255 以上になったとき	○	警告
全てのアカウントのインポートが完了しました。	全てのアカウントのインポートが完了したとき		情報

□ 設定バックアップ

ログ内容	意味	E-Mail ト ラッ プ	種類
リストアが完了しました。システムは 10 秒後に自動的にリブートします。	設定ファイルのリストアが完了したとき		情報
エラー：対象装置のフォルダ "%s" への設定バックアップに失敗しました。権限がありません。	アカウントが存在しない、パスワードが間違っているなどの理由により、バックアップ先のフォルダにアクセスできなかったとき		エラー
エラー：対象装置のフォルダ "%s" への設定バックアップに失敗しました。	バックアップ先のフォルダが存在しなかつたとき		エラー
エラー：対象装置のフォルダ "%s" への設定バックアップに失敗しました。ディスク容量が不足しています。	バックアップ先の空き容量が不足しているとき		エラー
エラー：ファイル名かフォーマットが不正です。	リストアするファイル名が不正だったとき		エラー

■ 認証設定

□ NT ドメイン認証

ログ内容	意味	E-Mail ト ラップ	種類
プライマリドメインコントローラからのアカウントの取得に失敗しました。	プライマリドメインコントローラからのアカウントの取得に失敗したとき	○	エラー
プライマリドメインコントローラからのアカウントの取得が完了しました。	プライマリドメインコントローラからのアカウントの取得が完了したとき		情報
バックアップドメインコントローラ [1] からのアカウントの取得に失敗しました。	バックアップドメインコントローラ [1] からのアカウントの取得に失敗したとき	○	エラー
バックアップドメインコントローラ [1] からのアカウントの取得が完了しました。	バックアップドメインコントローラ [1] からのアカウントの取得が完了したとき		情報
バックアップドメインコントローラ [2] からのアカウントの取得に失敗しました。	バックアップドメインコントローラ [2] からのアカウントの取得に失敗したとき	○	エラー
バックアップドメインコントローラ [2] からのアカウントの取得が完了しました。	バックアップドメインコントローラ [2] からのアカウントの取得が完了したとき		情報

□ AD 認証

ログ内容	意味	E-Mail ト ラップ	種類
エラー：指定されたドメインが見つからない為、Active Directory ドメインへの接続に失敗しました。	AD 認証情報設定保存時にサーバが見つからないとき		エラー
エラー：指定されたドメインにアカウントが登録されていない為、Active Directory ドメインへの接続に失敗しました。	AD 認証情報設定保存時に管理者アカウントが登録されていないとき		エラー
エラー：パスワードが間違っている為、Active Directory ドメインへの接続に失敗しました。	AD 認証情報設定保存時に管理者アカウントのパスワードが間違っているとき		エラー
Active Directory サーバとの同期に成功しました。	AD 認証での同期に成功したとき		情報
Active Directory サーバとの同期に失敗しました。	AD 認証に失敗したとき (AD サーバと NAS で時刻に 5 分の差がある場合)		警告
エラー：Active Directory サーバが見つかりません。同期できません。	「ただちに同期」を実施時に、AD サーバが見つからないとき	○	エラー
エラー：Active Directory 認証に失敗しました。同期できません。	「ただちに同期」を実施時に、管理者アカウントが存在しなかったか、パスワードが間違っていて AD 認証が失敗したとき	○	警告
Active Directory サーバとの同期に成功しましたが、指定した OU に存在していないものがありました。	「ただちに同期」を実施時に、対象となるグループマッピングの中で指定されていくつかの OU が存在しなかったとき	○	警告
エラー：指定した OU %s は Active Directory に存在しません。	「ただちに同期」を実施時に、対象となるグループマッピングの中で指定されていくつかの OU が存在しなかったとき	○	警告
Active Directory サーバとの同期に成功しましたが、指定したローカルグループに存在していないものがありました。	「ただちに同期」を実施時に、対象となるグループマッピングの中で指定されていたローカルグループが存在しなかったとき		警告

■ その他

□ HDD エラーハンドリング

ログ内容	意味	E-Mail ト ラップ	種類
RAID : Rebuilding 中にソースディスク上で UNC エラーが見つかりました。問題のディスクは Disk%c。エラーレジスタ = 0x%02X	Rebuilding 中にソースディスクで UNC エラーが見つかったとき	○	エラー
RAID : Rebuilding 中にソースディスク上で ABRT/IDNF エラーが見つかりました。問題のディスクは Disk%c。エラーレジスタ = 0x%02X	Rebuilding 中にソースディスクで ABRT/IDNF エラーが見つかったとき	○	エラー
RAID : Rebuilding 中にターゲットディスク上で ABRT/IDNF エラーが見つかりました。問題のディスクは Disk%c。エラーレジスタ = 0x%02X。	Rebuilding 中にターゲットディスクで ABRT/IDNF エラーが見つかったとき	○	エラー
RAID : Rebuilding 中のソースディスク、または単一ディスクで運用中のディスクが10.5秒以上ビジーでした。問題のディスクは Disk%c。	Rebuilding 中にソースディスクから一定時間応答がなかったとき	○	エラー
RAID : Rebuilding 中のターゲットディスクが10.5秒以上ビジーでした。問題のディスクは Disk%c。	Rebuilding 中にターゲットディスクから一定時間応答がなかったとき	○	エラー
RAID : 通常運用中にディスク上で ABRT エラーまたは IDNF エラーが見つかりました。問題のディスクは Disk%c。	通常運用時にディスクで障害が発生したとき	○	エラー
RAID : 同時に双方のディスク上で ABRT エラーまたは IDNF エラーまたは UNC エラーが見つかりました。もしくは UNC エラーのリカバリサイクルで動作中のディスク上で UNC エラーが見つかりました。Disk1 エラーレジスタ = 0x%02X。Disk2 エラーレジスタ = 0x%02X。	通常運用時に双方のディスクで同時に障害が発生したとき	○	エラー
Disk 1 に障害が発生しました。Disk は 10.5秒以上ビジーでした。	通常運用時に Disk1 から一定時間応答がなかったとき	○	エラー
Disk 2 に障害が発生しました。Disk は 10.5秒以上ビジーでした。	通常運用時に Disk2 から一定時間応答がなかったとき	○	エラー
警告 : ディスクへのアクセスを停止します。	ディスクへのアクセスを停止したとき	○	警告

□ 起動終了

ログ内容	意味	E-Mail ト ラップ	種類
システムは起動しました。	装置に電源が投入されたとき	○	情報
システムは直ちにリブートします。	装置がリブートされたとき	○	情報
システムは直ちにシャットダウンします。	装置がシャットダウンされたとき	○	情報
システムは強制シャットダウンしました。	装置は強制的にシャットダウンされたとき	○	警告

□ UPS

ログ内容	意味	E-Mail トラップ	種類
%s から upsTrapOnBattery トラップを受信しました。	UPS から upsMIB のバッテリ駆動のトラップを受信したとき		情報
%s から jemaupsTrapOnBattery トラップを受信しました。	UPS から jemaMIB のバッテリ駆動のトラップを受信したとき		情報
%s から upsTrapOnBattery トラップを連続4回受信しました。本装置は 10 秒後にシャットダウンします。	UPS から upsMIB のバッテリ駆動のトラップを連続して4回(3分間)受信して装置がシャットダウンしたとき	○	警告
%s から jemaupsTrapOnBattery トラップを連続4回受信しました。本装置は 10 秒後にシャットダウンします。	UPS から jemaMIB のバッテリ駆動のトラップを連続して 4 回 (3 分間) 受信して装置がシャットダウンしたとき	○	警告
">%s' の UPS がバッテリ駆動の状態であることを確認しました。	UPS (APC 社の PowerNetMIB を使用) がバッテリ駆動であることを確認したとき		情報
">%s' の UPS が 3 分間バッテリ駆動の状態であることを確認しました。本装置は 10 秒後にシャットダウンします。	UPS (APC 社の PowerNetMIB を使用) が連続して 4 回 (3 分間) バッテリ駆動であったことを確認したとき	○	警告

□ NTP

ログ内容	意味	E-Mail トラップ	種類
同期失敗	NTP サーバとの同期に失敗したとき		警告
タイムサーバー %s の同期完了	NTP サーバとの同期が完了したとき		情報

□ その他

ログ内容	意味	E-Mail トラップ	種類
IP アドレス初期化の為にリセットボタンが押されました。	「IP RESET」が押されたとき	○	情報
ディスクの空き容量が不足しています。	ディスク使用量が 98% 以上になったとき、0:00、8:00、16:00 の段階でディスクの空き容量が足りないとき	○	警告
IP アドレスが競合しています！	同じ IP アドレスの装置が見つかったとき	○	警告

索引

記号

- 1000Base-T LED 20
- 100Base-TX LED 20
- 10Base-T LED 20

A

- admin 83
- administrator グループ 81
- ADMIN_ONLY 87
- AD 認証 69

C

- CD-ROM 17, 27
- CSV 16, 96

D

- DHCP LED 21
- DHCP クライアント 14, 29
- DISK FULL LED 22
- DISK LED 21
- DNS サーバ 43

E

- E-Mail 通知 37, 46
- ERROR LED 22
- everyone グループ 81

F

- F/W バージョン 57
- FMHD-30LR/16LR3 への接続 33
- FTP 45
- FTP 設定 36, 45

G

- guest 83
- GUEST 設定 38, 90

I

- IP RESET 19
- IP アドレス 29, 42, 57
- IP アドレスを指定する 29

J

- JavaScript 1.1 33

L

- LAN LED 21
- LAN ケーブル 26
- LAN コネクタ 20

M

- MAC アドレス 57
- Microsoft ネットワーク 44
- Microsoft ネットワーク設定 36, 44

N

- NetworkHDD Setup ユーティリティ 27
- NTP 設定 37, 50
- NT ドメイン認証 65

O

- Oplock 61

P

- PID 61
- PUBLIC 87

R

- RAID の LCD 21
- READY LED 21

S

- SNMP 設定 37, 51
- subadministrator グループ 81

T

- TCP/IP 設定 36, 41
- TCP/IP プロトコル 18

U

- UPS 設定 37, 52

W

Web Setup ユーティリティ	33
WINS サーバ	29
WINS を有効にする	29

あ行

アカウント	32
アカウント設定	38, 83
アカウントデータインポート機能	16
アカウントの作成	84
アカウントの編集、削除	84
アカウントパスワードの変更	136
アカウント名	84
アカウントリスト	83
空き領域	55
アクセス権	32
アクセス権限	89
アクセス権ボタン	82, 87
圧縮データリストア	39, 98
アップグレード	38, 94
インストール	27
インポート	38, 96

か行

拡張差分バックアップ	123
管理	28
[管理 (Web ブラウザ)] ボタン	33
基本設定	28
共有設定	37
共有設定リスト	38, 91
共有フォルダ	32, 38, 86
共有フォルダの作成	87
共有フォルダの編集、削除	88
共有フォルダ名	87
共有フォルダ名リスト	87
グループ	32
グループ設定	38, 80
グループの関連付け	85
グループの作成	81
グループリスト	81
ゲートウェイ	29
現在のステータス	57
現在の装置名	57
検索	28, 82, 85, 88
更新ボタン	87
コメント	28, 84, 88

さ行

削除ボタン	82, 87
作成ボタン	82, 87
サブネットマスク	29
差分バックアップ	15, 123
参照ボタン	87
時刻	40, 57
システム	36
システム情報	37, 57
システム設定	36, 40
自動的に IP アドレスを取得する	29
シャットダウン	37
シャットダウンスケジュール	48
終了	28
使用領域	55
所属アカウントボタン	82
ジョブ実行情報	37, 62
スキャンディスクスケジュール	93
ステータス	37
ステータス LED	21
セグメント	14
セッション情報	61
接続情報	37, 60, 61
設置	26
設定画面	28
設定バックアップ	38, 95
全二重	26
前面パネル	21
装置名	28
総容量	55

た行

タイムゾーン	28
直ちにシャットダウン	49
ディスク	38, 92
ディスク情報	37, 55
ディスクの使用	140
データ消去	16, 142
データバックアップ	15, 39, 97
デフォルト装置名	57
電源管理	48
電源ケーブル	19, 26
電源コネクタ	19
電源スイッチ	19, 48
電子メール	46
盗難防止用ロック穴	20

な行

認証選択 63

は行

バージョン情報 28
排他制御 61
背面パネル 19
パス 88
パスワード 84
バックアップ 118
バックアップ名 122, 124
パワーセーブ 48
半二重 26
日付 40, 57
日付 / 時間 29
ファイル情報 61
ブザー 23
フルバックアップ 15, 123
プロパティ 83, 87, 122
ヘルプ 28
ボタン操作 125

ま行

メインメニュー 36

や行

ユーティリティ 38

ら行

リブート 48
リフレッシュ 28
ルータ 29
ログのクリア 58
ログの参照 58

わ行

ワークグループ名 29

ハードディスクユニット-300GB/160GB (LAN/RAID)
FMHD-30LR/16LR3オンラインマニュアル

B5FY-7291-02 Z0-01

発行日 2007年4月
発行責任 富士通株式会社

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。